

# 2023 年度入試状況分析



## 国公立大分析 〈文部科学省発表確定志願者数+独自日程〉

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

### Point of Data

#### ①志願状況全体概況

- 一般選抜志願者数は国公立大全体では2年ぶりに減少、しかし減少率は共通テスト受験者の減少率を上回る
- 国立大、公立大ともに微減、特に公立大後期の減少率大

#### ②系統別志願状況

- 歯の増加が目立つ、一方で国際関係、人文科学、外国語、スポーツ・健康の減少が目立つ

#### ③地区別志願状況

- 前期は中国、北関東でやや増加、四国は大幅減少
- 後期は北海道が大幅増加、中国が大幅減少

#### ④共通テスト目標ライン別志願者数集計

- 前期はDグループがやや増加、後期はBグループがやや増加

#### ⑤2段階選抜実施状況

- 第1段階選抜不合格者数は前期で大幅増加、中期・後期は減少
- 大学別では、前期は東京大、中期・後期は宮崎大が最多

#### ⑥志願者数が多かった大学

- 志願者数最多は、2年連続大阪公立大

#### ⑦増減が目立った大学

- 増加数最多は横浜国立大、減少数最多は徳島大

#### ⑧難関国立10大学志願状況

- 4大学が増加、6大学が減少。10大学全体では前年度並
- 後期は募集人員が多い北海道大は増加、九州大は減少、神戸大は前年度並

#### ⑨医学部医学科志願状況

- 前期、後期いずれもやや増加で、前期は3年連続、後期も2年連続増加

#### ⑩大学別志願状況

### ①志願状況全体概況

- 一般選抜志願者数は国公立大全体では2年ぶりに減少、  
しかし減少率は共通テスト受験者の減少率を上回る

文部科学省が2月21日に発表した2023年度国公立大一般選抜の確定志願状況、及び独自日程の国際教養大、新潟県立大、叡啓大の大学発表の確定志願者数を合計すると426,300人で、前年度と比べて5,996人(99)

## 2023年度入試状況分析【国公立大】

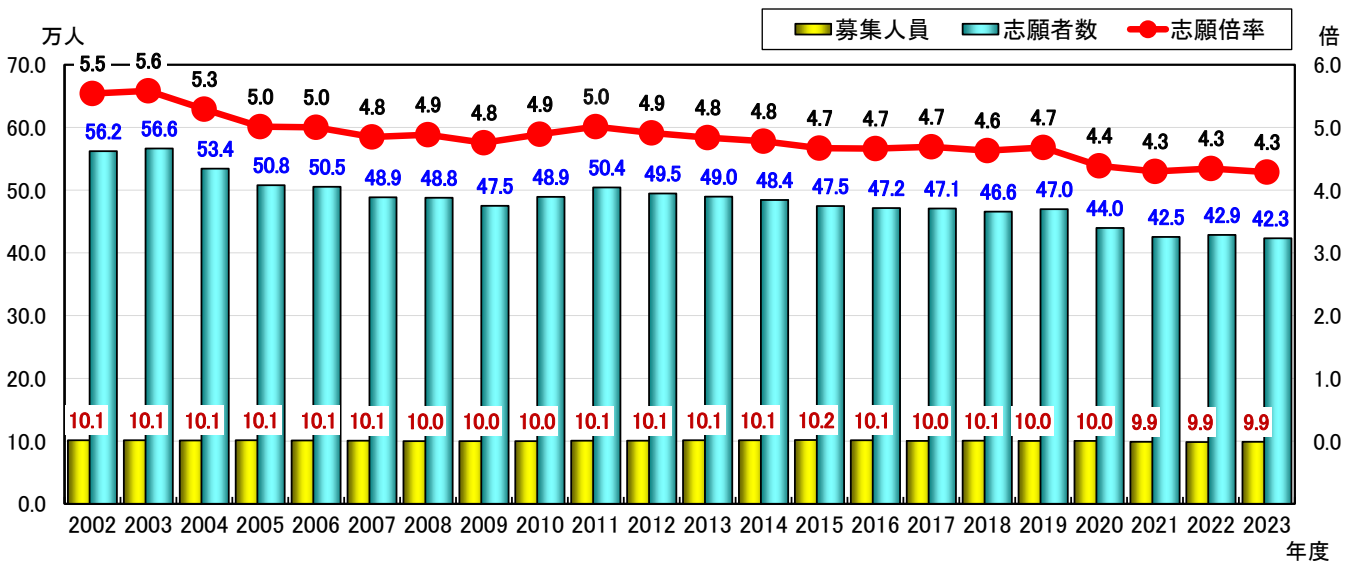
の微減で、前年度3年ぶりに増加しましたが再び減少に転じました。しかし、共通テスト受験者数の前年度対比指数97を上回りました。共通テストの平均点アップにより出願を諦めなかった受験生が増加したことに加えて、コロナ禍や国際情勢によって厳しい経済環境が予想される中で、国公立大志向の高まりが見られました。なお、募集人員は国公立大全体で92人の微増でしたので、志願倍率は4.37倍→4.30倍とほぼ前年度並でした。

### 〔設置・日程別志願状況〕

設置	日程	2023年度					2022年度		
		募集人員	志願者数	志願倍率	増減数	指数	募集人員	志願者数	志願倍率
国立	前期	63,648	176,484	2.77	-2,836	98	63,637	179,320	2.82
	後期	12,679	121,821	9.61	-1,812	99	12,962	123,633	9.54
	合計	76,327	298,305	3.91	-4,648	98	76,599	302,953	3.96
公立	前期	16,572	54,917	3.31	+274	101	16,308	54,643	3.35
	後期	3,388	38,246	11.29	-1,401	96	3,367	39,647	11.78
	中期	2,428	31,663	13.04	+283	101	2,349	31,380	13.36
	独自	378	3,169	8.38	-504	86	378	3,673	9.72
	合計	22,766	127,995	5.62	-1,348	99	22,402	129,343	5.77
合計	前期	80,220	231,401	2.88	-2,562	99	79,945	233,963	2.93
	後期	16,067	160,067	9.96	-3,213	98	16,329	163,280	10.00
	中期	2,428	31,663	13.04	+283	101	2,349	31,380	13.36
	独自	378	3,169	8.38	-504	86	378	3,673	9.72
	合計	99,093	426,300	4.30	-5,996	99	99,001	432,296	4.37

※専門職大学を除く。

### 〔確定志願者数推移〕（独自日程除く）



## □国立大、公立大ともに微減、特に公立大後期の減少率大

### 【設置別】

国立大……前期は2,836人(98)、後期は1,812人(99)のいずれも微減でした。この結果、国立大全体では4,648人(98)の微減となりました。共通テスト受験者数が14,332人(-2.9%)減少したことと比較すると減少率は小さく、共通テストの平均点アップと厳しい経済環境を背景とした国公立大志向の高まりの影響が見られました。

公立大……前期は274人(101)、中期は283人(101)のいずれも微増でしたが、後期は1,401人(96)のやや減少、独自は504人(86)の減少でした。中期は厳しい経済環境を背景とした国公立大志向の高まりから受験機会を確保したいという動向が表れました。また、系統への人気が高い公立4大学の薬学部

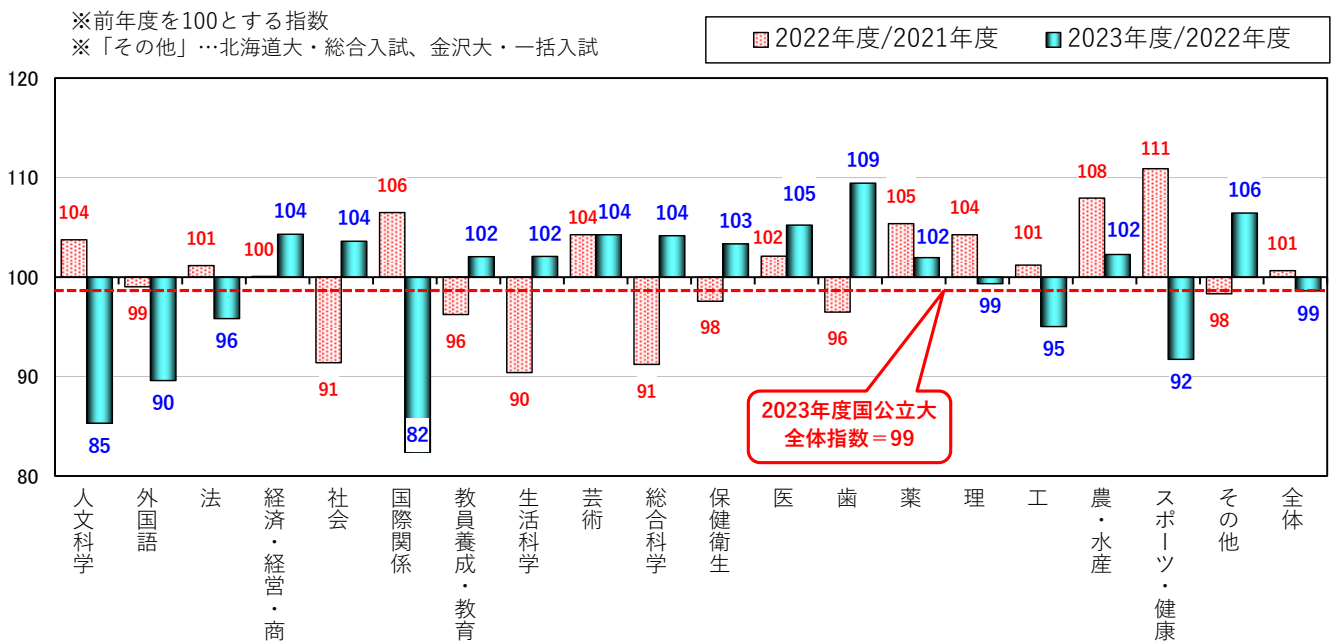
が含まれていることも影響しました。一方で、共通テストの全国平均点はアップしましたが、地方公立大を志望するボリュームゾーンの受験生にとっては、問題文の分量の多さなどから高得点がとりにくいといった側面があり、目標ラインが比較的高い後期の志願者数減少といった影響が出ました。この結果、公立大全体では 1,348 人(99)の微減で、4 年連続減少しました。

【日程別】

- 前期……募集人員は前年度並ですが、志願者数は 2,562 人(99)減少したため、志願倍率は 2.93 倍→2.88 倍とわずか 0.05 ポイントですがダウンし、前年度に引き続き 3 倍を下回りました。
- 後期……志願者数は 3,213 人(98)の減少でしたが、後期廃止の大学もあり、募集人員も 262 人(98)減少したため、志願倍率は 10.00 倍→9.96 倍とわずか 0.04 ポイントダウンに留まりました。
- 中期……志願者数は 283 人(101)の増加で、微増ですが 2 年連続増加しました。しかし、募集人員も 79 人(103)のやや増加だったため、志願倍率は 13.36 倍→13.04 倍に 0.32 ポイントダウンしました。
- 独自……志願者数は 504 人(86)の減少で、志願倍率は 9.72 倍→8.38 倍に 1.34 ポイントダウンしました。

②系統別志願状況

□歯の増加が目立つ、一方で国際関係、人文科学、外国語、スポーツ・健康の減少が目立つ



その他(106)を除く 18 系統では、歯(109)は増加、医(105)、経済・経営・商(104)、社会(104)、総合科学(104)、芸術(104)、保健衛生(103)はやや増加でした。一方で、国際関係(82)、人文科学(85)は大幅減少、外国語(90)、スポーツ・健康(92)は減少、工(95)、法(96)はやや減少でした。これら以外の 5 系統は前年度並でした。なお、2 年連続増加したのは芸術、医、薬、農・水産の 4 系統、2 年連続減少したのは外国語のみでした。これらの系統が人気の高低が継続している系統といえます。

文系では、コロナ禍や世界的な物価上昇による渡航費用の高騰などの影響を受けて留学への逆風が強い国際関係(82)は大幅減少、外国語(90)も 4 年連続減少でした。募集単位がいずれかの系統に含まれる東京外国語大(72)はこれらの系統への低い人気に加えて、共通テストで数学を 1 科目受験から 2 科目受験に変更したことも影響し大幅減少しました。職業直結型とは言い難い人文科学(85)も厳しい経済状況から大幅減少でした。一方で、職業直結型の地方大の福祉関係の学部・学科が含まれる社会(104)はやや増加、コロナ禍の中で底を打った感のある経済・経営・商(104)は今後の経済状況の反転を期待してやや増加しました。

理系では、工(95)は福井大(62)、山形大(64)など地方国立大の減少が影響しやや減少、理(99)は微減ですが、全体指数(99)と同じでした。農・水産(102)はウクライナ問題にも関連して世界的な食糧問題が注目を受ける

中で、系統への高い人気が続く前年度増加の反動はなく微増でした。

メディカル系では、コロナ禍により話題性が依然と高いことに加えて、厳しい経済環境の中で、職業直結型の系統であることから高い人気が維持されています。前年度やや減少の反動も加わった歯(109)は増加、医(105)、保健衛生(103)はやや増加、薬(102)は微増でした。

文理いずれからも志願者がいる系統では、スポーツ・健康(92)は前年度増加の反動で減少しました。一方で、総合科学(104)、芸術(104)はやや増加、教員養成・教育(102)、生活科学(102)は微増でした。ただし、いずれも前年度減少率を下回る増加率で人気アップしたとは言えない状況です。

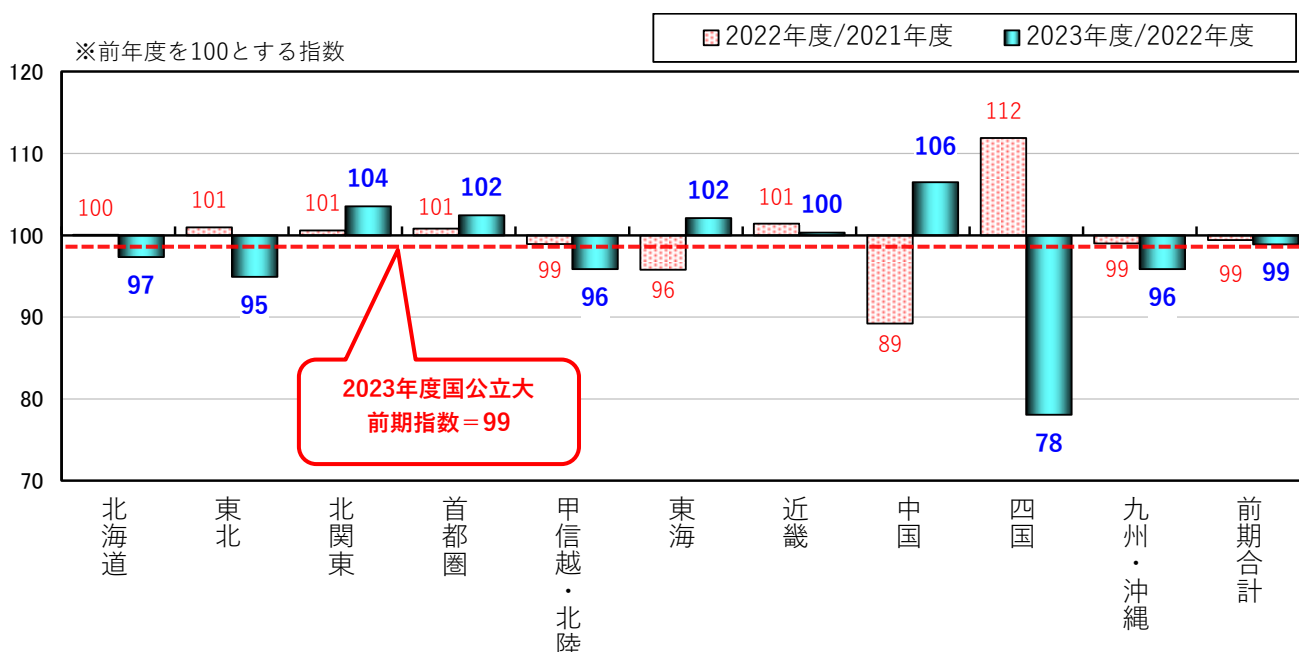
最後に、複数の系統を一括募集するその他(106)は、金沢大一括入試が文理合計で(188)と激増したことが影響してやや増加となりました。

### ③地区別志願状況

#### □前期は中国、北関東でやや増加、四国は大幅減少

〔地区別志願者指数〕

<前期日程>



前期は、前年度はコロナ禍による強い地元志向による流入減の影響を受けていた北関東(104)がやや増加、首都圏(102)、東海(102)が微増でした。一方で、東北(95)、九州・沖縄(96)、甲信越・北陸(96)、北海道(97)がやや減少と「地方から関東へ」という流れの復活が見られました。中国(106)、四国(78)はそれぞれ、前年度の反動による増減ですが、瀬戸内海を挟んで対面する両地区は、前年度は共通テストの平均点ダウンの結果、より目標ラインの低い大学が多い四国に流れたのが、今年度はより目標ラインの高い大学が多い中国へと戻った様子が見られます。

これらの動きの中で近畿(100)は2年連続前年度並です。もともと京阪神地区という大都市部が含まれており、国公立大志向の高い地区であることから地区外からの流入の影響が小さいことがうかがえます。

○北海道(97)…13 大学中 7 大学が減少。

【志願者数】北海道教育大(+150 人)は増加数が大きかった。一方で、北見工業大(-235 人)は前年度増加数が大きかった反動で減少数が大きかった。

【志願者指数】旭川医科大(150)は大幅増加。一方で、北見工業大(53)、公立はこだて未来大(63)、釧路公立大

(80)は大幅減少。

○東北(95)…17 大学中 12 大学が減少。

【志願者数】福島県立医科大(+374 人)は前年度減少数が大きかった反動で増加数が大きかった。一方で、弘前大(-406 人)は前年度全国で 2 番目に大きな増加数だった反動で減少。次いで、秋田県立大(-330 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】山形県立保健医療大(156)、福島県立医科大(155)、宮城教育大(138)、青森公立大(130)は大幅増加。一方で、秋田県立大(62)、会津大(74)、弘前大(83)、岩手県立大(85)は大幅減少。

○北関東(104)…10 大学中 7 大学が増加。

【志願者数】高崎経済大(+349 人)は前年度減少数が大きかった反動で増加。次いで、前橋工科大(+254 人)の増加数が大きかった。一方で、茨城大(-322 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】前橋工科大(158)、高崎経済大(127)、群馬県立県民健康科学大(125)は大幅増加。一方で、茨城大(85)は大幅減少。

○首都圏(102)…既存の 19 大学中 10 大学が増加。新設の川崎市立看護大を除いても(101)。

【志願者数】横浜国立大(+1027 人)は 2021 年度にコロナ禍対策で個別試験実施取りやめで大幅減少、前年度から個別試験復活で 2 年連続増加、さらに鉄道新線開通による交通利便の向上も影響し、全国最大の増加数。一方で、東京外国語大(-391 人)は系統への人気の低さに加えて、共通テストで数学を 1 科目受験から 2 科目受験に変更した負担増で大幅減少。

【志願者指数】横浜国立大(136)、東京農工大(132)、埼玉県立大(115)は大幅増加。一方で、東京外国語大(74)、電気通信大(84)は大幅減少。

○甲信越・北陸(96)…23 大学中 14 大学が減少。

【志願者数】富山大(+364 人)は前年度減少数が大きかった反動で増加数が大きかった。一方で、福井大(-516 人)は前期では全国で 3 番目に減少数が大きかった。次いで、新潟大(-304 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】前年度新設の三条市立大(206)は独自日程募集停止で志願者が移行したことで倍増以上、長野大(136)、公立諏訪東京理科大(123)は大幅増加。一方で、新潟県立看護大(29)は 7 割以上の激減、敦賀市立看護大(39)、福井大(62)、福井県立大(70)、長野県看護大(73)、長野県立大(74)は指数 80 を下回る大幅減少。

○東海(102)…14 大学中 8 大学が減少。

【志願者数】名古屋工業大(+327 人)、名古屋市立大(+279 人)、浜松医科大(+236 人)は増加数が大きかった。一方で、岐阜大(-259 人)は減少数が大きかった。

【志願者指数】豊橋技術科学大(171)、浜松医科大(169)、名古屋工業大(123)、名古屋市立大(121)は大幅増加。一方で、三重県立看護大(71)は大幅減少。

○近畿(100)…24 大学中 13 大学が減少。

【志願者数】前年度旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大(+759 人)の増加が目立った。次いで、京都大(+207 人)の増加数が大きかった。一方で、滋賀医科大(-271 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】神戸市看護大(141)、奈良県立医科大(139)、兵庫教育大(119)、大阪公立大(116)、京都市立芸術大(115)は大幅増加。一方で、滋賀医科大(51)はほぼ半減、福知山公立大(64)、奈良県立大(69)、和歌山県立医科大(81)、奈良教育大(84)、滋賀大(85)は大幅減少。

○中国(106)…既存の 16 大学中 8 大学が増加。新設の周南公立大を除くと(102)。

【志願者数】山口大(+908 人)の増加数が目立ち、前期では全国で2番目に大きかった。一方で、島根県立大(-327 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】新見公立大(172)、山陽小野田市立山口東京理科大(148)、山口大(135)は大幅増加。一方で、島根県立大(64)、山口県立大(66)、広島市立大(72)、鳥取大(75)は大幅減少。

○四国(78)… 9 大学中 8 大学が減少。

【志願者数】増加数が目立った大学はなく、香川大(-761 人)、徳島大(-568 人)、高知大(-358 人)、愛媛大(-343 人)、高知工科大(-307 人)の減少が目立った。

【志願者指数】鳴門教育大(54)、香川県立保健医療大(66)、香川大(67)、高知工科大(72)、徳島大(78)は指数 80 を下回る大幅減少。

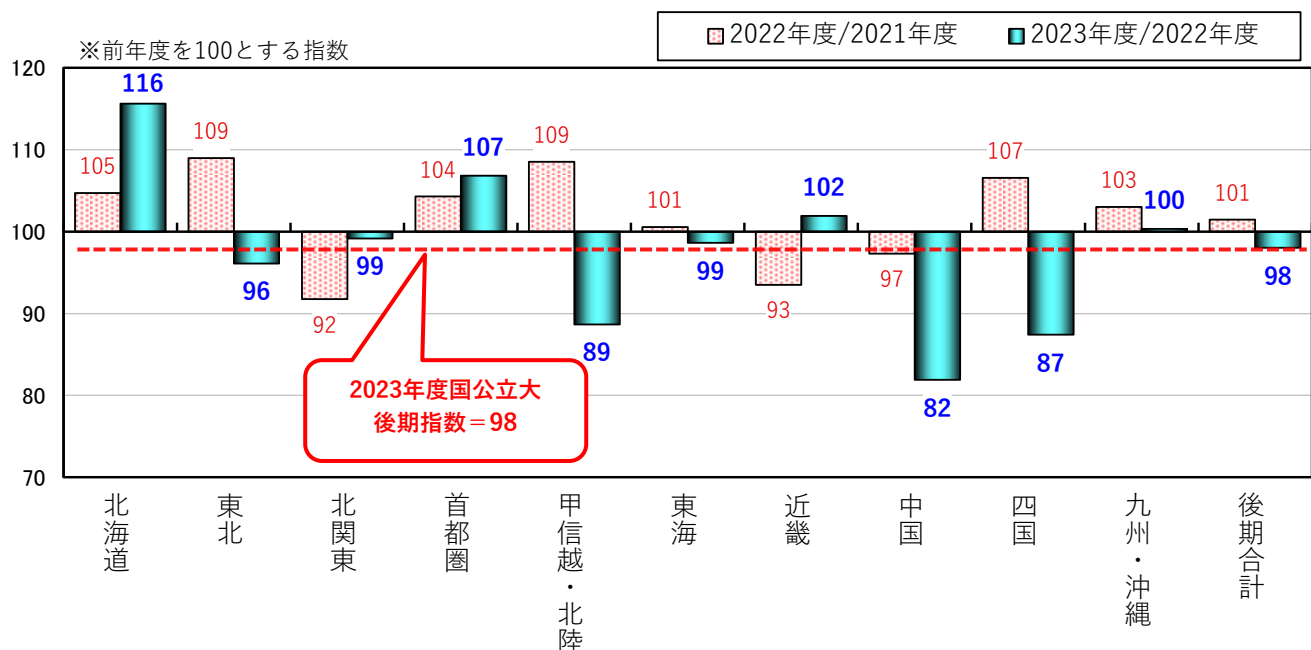
○九州・沖縄(96)…23 大学中 16 大学が減少

【志願者数】鹿児島大(+272 人)の増加数が大きかった。一方で、長崎大(-308 人)、北九州市立大(-269 人)、大分大(-231 人)、佐賀大(-225 人)、熊本県立大(-211 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】学科新設した名桜大(120)が大幅増加。一方で、沖縄県立芸術大(58)、宮崎公立大(64)、熊本県立大(71)、鹿屋体育大(78)は大幅減少。

## □後期は北海道が大幅増加、中国が大幅減少

<後期日程>



後期も、前期同様に首都圏(107)の増加。一方で、甲信越・北陸(89)の減少、東北(96)のやや減少と「地方から関東へ」という流れの復活が見られました。特に、首都圏では前期で理系学部を志願した受験生からの併願も多くあった一橋大・ソーシャル・データサイエンス新設の影響もありました。

北海道(116)は大幅増加ですが、北海道大<後>の志願者数が 2012 年度以来 11 年ぶりに 4,500 人を上回った影響が大きく、コロナ禍による遠距離移動敬遠の動きが緩和され、後期募集人員が多い北海道大へ併願先を求める動きがありました。

四国(87)は前年度の反動による減少です。中国(82)は岡山大が後期募集を停止した影響がありましたが、岡山大を除いても(89)と減少しました。共通テスト平均点アップの影響で、前年度あった近畿(102)からの流入が減少したことが考えられます。

東海(99)は 2 年連続前年度並でした。

○北海道(116)…9 大学中 6 大学が増加。

【志願者数】室蘭工業大(+638 人)、北海道教育大(+468 人)、北海道大(+417 人)、旭川医科大(+361 人)の増加数が大きかった。一方で、北見工業大(-510 人)の減少が目立った。

【志願者指数】旭川医科大(215)は倍増以上、室蘭工業大(180)、北海道教育大(131)、帯広畜産大(126)、名寄市立大(117)は大幅増加。一方で、北見工業大(60)、公立ほこだて未来大(77)は大幅減少。

○東北(96)…14 大学中 7 大学ずつの増減。

【志願者数】福島大(+347 人)の増加数が大きかった。一方で、岩手県立大(-630 人)はソフトウェア情報が中期日程になったため大きく減少。次いで、東北大(-325 人)、岩手大(-320 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】宮城教育大(164)、青森公立大(153)、福島大(124)、秋田県立大(119)、秋田大(119)が大幅増加。一方で、岩手県立大(47)はソフトウェア情報が中期日程になったため半減以下、岩手大(72)、山形県立米沢栄養大(75)、東北大(76)は大幅減少。

○北関東(99)…7 大学中 4 大学が増加。

【志願者数】高崎経済大(+600 人)、群馬大(+332 人)の増加が目立った。一方で、茨城大(-942 人)は後期では全国で 2 番目に大きい減少数だった。

【志願者指数】高崎経済大(178)、群馬大(129)は大幅増加。一方で、茨城大(79)は大幅減少。

○首都圏(107)…既存の 15 大学中 8 大学が増加。新規の川崎市立看護大を除いても(106)。

【志願者数】横浜国立大(+1,144 人)は後期でも全国で志願者増加数が最大。次いで、新規にソーシャル・データサイエンスを設置した一橋大(+495 人)の増加数が目立った。一方で、東京外国語大(-406 人)は系統への低い人気で減少数が大きかった。次いで、電気通信大(-296 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】新規に理での募集を行った横浜市立大(228)は 2.2 倍増以上。東京医科歯科大(154)、一橋大(140)、横浜国立大(126)は大幅増加。一方で、東京外国語大(69)は系統への低い人気から大幅減少。

○甲信越・北陸(89)…13 大学中 9 大学が減少。

【志願者数】信州大(+538 人)の増加数が大きかった。一方で、福井大(-807 人)、山梨大(-558 人)、新潟大(-411 人)、富山大(-319 人)といった大学の減少数が大きかった。

【志願者指数】石川県立看護大(164)、信州大(120)、石川県立大(118)が大幅増加。一方で、敦賀市立看護大(52)、新潟県立看護大(54)はほぼ半減、福井大(60)、山梨大(78)、山梨県立大(79)は指数 80 を下回る大幅減少。

○東海(99)…13 大学中 7 大学が減少。

【志願者数】静岡大(+565 人)、三重大(+416 人)、名古屋工業大(+401 人)の増加数が大きかった。一方で、岐阜大(-1,202 人)は後期では全国で最大の減少数。次いで、静岡文化芸術大(-314 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】浜松医科大(233)は 2.3 倍増以上、医(医)の募集枠を地域枠から一般枠に変更した名古屋大(200)は倍増、名古屋工業大(119)、三重大(118)、静岡大(116)は大幅増加。一方で、静岡文化芸術大(60)、岐阜大(61)、愛知県立大(82)は大幅減少。

○近畿(102)…20 大学中 12 大学が増加。

【志願者数】大阪公立大(+598 人)、滋賀大(+452 人)の増加数が大きかった。一方で、京都工芸繊維大(-685 人)、奈良県立医科大(-314 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】奈良教育大(127)、大阪公立大(126)、滋賀大(125)、神戸市外国語大(124)、和歌山県立医科大

## 2023 年度入試状況分析【国公立大】

(116)は大幅増加。一方で、福知山公立大(57)、京都工芸繊維大(57)、京都府立大(75)、奈良県立医科大(76)は大幅減少。

○中国(82)…13 大学中 9 大学が減少。後期募集停止の岡山大を除くと(89)。

【志願者数】山口大(+528 人)の増加数が大きかった。一方で、鳥取大(-651 人)、広島市立大(-442 人)、広島大(-413 人)、島根大(-398 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】新見公立大(182)、山口大(119)は大幅増加。一方で、広島市立大(59)、鳥取大(71)、岡山県立大(71)、島根大(78)、福山市立大(79)、公立鳥取環境大(80)、広島大(85)は大幅減少。

○四国(87)…9 大学中 5 大学が減少。

【志願者数】愛媛大(+320 人)の増加数が大きかった。一方で、徳島大(-916 人)は後期では全国で 3 番目の減少数だった。次いで、高知大(-360 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】高知県立大(127)、愛媛大(117)は大幅増加。一方で、香川県立保健医療大(38)は激減、鳴門教育大(59)、高知大(65)、徳島大(70)は大幅減少。

○九州・沖縄(100)…21 大学の中 11 大学が増加。

【志願者数】宮崎大(+1,102 人)は後期では全国で 2 番目に増加数が大きかった。一方で、九州大(-331 人)、熊本県立大(-303 人)は減少数が大きかった。

【志願者指数】宮崎県立看護大(147)、宮崎大(142)、名桜大(126)、沖縄県立看護大(125)、福岡県立大(120)、沖縄県立芸術大(119)、福岡教育大(117)、熊本大(115)は大幅増加。一方で、大分県立看護科学大(53)はほぼ半減、熊本県立大(75)、宮崎公立大(76)は大幅減少。

### <中期日程>

今年度から公立大中期としての募集となった周南公立大、前期・後期を前期・中期に変更した岩手県立大・ソフトウェア情報の 2 大学を除いた 24 大学中 14 大学が減少。

【志願者数】静岡県立大(+358 人)、兵庫県立大(+282 人)、三条市立大(+209 人)の増加数が大きかった。一方で、公立諏訪東京理科大(-785 人)、大阪公立大(-393 人)、山陽小野田市立山口東京理科大(-318 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】三条市立大(175)は激増、静岡県立大(148)、長野県立大(127)は大幅増加。一方で、公立諏訪東京理科大(51)はほぼ半減、長野県看護大(65)、新見公立大(71)、公立小松大(73)、岐阜薬科大(76)は指数 80 を下回る大幅減少。

### <独自日程>

国際教養大、新潟県立大、叡啓大の 3 大学

【志願者数】国際教養大が志願者数 837 人で志願倍率は 8.4 倍、新潟県立大は志願者数が 2,311 人で志願倍率は 8.6 倍、叡啓大が 21 人の志願者数で志願倍率は 2.1 倍だった。国際教養大(-178 人)、新潟県立大(-321 人)、叡啓大(-5 人)のいずれも減少。

【志願者指数】叡啓大(81)、国際教養大(82)は大幅減少、新潟県立大(88)は減少。いずれも 10%以上の減少率。



## 2023 年度入試状況分析【国公立大】

次に、地区別に増減数が 150 人以上かつ増減率が 15%以上の大学をまとめました。

### ○北海道

前期	減少	北見工業大	-235 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、2 学科とも大幅減少。
		公立はこだて未来大	-188 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。
後期	増加	室蘭工業大	+638 人	4 年連続増加。理工(創造工)(227)は 2.2 倍増以上、理工(システム理化)(149)は大幅増加。
		北海道教育大	+468 人	系統への人気は低いですが、3 年連続減少の反動で大幅増加。
		旭川医科大	+361 人	医(医)(241)は 2 年連続倍増以上。医(看護)(153)は 3 年連続減少の反動で大幅増加。
	減少	北見工業大	-510 人	前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、2 学科とも大幅減少。

### ○東北

前期	増加	福島県立医科大	+374 人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。医(154)は大幅増加で前年度の反動による増減が継続。
	減少	弘前大	-406 人	前年度大幅増加の反動で減少。医(保健)(50)は半減。教育(68)、理工(72)は大幅減少。人文社会科学(90)、医(心理支援科学)(92)は減少。
		秋田県立大	-330 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。システム科学技術(44)は半減以下。生物資源科学(90)も減少。
		会津大	-237 人	大幅減少で 3 年連続減少。方式別では、共通テストが 5 教科 8 科目型の一般選抜 B(44)は半減以下、共通テストが理科のみの一般選抜 A(79)も大幅減少。
後期	増加	福島大	+347 人	2 年連続減少の反動で大幅増加。理工(211)は前年度大幅減少の反動で倍増以上。農(106)はやや増加。
		秋田大	+270 人	3 年ぶりに後期復活の医(保健)に加え、理工(140)、医(医)(129)が大幅増加。医(保健)を除いても 2 年連続増加。
		秋田県立大	+170 人	2 年連続増加。システム科学技術(119)は前年度減少の反動で大幅増加、生物資源科学(119)は 2 年連続大幅増加。
		宮城教育大	+164 人	前年度は課程改組により教育(学校教育教員養成/初等教育)のみの募集となったが、この課程のみでも大幅減少した反動で大幅増加。
	減少	岩手県立大	-630 人	ソフトウェア情報の後期を募集停止し、中期に変更。この募集停止されたソフトウェア情報を除いても(63)の減少。総合政策(50)は半減、看護(60)は大幅減少。
		東北大	-325 人	2 学部のみ募集だが、理(73)は前年度増加の反動で大幅減少、経済(79)は大幅減少で 2 年連続減少。一橋大・ソーシャル・データサイエンス新設で前期難関大からの後期併願先の選択肢増加も影響。
		岩手大	-320 人	農(65)は(共同獣医)の後期募集停止で大幅減少、(共同獣医)を除いても前年度増加の反動で(83)の大幅減少。理工(54)は前年度大幅増加の反動でほぼ半減。
独自	減少	国際教養大	-178 人	4 年連続減少。志願者数は 1,000 人を下回った。志願倍率も 10.2 倍→8.4 倍にダウン。

### ○北関東

前期	増加	高崎経済大	+349 人	2 年連続大幅減少の反動で大幅増加。地域政策(145)は 5 年ぶりに増加。経済(110)は 2 年連続増加。
		前橋工科大	+254 人	学科改組 2 年目で大幅増加。工(情報・生命工)(194)はほぼ倍増、工(建築・都市・環境工)(126)も大幅増加。
後期	増加	高崎経済大	+600 人	前年度大幅減少の反動で激増。
		群馬大	+332 人	共通テストの平均点アップにより後期出願を諦めない層の増加で大幅増加。理工(150)、情報(142)、医(保健)(141)はいずれも大幅増加。
	減少	茨城大	-942 人	2 年連続増加の反動で大幅減少。農(59)は前年度 3 倍増以上の反動で大幅減少、教育(76)は 2 年連続減少。工(81)、理(82)は大幅減少。人文社会科学(89)は減少。

## ○首都圏

前期	増加	横浜国立大	+1,027 人	2021 年度はコロナ禍対策として個別試験実施を取りやめた結果、大幅減少。これに対して、前年度から個別試験復活で 2 年連続増加。さらに鉄道新線開通による交通利便の向上も影響し、前期では全国最多の増加。
		東京農工大	+393 人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。農(136)は系統への高い人気と前年度減少の反動で大幅増加、工(129)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
	減少	東京外国語大	-391 人	系統への人気の低さに加えて、共通テストで数学を 1 科目選択から 2 科目必須に変更した負担増で大幅減少。
		電気通信大	-223 人	共通テストの平均点アップによる目標ラインの高い大学への強気な出願の影響に加えて、類別募集となり募集単位の募集人員が少なくなったことによる慎重な出願も影響して、大幅減少で 4 年連続減少。
後期	増加	横浜国立大	+1,144 人	前期同様に、2021 年度はコロナ禍対策として個別試験実施を取りやめた結果、大幅減少、前年度から個別試験復活で 2 年連続増加。さらに鉄道新線開通による交通利便の向上も影響し、後期では全国最多の増加。経済(174)、経営(119)、理工(115)は 2 年連続大幅増加。
		一橋大	+495 人	ソーシャル・データサイエンスの新設で、2 年連続大幅増加。ただし、既存の経済(88)のみでは減少。
	減少	東京外国語大	-406 人	前年度大幅増加の反動と系統への人気の低さから大幅減少。

## ○甲信越・北陸

前期	減少	福井大	-516 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。医(看護)(47)、国際地域(52)、医(医)(56)、教育(59)は前年度大幅増加の反動でほぼ半減。工(71)は 3 年連続減少で、志願者数は 500 人を下回った。
		福井県立大	-253 人	共通テストの平均点アップによる目標ラインの高い大学への強気な出願の影響で大幅減少。生物資源(40)は激減、海洋生物資源(73)、看護福祉(74)、経済(82)は大幅減少。
		新潟県立看護大	-165 人	前年度 3.5 倍以上の反動で激減。
後期	増加	信州大	+538 人	3 年連続減少の反動で大幅増加、志願者率は 4 年ぶりに 3,200 人を上回った。医(保健)(159)、教育(141)、農(133)、理(125)、繊維(120)は大幅増加。
	減少	福井大	-807 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。教育(41)、医(看護)(53)は前年度激増の反動で大幅減少。工(57)、医(医)(76)、国際地域(85)は大幅減少。
		山梨大	-558 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。教育(58)、生命環境(69)、工(71)、医(医)(82)は大幅減少。
		新潟大	-411 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。農(53)はほぼ半減、歯(70)、工(71)、人文(81)、経済科学(82)は大幅減少。
		福井県立大	-232 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。生物資源(80)、経済(83)、看護福祉(84)は大幅減少。
中期	増加	三条市立大	+209 人	新設 3 年目。前年度独自日程から中期日程に変更となり大幅減少した反動で激増。共通テスト重視型の A 区分(200)の倍増、個別試験重視型の B 区分(161)は大幅増加。
	減少	公立諏訪東京理科大	-785 人	前年度大幅増加の反動でほぼ半減。
		公立小松大	-255 人	2 年連続大幅減少。生産システム科学(54)はほぼ半減、個人面接から集団面接に変更した保健医療(看護)(70)は大幅減少。

## ○東海

前期	増加	名古屋工業大	+327 人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。
		名古屋市立大	+279 人	データサイエンスの新設もあり大幅増加。データサイエンスを除いても(111)の増加で3年連続増加。医(121)、経済(119)は大幅増加。
		浜松医科大	+236 人	医(医)(187)は2年連続大幅減少の反動で激増。医(看護)(108)も増加。
後期	増加	静岡大	+565 人	共通テストの平均点アップによる強気な出願もあって、大幅増加。新設のグローバル共創科学と募集停止の地域創造を除く既存学部と比較でも(113)の増加。理(128)、情報(123)、農(123)、工(122)は大幅増加。
		三重大	+416 人	生物資源(180)は前年度大幅減少の反動で激増、工(135)は2年連続大幅増加。それぞれ、系統への人気も高く、目標ラインの高い大学の前期からの併願先として狙われた。
		名古屋工業大	+401 人	共通テストの平均点アップによる強気な出願もあって大幅増加。工(創造工学教育/情報・社会)(260)、(高度工学教育/物理工)(190)はいずれも激増、(高度工学教育/情報工)(126)は大幅増加。
		浜松医科大	+179 人	医(医)のみの募集。前年度激減の反動で2.3倍増以上。志願倍率も9.0倍→20.9倍にアップ。
	減少	岐阜大	-1,202 人	医(医)の後期募集停止もあり大幅減少。医(医)を除くと、前年度大幅増加の反動で(70)の大幅減少。工(66)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、地域科学(55)は大幅減少で2年連続減少。
		静岡文化芸術大	-314 人	前年度激増の反動で大幅減少。文化政策(53)はほぼ半減、デザイン(77)は大幅減少。
中期	増加	静岡県立大	+358 人	薬のみの募集。前年度大幅減少の反動で(148)の大幅増加。2017年度以降前年度の反動による増減が継続。
	減少	岐阜薬科大	-265 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。

## ○近畿

前期	増加	大阪公立大	+759 人	大学統合2年目で周知されたことと、前年度が旧2大学合計との比較で大幅減少だった反動で大幅増加。医(医)(163)、経済(160)、看護(156)、商(152)、法(146)、医(リハビリテーション)(122)、理(121)、文(120)は大幅増加。
		滋賀医科大	-271 人	前年度激増の反動でほぼ半減。医(看護)(43)、医(医)(54)はいずれも前年度激増の反動で大幅減少。
	減少	滋賀大	-198 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科改組をした経済(63)は大幅減少。
		福知山公立大	-180 人	共通テストの平均点アップによる目標ラインの高い大学への強気な出願の影響に加えて、前年度激増の反動で大幅減少。地域経営(57)、情報(73)は大幅減少。
後期	増加	大阪公立大	+598 人	大学統合2年目で周知されたことと、前年度が旧2大学合計との比較で大幅減少だった反動で大幅増加。商(320)は3.2倍増、看護(211)は2.1倍増以上、農(188)、法(125)、医(リハビリテーション)(122)、文(117)、経済(116)は大幅増加。
		滋賀大	+452 人	3年連続減少の反動で大幅増加。教育(216)は2.1倍増以上、データサイエンス(148)は大幅増加。
		奈良教育大	+170 人	前年度減少の反動で大幅増加。
		神戸市外国語大	+154 人	前年度減少の反動で大幅増加。前年度の反動による増減が継続。
	減少	京都工芸繊維大	-685 人	工芸科学(デザイン科学/デザイン・建築)の後期募集停止もあり大幅減少。工芸科学(デザイン科学/デザイン・建築)を除いても、3年連続増加の反動で(71)の大幅減少。工芸科学(応用生物/応用生物学)(37)は激減、工芸科学(物質・材料科学/応用化学)(52)はほぼ半減。
		奈良県立医科大	-314 人	医(医)のみの募集。前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も24.7倍→18.8倍にダウン。
		京都府立大	-204 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。文(71)、生命環境(74)、公共政策(85)は大幅減少。
		福知山公立大	-199 人	前年度2.6倍増の反動で大幅減少。地域経営(地域経営)(41)は前年度激増の反動で大幅減少、地域経営(医療福祉経営)(78)は大幅減少、情報(89)は2020年度新設以降初めて減少。

## ○中国

前期	増加	山口大	+908 人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。前年度の反動による増減が継続。教育(189)、医(医)(178)、工(175)は激増、経済(142)、人文(141)、医(保健)(134)、農(128)は大幅増加。
		山陽小野田市立 山口東京理科大	+245 人	工(数理情報科学)の新設もあり(148)の大幅増加。(数理情報科学)を除くと(108)の増加。(電気工)(140)は2年連続大幅増加。
		新見公立大	+201 人	前年度ほぼ半減の反動で大幅増加。学科別では全て大幅増加で、特に、健康科学(地域福祉)(217)は倍増以上。
	減少	島根県立大	-327 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。人間文化(30)、国際関係(40)は激減、看護栄養(67)は大幅減少。
		広島市立大	-218 人	大幅減少で、2年連続減少。国際(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、情報科学(67)は2年連続大幅減少。
後期	増加	山口大	+528 人	2019年度以降前年度の反動による増減が継続。工(200)は前年度大幅減少の反動で倍増、人文(182)、経済(147)、農(140)は大幅増加。
	減少	鳥取大	-651 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。地域(37)は前年度激増の反動で激減、農(67)は2年連続増加の反動で大幅減少。
		広島市立大	-442 人	共通テストの平均点アップによる目標ラインの高い大学への強気な出願の影響で大幅減少。国際(42)は前年度大幅増加の反動で半減以下、情報科学(62)は2年連続大幅減少。
		島根大	-398 人	材料エネルギーの新設があったが大幅減少で、募集人員が160人台となった2021年度以降3年連続減少。医(看護)(37)、生物資源科学(55)、教育(66)、人間科学(71)、総合理工(78)は大幅減少。
		福山市立大	-189 人	大幅減少で3年連続減少。都市経営(59)は大幅減少で2年連続減少。
中期	減少	山陽小野田市立 山口東京理科大	-318 人	前年度の志願倍率が20倍を超える高倍率だった反動で、工(数理情報科学)の新設にもかかわらず大幅減少。工は(数理情報科学)を除くと(51)のほぼ半減。

## ○四国

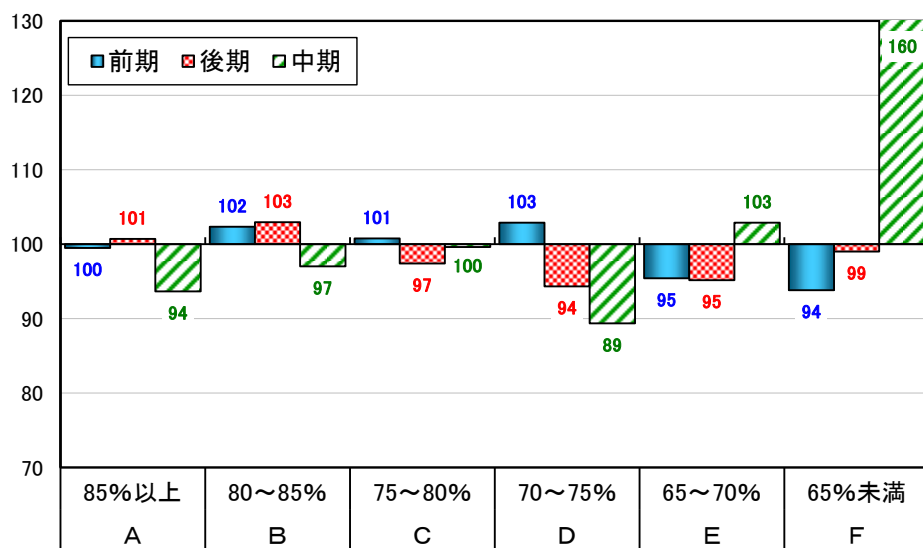
前期	減少	香川大	-761 人	前年度が大幅増加で2年連続増加だった反動で大幅減少。医(医)(55)、創造工(58)、農(61)、経済(63)は大幅減少。
		徳島大	-568 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。総合科学(26)は前年度激増の反動で激減、医(保健)(73)、生物資源産業(74)、理工(74)は大幅減少。
		高知大	-358 人	前年度増加の反動で大幅減少。理工(53)、地域協働(59)、農林海洋科学(79)、教育(80)は大幅減少。
		高知工科大	-307 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。環境理工から名称変更した理工(62)は前年度激増の反動で大幅減少。経済・マネジメント(43)、情報(71)は大幅減少。
後期	増加	愛媛大	+320 人	4年連続減少の反動で大幅増加。理(150)、教育(143)、農(137)、工(116)は大幅増加。
	減少	徳島大	-916 人	3年連続増加の反動で大幅減少。生物資源産業(56)、総合科学(56)はいずれも前年度激増の反動で大幅減少、理工(56)、医(保健)(75)はいずれも大幅減少。
		高知大	-360 人	共通テストの平均点アップによる目標ラインの高い大学への強気な出願の影響で大幅減少で2年連続減少。人文社会科学(50)、理工(66)、学科改組した農林海洋科学(73)は大幅減少。

## ○九州

前期	減少	熊本県立大	-211 人	共通テストの平均点アップによる目標ラインの高い大学への強気な出願の影響と前年度増加の反動で大幅減少。環境共生(62)、文(68)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少、総合管理(78)は大幅減少で3年連続減少。
後期	増加	宮崎大	+1,102 人	前年度の反動による増減が継続。医(医)(308)は前年度大幅減少の反動で3倍増以上、地域資源創成(170)、教育(132)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加、農(134)は大幅増加。
	減少	熊本県立大	-303 人	共通テストの平均点アップによる目標ラインの高い大学への強気な出願の影響もあって、大幅減少で5年連続減少。文(67)は大幅減少、総合管理(70)は2年連続大幅減少。

## ④ 共通テスト目標ライン別志願者数集計

## □ 前期はDグループがやや増加、後期はBグループがやや増加



左記のグラフは、2023 年度のデータネット(駿台予備学校/ベネッセコーポレーション主催、共通テスト自己採点集計)において、募集単位ごとに設定された合格目標ライン(B判定ライン、合格可能性 60%)を基にして、大学・学部(医学部医学科は学科)単位で得点率により 6つのグループ分けを行い、日程別に各グループの志願者数の増減を前年度対比指数で示したものです。

前期全体では(99)の微減ですが、Dグループがやや増加し、E・Fグループがやや減少しています。A・B・Cグループは前年度並となりました。共通テストの平均点アップにより、E・Fグループへの出願が控えられ、強気の出願だったことがうかがえます。

グループごとに詳しく見ていきます。

Aグループは136人(100)の微減で前年度並でした。大学・学部別集計で100人以上増加したのは東京芸術大・美術、岐阜大・医(医)、名古屋大・医(医)で、特に医学部医学科への高い人気が見られました。一方で、100人以上減少したのは、岡山大・医(医)、広島大・医(医)、東京外国語大・言語文化、東京大・理科一類でした。前年度の反動や外国語系統への低い人気が見られました。

Bグループは872人(102)の微増でした。大学・学部別集計で200人以上増加したのが大阪大・基礎工、浜松医科大・医(医)、島根大・医(医)、鳥取大・医(医)、富山大・医(医)でした。一方で、200人以上減少したのは香川大・医(医)で、増加大学・学部が目立ちました。

Cグループは310人(101)の微増でした。大学・学部別集計で200人以上増加したのは、横浜国立大・経済、横浜国立大・理工、金沢大・理系一括、福島県立医科大・医(医)でした。一方で、200人以上減少したのは電気通信大・情報理工で、減少大学・学部が目立ちました。

Dグループは1,042人(103)のやや増加でした。大学・学部別集計で200人以上増加したのは、名古屋工業大・工、高崎経済大・地域政策、東京農工大・工、広島大・工、大阪公立大・経済でした。一方で、200人以上減少したのは、滋賀大・経済、静岡大・人文社会科学、会津大・コンピュータ理工、高知工科大・経済マネジメントとBグループ同様に増加大学・学部が目立ちました。

Eグループは1,664人(95)のやや減少でした。大学・学部別集計で200人以上増加したのは、山口大・教育、静岡大・工、静岡大・理でした。一方で、200人以上減少したのは、弘前大・医(保健)、富山県立大・工、岐阜大・工、三重大・工とCグループと同様に減少大学・学部が目立ちました。

Fグループは3,560人(94)のやや減少でした。大学・学部別集計200人以上増加したのは、山口大・工、前橋工科大・工、山陽小野田市立山口東京理科大・工、新見公立大・健康科学と地方公立大の理系学部が多くなりました。一方で、200人以上減少したのは徳島大・総合科学、大分大・理工、鳥取大・工、秋田県立大・システム科学、高知大・理工、山形大・工、香川大・創造工、長崎県立大・地域創造、島根県立大・人間文化、

北見工業大・工、徳島大・理工で、地方国立大の理工系学部が多くなりました。このように、Fグループでは減少大学・学部が目立ちました。

後期全体では(98)の微減ですが、Aグループ(101)は微増、Bグループは(103)のやや増加、一方でCグループ～Fグループは減少傾向で、強気の出願だったことがうかがえます。

グループごとに詳しく見ていきます。Aグループは194人(100)の微増で前年度並でした。大学・学部別集計で300人以上増加したのは宮崎大・医(医)、琉球大・医(医)、旭川医科大・医(医)といずれも医学部医学科でした。一方で、300人以上減少したのは東京外国語大・国際社会、奈良県立医科大・医(医)で、系統への低い人気や反動による減少が要因でした。

Bグループは730人(103)のやや増加でした。大学・学部別集計で200人以上増加したのは横浜国立大・経済、名古屋工業大・工でした。一方で、200人以上減少したのは、京都工芸繊維大・工芸科学、富山大・理でした。特に、横浜国立大・経済の700人増加がグループ全体のやや増加に繋がりました。

Cグループは697人(97)のやや減少でした。大学・学部別集計で200人以上増加したのは高崎経済大・地域政策、埼玉大・工、三重大・工、三重大・生物資源でした。一方で、200人以上減少したのは電気通信大・情報理工、静岡文化芸術大・文化政策、富山大・経済で、減少大学・学部が目立ちました。

Dグループは1,900人(94)のやや減少でした。大学・学部別集計で200人以上増加したのは静岡大・工、山口大・人文でした。一方で、200人以上減少したのは岐阜大・工、福井大・工、岩手大・理工、茨城大・工、岡山大・法とCグループと同様に減少大学・学部が目立ちました。

Eグループは1,471人(95)のやや減少でした。大学・学部別集計で200人以上増加したのは山口大・工、滋賀大・教育、兵庫県立大・工でした。一方で、200人以上減少したのは徳島大・理工、鳥取大・地域、広島市立大・情報科学でした。なお、新設・廃止を除いた100人以上減少した大学・学部数が100人以上増加した大学・学部数の2倍余りだったことがグループ全体の減少に繋がりました。

Fグループは201人(99)の微減で前年度並でした。大学・学部別集計で200人以上増加したのは室蘭工業大・理工、福島大・理工でした。一方で、200人以上減少したのは北見工業大・工、岩手県立大・総合政策、徳島大・総合科学でした。

公立大のみの中期は、Fグループ(160)で激増しましたが、新規の周南公立大を除くと(111)の増加でした。目標ラインの高いA～Dグループは減少傾向でした。前期および後期との間で自由に併願が可能な中期では、比較的難易度が低い大学・学部志願者が集まりました。共通テストの平均点アップの中で、中期では安全校としての出願傾向が見られました。なお、中期はもともと対象大学が少なく募集人員も少ないため、特定大学に志願者が集中しやすく指数が大きく変化する傾向があることから、あくまでも参考としてください。

## ⑤ 2段階選抜実施状況

□ 第1段階選抜不合格者数は前期で大幅増加、中期・後期は減少  
 大学別では、前期は東京大、中期・後期は宮崎大が最多

〔2段階選抜実施状況(不合格者数)〕

	前期				中期・後期				合計			
	2023年度	2022年度	増減数	指数	2023年度	2022年度	増減数	指数	2023年度	2022年度	増減数	指数
国立大	2,803	2,396	+407	117	3,696	3,734	-38	99	6,499	6,130	+369	106
公立大	994	633	+361	157	975	1,373	-398	71	1,969	2,006	-37	98
合計	3,797	3,029	+768	125	4,671	5,107	-436	91	8,468	8,136	+332	104

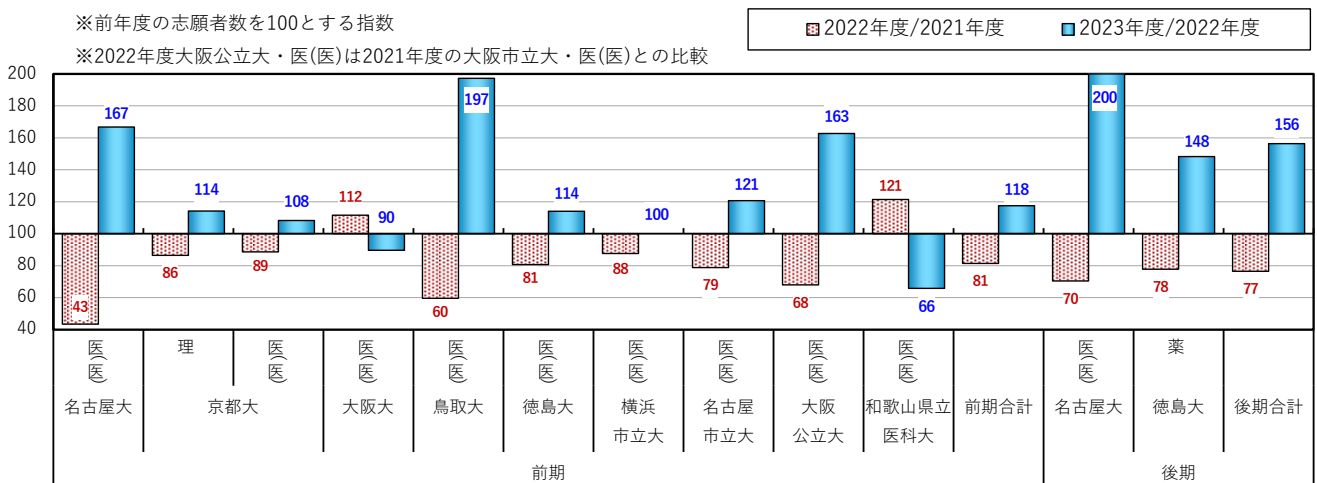
〔2 段階選抜不合格者数の多い上位 10 大学〕

順位	前期				中期・後期			
	2023年度		2022年度		2023年度		2022年度	
1	東京大	691	東京大	837	宮崎大	529	山梨大	713
2	東京工業大	438	東京都立大	367	大阪公立大	513	大阪公立大	681
3	福島県立医科大	338	一橋大	217	一橋大	471	奈良県立医科大	563
4	東京都立大	263	香川大	204	山梨大	429	一橋大	434
5	大分大	233	滋賀医科大	163	旭川医科大	412	東北大	349
6	一橋大	220	岡山大	157	琉球大	382	電気通信大	337
7	浜松医科大	195	和歌山県立医科大	121	奈良県立医科大	254	山口大	300
8	島根大	184	群馬大	103	秋田大	193	岐阜大	253
9	川崎市立看護大	174	福井大	94	東京都立大	188	鹿児島大	189
10	高知大	110	長崎大	89	千葉大	163	九州大	166
全体	3,797		3,029		4,671		5,107	

2 段階選抜における第 1 段階選抜不合格者数(不合格者には失格者を含む、以下も同じ)は、前年度は前期・後期ともに増加で、全体では 1,800 人以上増加しました。今年度は全体では引き続き 332 人の増加(104)でしたが、前期は 768 人の増加、中期・後期は 436 人の減少と増減が分かれました。

共通テストの平均点アップにより、前期では成績上位層を中心に強気な出願が行われたことがうかがえます。中期・後期は国立大では前年度上位 8 位の不合格者数だった岐阜大・医(医)<後>が廃止でしたが、新設の一橋大・ソーシャル・データサイエンス<後>で第 1 段階選抜が実施され、不合格者数は増加した前年度から微減に留まりました。一方で、公立大は約 400 人の 30%近い大幅減少でした。この結果、後期全体では減少で、前年度は共通テスト平均点大幅ダウンの結果、第 1 段階選抜通過を考えて、特定大学への集中がありました。共通テストの平均点アップによって出願大学が分散したことが減少の要因でした。

また、共通テストの平均点アップは、第 1 段階選抜を基準点で実施する大学・学部の志願者数増加に影響を与えました。以下のグラフは、基準点で第 1 段階選抜を実施する国公立大の学部・学科における志願者数の増減を前年度対比指数で示したものです。ほとんどの大学・学部で志願者数が増加しました。名古屋大・医(医)<後>は募集枠を(地域枠)から(一般枠)に変更したという特別な要因があり、名古屋大・医(医)<前>、横浜市立大・医(医)<前>などでは基準点の緩和が行われました。これに加えて、前年度の志願者数減少の反動と共通テストの平均点アップにより基準点をクリアできた受験生の増加が要因でした。



## ⑥ 志願者数が多かった大学

### □ 志願者数最多は、2 年連続で大阪公立大

〔志願者数上位 10 大学〕

大学	2023年度			2022年度			志願者 増減数	志願者指数	
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率		2023年度 ／ 2022年度	2022年度 ／ 2021年度
大阪公立大	2,447	14,152	5.8	2,447	13,188	5.4	+964	107	96
千葉大	2,069	10,507	5.1	2,069	10,631	5.1	-124	99	92
神戸大	2,301	9,905	4.3	2,301	10,123	4.4	-218	98	99
北海道大	2,381	9,808	4.1	2,392	9,516	4.0	+292	103	110
横浜国立大	1,347	9,471	7.0	1,332	7,300	5.5	+2,171	130	174
東京大	2,960	9,306	3.1	2,960	9,507	3.2	-201	98	105
京都大	2,642	7,827	3.0	2,697	7,570	2.8	+257	103	102
大阪大	2,878	7,398	2.6	2,878	7,501	2.6	-103	99	107
九州大	2,238	7,285	3.3	2,243	7,692	3.4	-407	95	101
静岡大	1,527	6,984	4.6	1,540	6,269	4.1	+715	111	101

※志願者指数は前年度の志願者数を100とする指数

※大阪公立大の2021年度以前は旧大阪市立大と旧大阪府立大の合計

上の表は、文部科学省発表の最終確定値のうち、大学全体の志願者数が多かった国公立大の上位 10 大学をまとめたものです。志願者数が 7,000 人以上だった大学は 9 大学で、前年度と同数でした。前年度は 10 大学中 7 大学が増加だったのに対し、今年度は増加と減少が 5 大学ずつでした。10 大学の中で、第 6 位の東京大、第 8 位の大阪大はいずれも前期のみの募集です。第 7 位の京都大の後期は、特色入試として実施の法学部のみの募集です。

2023 年度入試で志願者数が最も多かったのは、2 年連続で大阪公立大でした。志願者数は 2021 年度の大阪府立大と大阪市立大の合計より減少した前年度に比べて 964 人(107)とやや増加し、1 万 4 千人を上回りました。

第 2 位の千葉大は、124 人(99)の微減でしたが、それでも 2010 年度から 14 年連続で志願者数が 1 万人を上回りました。

第 3 位の神戸大は、218 人(98)減少し、志願者数が 3 年ぶりに 1 万人に届きませんでした。

第 4 位の北海道大は、前期は 125 人(98)の微減でしたが、後期はコロナ禍の影響緩和が進み、道外からの併願増加もあり、前年度の大幅増加に続いて 417 人(110)の増加で、志願者数は 2012 年度以来 11 年ぶりに 4,500 人を上回りました。この結果、前期・後期合計で 292 人(103)増加となり 2 年連続増加となりました。

第 5 位の横浜国立大(130)は、2021 年度にコロナ禍対策として個別試験を中止した影響で、志願者数は 4,189 人と前年度比半減近くになりましたが、前年度から元の個別試験を実施したことで反動増が見られ、今年度は 9,471 人と 2020 年度対比でも 1,890 人も増加しました。この背景には、横浜地区の鉄道新線開業により、東京や埼玉からの通学の利便が向上するという影響もありました。

第 6 位から第 9 位の東京大(98)、京都大(103)、大阪大(99)は難関大志向の高まりと、共通テスト平均点アップにより予定通りの出願を行えた受験生も多く、堅調な出願状況でした。

第 9 位の九州大(95)はコロナ禍の緩和に伴い東京大や京都大といった最難関大への流出が増加したことでやや減少しました。

第 10 位の静岡大は、グローバル共創科学の新設効果もあって、715 人(111)の増加でした。



## ⑦増減が目立った大学

### □増加数最多は横浜国立大、減少数最多は徳島大

大学全体の志願者数の増減数が 500 人以上だった大学をまとめました。500 人以上増加した大学は 13 大学（国立大 10 大学、公立大 3 大学）で前年度の 11 大学（国立大 10 大学、公立大 1 大学）より 2 大学増加（公立大 2 大学増加）しました。

増加数が最も多かった大学は横浜国立大で、2,171 人(130)増加しました。2021 年度にコロナ禍対策として個別試験を中止した影響で、志願者数は 4,189 人と 2020 年度比で半減近くになりました。前年度は 2020 年度までと同じく個別試験を実施したことで反動増が見られました。今年度は志願者数 9,471 人と、2020 年度対比でも 1,890 人増加となりました。この背景には、横浜地区の鉄道新線開業による、東京や埼玉からの通学の利便向上の影響もあります。以下、山口大、宮崎大の上位 3 大学が 1,000 人以上の増加でした。山口大は、前年度最も志願者数が減少した大学で、前期・後期ともに大幅減少した募集単位が多かった反動が増加要因です。宮崎大は、前期はやや増加ですが、後期は医(看護)(56)、農(獣医)(93)を除いた募集単位で増加し、医(医)(308)を筆頭に後期だけで 1,100 人以上の大幅増加でした。

一方で、500 人以上減少した大学は 22 大学（国立大 18 大学、公立大 4 大学）で前年度の 15 大学（国立大 7 大学、公立大 8 大学）より 7 大学増加（国立大 11 大学増加、公立大 4 大学減少）しましたが、中でも国立大の減少が目立ちました。減少数が最も多かった大学は徳島大で、1,484 人(73)減少しました。徳島大は前年度 3 番目に志願者数が増加した大学で、反動による大幅減少でした。以下、岐阜大、福井大、岡山大、茨城大の上位 5 大学が 1,000 人以上の減少でした。岐阜大は医(医)<後>の募集停止と募集人員の多い工<後>(66)の大幅減少の影響が大きく、後期のみで 1,200 人以上の大幅減少となり、大学全体でも大幅減少しました。茨城大は 2 年連続増加による反動、福井大は前年度大幅増加の反動による大幅減少でした。岡山大は後期募集停止による減少で、前期のみでは微増でした。

#### 〔増加数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2023年度 ／ 2022年度	2022年度 ／ 2021年度	2023 年度	2022 年度	
横浜国立大	+2,171	130	174	9,471	7,300	前期、後期とも大幅増加で、都市科学<後>(94)を除きいずれも増加。特に、経済<前>(272)は2.7倍増以上。経営<前>(115)は3年連続大幅増加、経済<後>(174)、理工<前>(124)、経営<後>(119)、理工<後>(115)、都市科学<前>(115)は2年連続大幅増加。鉄道新線開通による東京、埼玉からの通学の利便性向上が影響。
山口大	+1,436	127	81	6,821	5,385	前期、後期とも大幅増加。工<前>(175)、<後>(200)はいずれも前年度大幅減少の反動で全学科増加の激増。教育<前>(189)、人文<後>(182)、医(医)<前>(178)も激増。経済<後>(147)、経済<前>(142)、人文<前>(141)、農<後>(140)、医(保健)<前>(134)、農<前>(128)は大幅増加。
宮崎大	+1,172	127	94	5,502	4,330	後期は大幅増加、前期はやや増加。医(医)<後>(308)、地域資源創成<後>(170)はいずれも前年度大幅減少の反動で激増。農<後>(134)、教育<後>(132)、農<前>(129)、地域資源創成<前>(119)はいずれも大幅増加。
大阪公立大	+964	107	96	14,152	13,188	前年度は旧大阪市立大と旧大阪府立大の合計との比較で、前期、後期は大幅減少、中期は大幅増加。今年度は前期、後期は大幅増加、中期はやや減少。商<後>(320)は前年度半減の反動で3倍増以上、看護<後>(211)、農<後>(188)、医(医)<前>(163)、経済<前>(160)は激増。
高崎経済大	+871	117	86	5,961	5,090	前期、後期は大幅増加、中期はやや減少。地域政策<後>(178)は前年度40%以上の大幅減少の反動で激増、地域政策<前>(145)は大幅増加で5年ぶりの増加。

2023 年度入試状況分析【国公立大】

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2023年度 ／ 2022年度	2022年度 ／ 2021年度	2023 年度	2022 年度	
名古屋工業大	+728	121	87	4,208	3,480	前期、後期とも大幅増加。工<前>(123)は2年連続減少の反動で大幅増加、工<後>(119)は大幅増加、志願者数は2,400人を上回り、募集人員が296人になった2021年度以降で最多。
信州大	+720	112	93	6,559	5,839	後期は大幅増加、前期はやや増加。医(保健)<後>(159)、経法<前>(152)、教育<後>(141)、農<後>(133)、農<前>(121)、繊維<前>(120)、繊維<後>(120)は大幅増加。
静岡大	+715	111	101	6,984	6,269	前期はやや増加、後期は大幅増加。理<前>(197)は前年度大幅減少の反動ではば増倍、工<前>(136)、理<後>(128)、情報<後>(123)、農<後>(123)、工<後>(122)は大幅増加。新設のグローバル共創科学による増加も大きかった。
室蘭工業大	+634	141	118	2,198	1,564	後期は激増、前期は前年度並。理工<後>(188)は個別試験を実施せず、共通テストと調査書の配点で判定する募集区分だが、共通テスト平均点大幅アップの影響で激増。志願者数は1,300人を上回った。
兵庫県立大	+625	111	87	6,293	5,668	前期、中期、後期いずれも増加。看護<後>(194)は激増、社会情報科学<前>(150)、社会情報科学<中>(132)、工<後>(129)は大幅増加でいずれも前年度大幅減少の反動。
北海道教育大	+618	122	80	3,381	2,763	後期は大幅増加、前期は増加。後期は岩見沢校(100)を除いた修学校でいずれも25%以上の大幅増加。函館校<前>(141)は大幅増加で6年ぶりの増加。
一橋大	+548	114	106	4,380	3,832	ソーシャル・データサイエンスの新設により後期は大幅増加、前期は微増。ただし、ソーシャル・データサイエンスを除くと後期は減少、前期はやや減少。なお、前期は募集人員が7%減少したことにより志願倍率は3.1倍→3.2倍にアップ。
東京農工大	+522	116	93	3,737	3,215	前期は大幅増加、後期はやや増加。農(共同獣医以外)<前>(143)は前年度減少の反動で大幅増加。工<前>(129)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。

〔減少数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2023年度 ／ 2022年度	2022年度 ／ 2021年度	2023 年度	2022 年度	
徳島大	-1,484	73	126	4,107	5,591	前期、後期ともに大幅減少。総合科学<前>(26)は前年度3倍以上の反動で激減、2016年度の改組以降では最少。理工<後>(56)、生物資源産業<後>(56)、総合科学<後>(56)、医(保健)<前>(73)、生物資源産業<前>(74)、理工<前>(74)、医(保健)<後>(75)は大幅減少。
岐阜大	-1,461	75	107	4,348	5,809	後期は大幅減少、前期は減少。医(医)<後>(前年度志願者数405人)の募集停止も影響。地域科学<後>(55)は大幅減少で2年連続減少、社会システム経営学環<前>(69)は2年連続大幅減少。工<後>(66)、教育<前>(72)、工<前>(76)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
福井大	-1,323	61	124	2,073	3,396	前期、後期ともに大幅減少。教育<後>(41)は前年度激増の反動で半減以下。医(看護)<後>(53)、工<後>(57)、医(医)<後>(76)は大幅減少、国際地域<後>(85)は2年連続大幅減少で志願者数は100人を下回った。
岡山大	-1,273	73	90	3,405	4,678	後期を廃止したが、前期は微増。医(保健)(188)は、前年度大幅減少の反動で激増、教育(138)、薬(129)、農(126)は大幅増加。一方で、医(医)(50)は前年度大幅増加の反動と第1段階選抜基準を4倍→3倍に厳しくしたことで半減。文<前>(82)は大幅減少で3年連続減少。

## 2023年度入試状況分析【国公立大】

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2023年度 ／ 2022年度	2022年度 ／ 2021年度	2023 年度	2022 年度	
茨城大	-1,264	81	106	5,342	6,606	前期、後期とも大幅減少。農<後>(59)は前年度3倍増以上の反動で大幅減少、教育<後>(76)、理<前>(78)、工<後>(81)、理<後>(82)はいずれも大幅減少で2年連続減少、農<前>(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。工<前>(85)は大幅減少。
鳥取大	-936	78	105	3,256	4,192	前期、後期とも大幅減少。地域<後>(37)は前年度倍増の反動で激減、医(保健)<前>(44)、工<前>(60)、農<後>(67)、地域<前>(66)は大幅減少。
東京外国語大	-796	72	113	2,059	2,855	前期、後期とも大幅減少。国際日本<前>(47)は、前年度倍増以上の反動で半減以下。国際社会<後>(69)、国際社会<前>(71)、言語文化<前>(81)は大幅減少。系統への不人気と、前期では共通テストでの数学2科目必須の負担増も影響。
北見工業大	-745	58	115	1,017	1,762	前期、後期とも大幅減少。工<前>(53)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願者数は300人を下回った。工<後>(60)は前年度増加の反動で大幅減少、志願者数は1,000人を下回った。
高知大	-718	76	107	2,225	2,943	前期、後期とも大幅減少。医(医)<前>(147)、医(看護)<後>(103)を除きいずれの学部でも減少。人文社会科学<後>(50)は半減。理工<前>(53)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。地域協働<前>(59)、理工<後>(66)、農林海洋科学<後>(73)、農林海洋科学<前>(79)、教育<前>(80)は大幅減少。
新潟大	-715	88	115	5,224	5,939	後期は大幅減少、前期は減少。歯(歯)<前>(76)は3年連続大幅減少。農<後>(53)、農<前>(79)、経済科学<後>(82)、工<前>(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。歯(歯)<後>(70)、工<後>(71)、創生<前>(76)、理<前>(79)、人文<後>(81)、歯(口腔生命福祉)<前>(85)は大幅減少。コロナ禍による地元志向の緩和も影響。
香川大	-691	79	107	2,623	3,314	前期は大幅減少、後期はやや増加。医(医)<前>(55)は4年連続増加の反動でほぼ半減。創造工<前>(58)、農<前>(61)、経済<前>(63)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。創造工<後>(82)、経済<後>(82)は2年連続大幅減少。
公立諏訪 東京理科大	-689	66	111	1,328	2,017	中期は大幅減少、前期は大幅増加。工<中>(51)は前年度大幅増加の反動でほぼ半減。公立化して初めての入試の2019年度以来4年ぶりに1,000人を下回った。
京都工芸繊維大	-687	75	104	2,073	2,760	後期は大幅減少、前期は前年度並。後期は募集人員が53%減少したこと、工芸科学(デザイン・建築)<後>の廃止が影響。募集人員の減少により、志願倍率は10.7倍→12.4倍にアップした。
広島市立大	-660	64	98	1,197	1,857	前期、後期とも大幅減少。国際<後>(42)は前年度激増の反動で半減以下、情報科学<後>(62)は大幅減少で2年連続減少、国際<前>(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、情報科学<前>(67)は2年連続大幅減少。
山梨大	-641	82	132	2,920	3,561	後期は大幅減少、前期は減少。医(看護)<前>(210)、<後>(165)の大幅増加を除きいずれも減少。生命環境<後>(69)、医(医)<後>(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。教育<後>(58)、生命環境<前>(78)、教育<前>(84)は大幅減少。
弘前大	-616	85	158	3,503	4,119	前期は大幅減少、後期は減少。医(保健)<前>(50)、教育<後>(54)、<前>(68)、理工<前>(72)、<後>(79)はいずれも前年度激増の反動で大幅減少。
島根大	-564	84	94	3,043	3,607	後期は大幅減少、前期は減少。医(看護)<前>(35)、<後>(37)、教育<前>(55)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。生物資源科学<前>(46)、人間科学<後>(71)、<前>(72)は大幅減少で2年連続減少。総合理工(77)<前>、<後>(78)は募集人員がそれぞれ15%、14%減少で、大幅減少で3年連続減少。教育<後>(66)は大幅減少。
長崎大	-533	88	104	3,910	4,443	前期、後期とも減少。募集人員7%減少の医(医)<前>(60)は大幅減少、歯<前>(56)、情報データ科学<後>(61)、多文化社会<前>(61)、情報データ<前>(68)、環境科学<後>(77)、水産<後>(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。教育<前>(85)は大幅減少で2年連続減少。

2023 年度入試状況分析【国公立大】

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2023年度 ／ 2022年度	2022年度 ／ 2021年度	2023 年度	2022 年度	
岩手県立大	-528	73	120	1,398	1,926	前期は大幅減少、後期はソフトウェア情報<後>を<中>に日程変更したため大幅減少。総合政策<後>(50)は前年度約4.5倍増の反動で半減、総合政策<前>(52)は前年度約2.7倍増の反動でほぼ半減。看護<後>(60)は大幅減少。
電気通信大	-519	86	94	3,192	3,711	前期を大括り募集から類別募集に変更したが、前期は大幅減少、後期は減少。II類<後>(83)は大幅減少で2年連続減少、I類<後>(87)、II類<後>(93)も2年連続減少。
熊本県立大	-514	73	102	1,417	1,931	前期、後期ともに大幅減少。全学部で前期、後期ともに減少。環境共生<前>(62)、文<前>(68)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、文<後>(67)は大幅減少、総合管理<後>(70)は2年連続大幅減少、総合管理<前>(78)は大幅減少で3年連続減少。
佐賀大	-506	90	108	4,565	5,071	前期、後期とも減少。教育<後>(73)、<前>(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、経済<前>(83)は大幅減少。

## ⑧難関国立10大学志願状況

## □ 4大学増加、6大学減少。10大学全体では前年度並

〔確定志願者数 前年度対比増減数〕

大学	年度	志願者数(最終確定値)								
		前期			後期			全体		
		人数	増減数	指数	人数	増減数	指数	人数	増減数	指数
北海道大	2023年度	5,284	-125	98	4,524	+417	110	9,808	+292	103
	2022年度	5,409	+305	106	4,107	+590	117	9,516	+895	110
	2021年度	5,104	-370	93	3,517	-761	82	8,621	-1,131	88
	2020年度	5,474	-369	94	4,278	-220	95	9,752	-589	94
	2019年度	5,843	+10	100	4,498	+482	112	10,341	+492	105
東北大	2023年度	4,239	-153	97	1,007	-325	76	5,246	-478	92
	2022年度	4,392	-107	98	1,332	+81	106	5,724	-26	100
	2021年度	4,499	+115	103	1,251	-103	92	5,750	+12	100
	2020年度	4,384	-429	91	1,354	-85	94	5,738	-514	92
	2019年度	4,813	-429	92	1,439	+41	103	6,252	-388	94
東京大	2023年度	9,306	-201	98				9,306	-201	98
	2022年度	9,507	+418	105				9,507	+418	105
	2021年度	9,089	-170	98				9,089	-170	98
	2020年度	9,259	-224	98				9,259	-224	98
	2019年度	9,483	-192	98				9,483	-192	98
東京工業大	2023年度	4,167	+365	110				4,167	+365	110
	2022年度	3,802	+164	105				3,802	+164	105
	2021年度	3,638	-152	96				3,638	-664	85
	2020年度	3,790	-432	90	512	+15	103	4,302	-417	91
	2019年度	4,222	-7	100	497	+28	106	4,719	+21	100
一橋大	2023年度	2,641	+53	102	1,739	+495	140	4,380	+548	114
	2022年度	2,588	+24	101	1,244	+208	120	3,832	+232	106
	2021年度	2,564	+74	103	1,036	-39	96	3,600	+35	101
	2020年度	2,490	-197	93	1,075	-48	96	3,565	-245	94
	2019年度	2,687	-248	92	1,123	-78	94	3,810	-326	92
名古屋大	2023年度	4,258	-81	98	76	+38	200	4,334	-43	99
	2022年度	4,339	-242	95	38	-16	70	4,377	-258	94
	2021年度	4,581	+159	104	54	-1	98	4,635	+158	104
	2020年度	4,422	-314	93	55	-12	82	4,477	-326	93
	2019年度	4,736	-16	100	67	+14	126	4,803	-2	100
京都大	2023年度	7,417	+207	103	410	+50	114	7,827	+257	103
	2022年度	7,210	+165	102	360	-19	95	7,570	+146	102
	2021年度	7,045	-302	96	379	+27	108	7,424	-275	96
	2020年度	7,347	-164	98	352	-162	68	7,699	-326	96
	2019年度	7,511	-350	96	514	+142	138	8,025	-208	97
大阪大	2023年度	7,398	-103	99				7,398	-103	99
	2022年度	7,501	+510	107				7,501	+510	107
	2021年度	6,991	-471	94				6,991	-471	94
	2020年度	7,462	-74	99				7,462	-74	99
	2019年度	7,536	-331	96				7,536	-331	96
神戸大	2023年度	5,885	-186	97	4,020	-32	99	9,905	-218	98
	2022年度	6,071	-123	98	4,052	+10	100	10,123	-113	99
	2021年度	6,194	+625	111	4,042	+296	108	10,236	+921	110
	2020年度	5,569	-364	94	3,746	-280	93	9,315	-644	94
	2019年度	5,933	+299	105	4,026	-320	93	9,959	-21	100
九州大	2023年度	5,067	-76	99	2,218	-331	87	7,285	-407	95
	2022年度	5,143	-32	99	2,549	+95	104	7,692	+63	101
	2021年度	5,175	+161	103	2,454	+227	110	7,629	+388	105
	2020年度	5,014	-225	96	2,227	-82	96	7,241	-307	96
	2019年度	5,239	-7	100	2,309	-170	93	7,548	-177	98
難関国立 10大学合計	2023年度	55,662	-300	99	13,994	+312	102	69,656	+12	100
	2022年度	55,962	+1,082	102	13,682	+949	107	69,644	+2,031	103
	2021年度	54,880	-331	99	12,733	-866	94	67,613	-1,197	98
	2020年度	55,211	-2,792	95	13,599	-874	94	68,810	-3,666	95
	2019年度	58,003	-1,271	98	14,473	+139	101	72,476	-1,132	98

## 2023 年度入試状況分析【国公立大】

2023 年度入試の難関国立 10 大学(北海道大、東北大、東京大、東京工業大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大)の確定志願者数は、増加が 4 大学、減少が 6 大学で、全体では 12 人(100)の増加で前年度並でした。

日程別では、前期が 300 人(99)の微減でした。東京工業大(110)は増加、京都大(103)はやや増加でした。一方で、東北大(97)、神戸大(97)はやや減少でした。他の一橋大(102)、北海道大(98)、東京大(98)、名古屋大(98)、大阪大(99)、九州大(99)は前年度並でした。

後期は 312 人(102)の微増となりました。一橋大(140)は前年度までの経済に新設のソーシャル・データサイエンスが加わったこと、名古屋大は医(医)(200)が地域枠から一般枠へ変更したことが影響しました。他の募集人員が少ない大学では、東北大(76)は大幅減少で、特に理(73)が大幅減少で一橋大・ソーシャル・データサイエンスに前期理系学部志願者からの併願を奪われたことがうかがえます。特色入試として募集する法(114)のみの京都大は増加。募集人員が多い大学では、北海道大(110)はコロナ禍の影響緩和が進み、道外からの併願増加もあり、前年度の大幅増加に続いての増加で志願者数は 2012 年度以来 11 年ぶりに 4,500 人を上回りました。九州大(87)は減少で、特に経済(経済・経営)(41)の大幅減少が目立ちました。神戸大(99)は前年度並でした。

### 〔確定志願者指数 文理別前年度対比指数〕

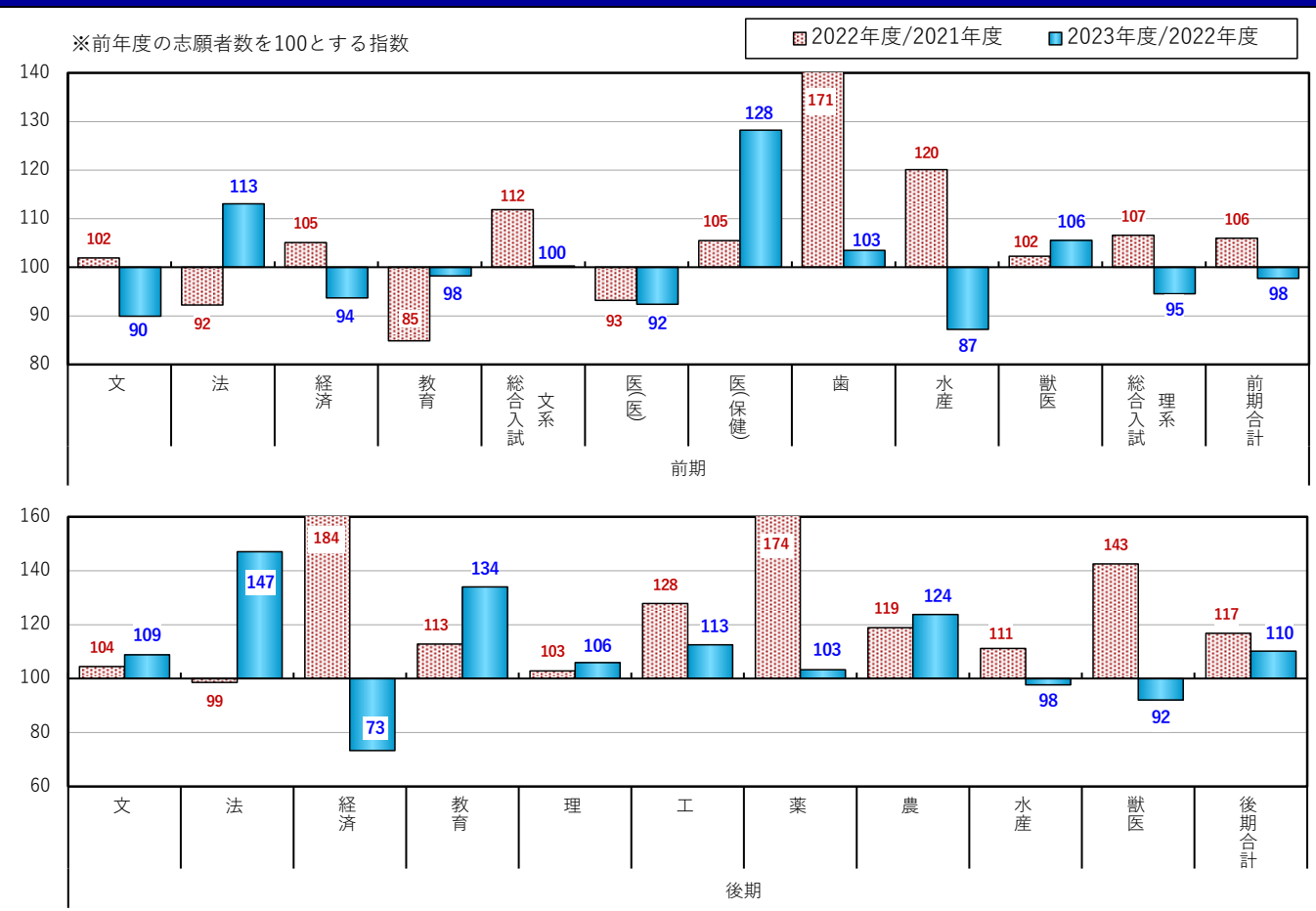
大学	前期			後期			前期・後期 合計
	文系	理系	合計	文系	理系	合計	
北海道大	99	97	98	113	109	110	103
東北大	92	98	97	79	73	76	92
東京大	97	99	98				98
東京工業大		110	110				110
一橋大	102		102	140		140	114
名古屋大	89	102	98		200	200	99
京都大	103	103	103	114		114	103
大阪大	97	100	99				99
神戸大	100	94	97	97	101	99	98
九州大	90	101	99	66	100	87	95
難関大合計	98	101	99	103	102	102	100

文理別に志願者数を見ると、前期は、文系は 2 大学で増加、7 大学が減少、理系は 5 大学が増加、4 大学が減少となりました。

一方、後期は、文系は増加と減少が 3 大学ずつでした。理系は 4 大学で増加、1 大学で減少となりました。いずれも比較的募集人員が多いことで最難関大からの併願先として狙われる神戸大は文系(97)がやや減少、理系(101)が前年度並、九州大は文系(66)が大幅減少、理系(100)が前年度並で文系の減少が目立ちました。北海道大は文系(113)、理系(109)と増加で、どちらも 2 年連続増加となりました。

〔大学別志願状況〕

北海道大：前期は微減、後期は 11 年ぶりに 4,500 人突破 前期：-125 人 後期：+417 人



主な入試変更点 募集人員：医(医)<前>…92人→90人(総合型選抜の選考による欠員5人含む)

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は125人(98)の微減。文理別では、文系は17人(99)の微減、理系は108人(97)のやや減少。後期はコロナ禍の影響緩和による道外からの併願増加もあり、前年度の大幅増加に続いて417人(110)の増加、志願者数は2012年度以来11年ぶりに4,500人を上回った。文理別では、文系は141人(113)、理系は276人(109)で、いずれも増加。なお、2段階選抜は後期の一部の募集単位で実施予告倍率を上回ったが緩和されて、前後期いずれも実施されなかった。

<前期日程>

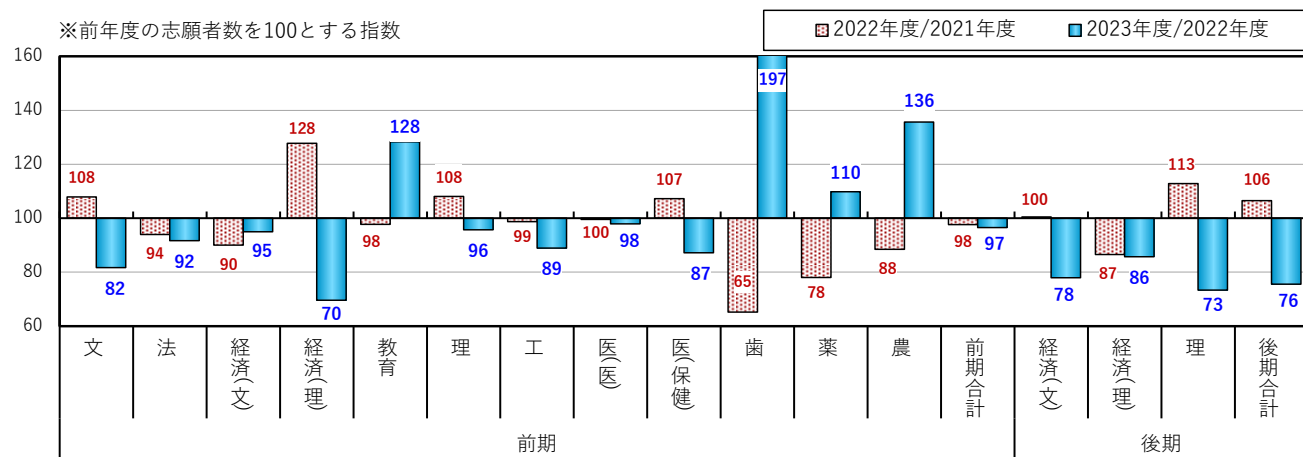
- 文(90)は、系統への低い人気から減少。5年ぶりに志願倍率は3倍を下回った。
- 法(113)は、前年度減少の反動で増加。
- 経済(94)は、前年度は4年ぶりに増加に転じたが再び減少でやや減少。
- 教育(98)は、前年度大幅減少の反動はなく微減で2年連続減少。
- 総合入試文系(100)は、前年度増加の反動はなく前年度並。
- 総合入試理系(95)は、前年度やや増加の反動でやや減少。選抜群別では、(数学重点)(113)は前年度大幅減少の反動で増加、(物理重点)(111)は2年連続増加、(化学重点)(101)は前年度並。一方で、(総合科学)(64)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(生物重点)(94)はやや減少。
- 医(医)(92)は、減少で3年連続減少。志願者数は2015年度以来8年ぶりに300人を下回った。
- 医(保健)(128)は、大幅増加で2年連続増加。専攻別では、(保健/理学療法学)(72)は前年度激増の反動で大幅減少だが、その他の専攻はいずれも増加。特に、(保健/作業療法学)(247)は3年連続減少の反動で倍以上、志願倍率も1.8倍→4.6倍へアップ。(保健/検査技術科学)(163)は、2年連続減少の反動で激増。
- 歯(103)は、前年度激増の反動はなくやや増加。
- 水産(87)は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 獣医(106)は、やや増加。

<後期日程>

- 文(109)は、増加で2年連続増加。
- 法(147)は、2年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も8.8倍→12.9倍へアップ。
- 経済(73)は、前年度80%以上の激増の反動で大幅減少。
- 教育(134)は、前年度増加に引き続き大幅増加。志願者数は4年ぶりに100人を上回った。
- 理(106)は、3年連続やや増加。学科・分野別では、(生物科学/生物学)(77)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少だが、その他の学科・分野はいずれも増加。特に、(生物科学/高分子機能学)(133)は前年度60%以上の激減と3年連続減少の反動で

大幅増加、(物理)(120)も4年ぶり増加で志願倍率は11.6倍→32.3倍へ大幅アップ、(化)(117)は2年連続大幅増加。  
 ○**工(113)**は、前年度の大幅増加に引き続き増加。学科別では、前年度唯一減少の(情報エレクトロニクス)(164)が激増、(応用理工系)(129)は2年連続大幅増加。一方で、(機械知能工)(70)は前年度激増の反動で大幅減少、(環境社会工)(99)は前年度並。  
 ○**薬(103)**は、前年度70%以上の大幅増加の反動はなく、やや増加。系統へのコロナ禍における高い人気に加えて、厳しい経済環境下における職業直結型の系統でもあることから人気が続く。  
 ○**農(124)**は、2年連続大幅増加。食糧問題等への関心の高まりから系統への高い人気が続いたことも影響。  
 ○**水産(98)**は、2年連続増加の反動は小さく前年度並。  
 ○**獣医(92)**は、前年度大幅増加の反動で減少。

**東北大：前期は2年連続減少で増加は4学部、後期は大幅減少 前期：-153人 後期：-325人**



**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は、153人(97)のやや減少で2年連続減少。文理別では、文系は87人(93)のやや減少で5年連続減少、理系は66人(98)の微減だが2年連続減少。増加は4学部のみ。後期は、325人(76)の大幅減少で、2学部がいずれも減少。

<前期日程>

- 文(82)**は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。系統への低い人気もあって、志願者数は350人を下回り、募集人員が147人になった2021年度以降では最少。
- 法(92)**は、減少で3年連続減少。志願者数は300人を下回り、募集人員が112人になった2021年度以降では最少。
- 経済(92)**は、2年連続減少。方式別では、(文系)(95)はやや減少で2年連続減少。志願者数は募集人員が147人になった2021年度以降では最少。(理系)(70)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は新設された2020年度とほぼ同数。
- 教育(128)**は、3年連続減少の反動で大幅増加。
- 理(96)**は、前年度増加の反動でやや減少。
- 工(89)**は、前年度微減に引き続き減少。志願者数は1,400人を下回り、募集人員が567人になった2016年度以降では最少。
- 医(医)(98)**は、微減だが募集人員が77人になって以降は3年連続減少。志願倍率は3.1倍で第1段階選抜実施予告倍率約3倍を超えたことで、第1段階選抜が実施されたが、合格率は97.5%と選抜は緩かった。
- 医(保健)(87)**は、2年連続増加の反動で減少。専攻別では、(保健/放射線技術科学)(111)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(保健/看護学)(75)は、前年度40%以上大幅増加の反動で大幅減少。(保健/検査技術科学)(94)はやや減少だが、志願倍率は3.2倍で第1段階選抜実施予告倍率約3倍を超えたことで第1段階選抜が実施され、合格率は93.8%だった。
- 歯(197)**は、前年度大幅減少および3年連続減少の反動で、倍増近い大幅増加。志願倍率は2.0倍→4.0倍にアップ。
- 薬(110)**は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 農(136)**は、大幅増加。志願倍率は2006年度以来17年ぶりに3倍を上回った。前年度減少の反動に加え、食糧問題等への関心の高まりから系統への高い人気が続いたことも影響。

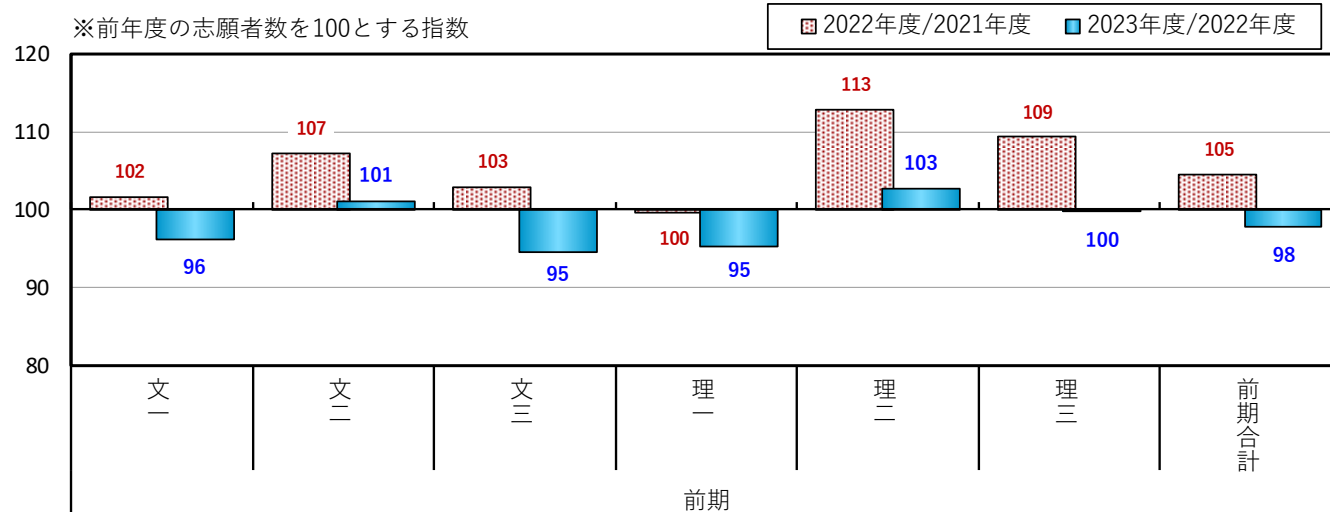
<後期日程>

- 経済(79)**は、前年度の微減に引き続き大幅減少。方式別では、(文系)(78)は大幅減少、志願倍率は18.1倍→14.1倍へダウンし、3年ぶりに15倍を下回った。(理系)(86)は、2年連続減少。
- 理(73)**は、前年度増加の反動で大幅減少。さらに、一橋大(ソーシャル・データサイエンス)<後>の新設により、理系の前期難関大志願者の後期併願先が増えたことも影響。この結果、志願倍率も14.6倍→10.7倍へダウン、理系では理のみの募集となった2008年度以降では最低倍率。



東京大：大学全体では 2 年ぶりに減少、文科三類は第 1 段階選抜実施なし

前期：-201 人



**主な入試変更点** 第 1 段階選抜基準変更：理科三類<前>…約 3.5 倍→約 3 倍

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

前期のみの募集だが、大学全体では 201 人(98)の微減で 2 年ぶりの減少。文理別では、文科類が 119 人(97)のやや減少で 2 年ぶりの減少、理科類が 82 人(99)の微減だが 3 年ぶりの減少。6 科類中 4 科類が減少、2 科類が増加。

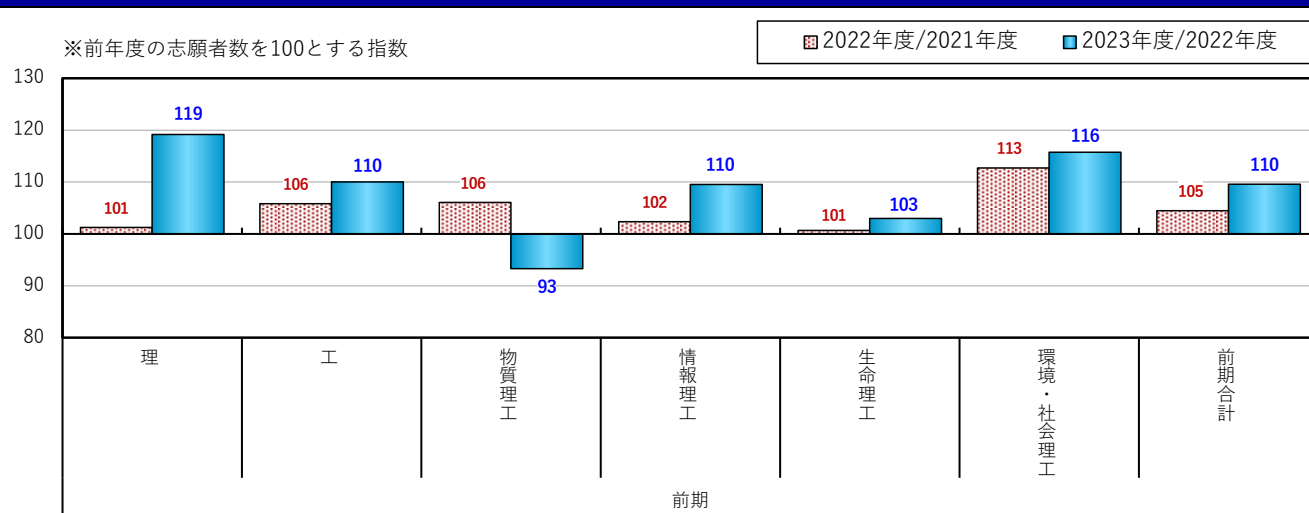
<前期日程>

- 文科一類(96)は、難関大法学系への人気の低さもあり、やや減少。
- 文科二類(101)は、微増だが 2 年連続増加。
- 文科三類(95)は、やや減少で 3 年ぶりの減少。志願者数は第 1 段階選抜合格予定数を 7 人(無資格者除く)上回ったが、第 1 段階選抜は実施されなかった。
- 理科一類(95)は、やや減少。志願者数は 2013 年度以来 10 年ぶりに 2,900 人を下回った。
- 理科二類(103)は、前年度約 13%増加の反動はなく、やや増加。
- 理科三類(100)は、前年度約 9%増加の反動および第 1 段階選抜基準が厳しくなった影響はなく、前年度並。
- 第 1 段階選抜合格率 ※〔 〕内は合格者最低点  
 文科一類…97.3%〔479 点〕、文科二類…96.2%〔454 点〕、文科三類…実施なし、文科類全体…97.9%  
 理科一類…97.6%〔543 点〕、理科二類…81.2%〔711 点〕、理科三類…69.3%〔640 点〕、理科類全体…88.7%  
 ●文理別の合格率は、文科類全体は文科三類で第 1 段階選抜が実施されなかったこともあって、前年度よりも 3.2 ポイントアップ。理科類全体は 0.3 ポイントアップで、ほぼ前年度並。なお、3 年連続で文科類の方が高い合格率となった。  
 ●第 1 段階選抜の合格者最低点得点率は、最も高い理科二類では 79.0%と 8 割近かった。また、第 1 段階選抜実施基準が厳しくなった理科三類は、71.1%と 7 割を超えて、近年では高得点となった。しかし、これらを除くと文科一類、文科二類では 6 割に達せず、理科一類もやっと 6 割に達した程度で、東京大志願者にとっては決して高得点ではなかった。

<推薦入試> ※〔 〕内は前年度数値

- 募集人員 100 人程度に対して、志願者数は 253 人〔240 人〕、合格者数は 88 人〔88 人〕。
- 志願者数は、コロナ禍の影響により、前年度は 27 人減少だが、今年度は 13 人増加。合格者数は前年度と同数。
- 学部別合格者数：法…8 人〔9 人〕、経済…7 人〔6 人〕、文…8 人〔8 人〕、教育…4 人〔7 人〕、教養…4 人〔6 人〕  
 工…34 人〔29 人〕、理…8 人〔11 人〕、農…8 人〔5 人〕、薬…2 人〔2 人〕、医(医)…4 人〔4 人〕  
 医(健康総合科学)…1 人〔1 人〕
- 募集人員を充足する合格者を発表した募集単位は、工と医(医)の 2 募集単位に留まり、前年度の 4 募集単位から半減。
- 科類別合格者数：文科一類…9 人〔9 人〕、文科二類…7 人〔8 人〕、文科三類…15 人〔18 人〕  
 理科一類…40 人〔36 人〕、理科二類…13 人〔13 人〕、理科三類…4 人〔4 人〕

東京工業大：大学全体では2年連続増加、学院別では物質理工を除く5学院で増加 前期：+365人



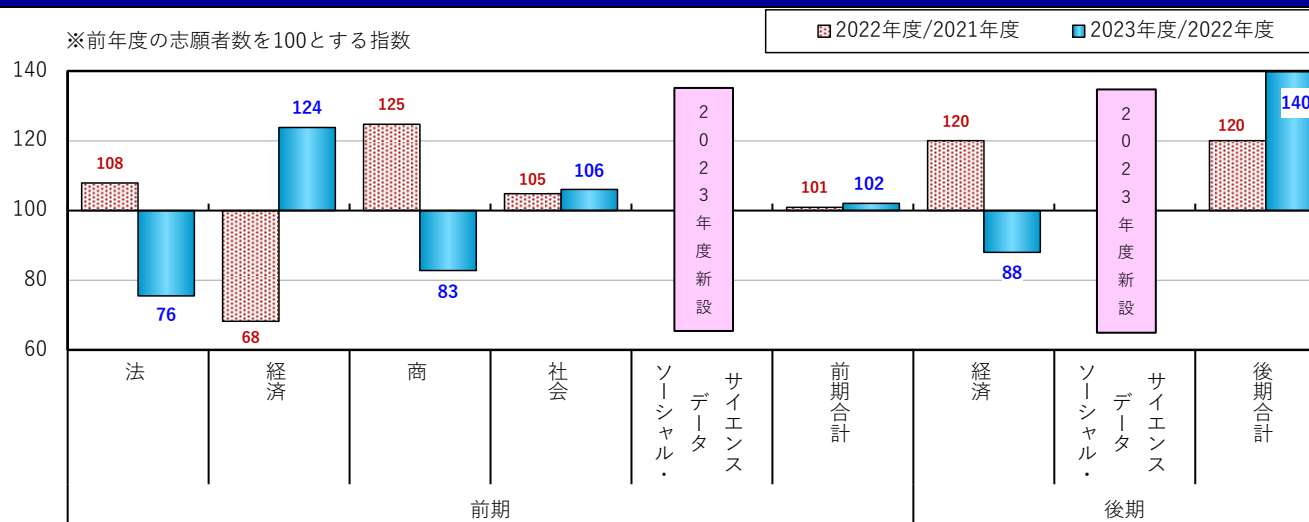
COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

前期のみの募集だが、大学全体では365人(110)の増加で2年連続増加、志願者数は類別募集から学院別募集への変更(以下「改組」と表記)した2019年度に次ぐ人数で4,100人を上回った。東京医科歯科大との統合や2024年度入試からの特別選抜における「女子枠」導入などで注目をされたことが増加に影響。学院別では、前年度全学院で増加したが、物質理工(93)だけがやや減少で、他の5学院は理(119)を筆頭に引き続き増加。

<前期日程>

- 理(119)は、大幅増加で2年連続増加。志願倍率は4.5倍→5.3倍にアップし、2019年度の改組以降では最も高倍率。
- 工(110)は、2年連続増加。志願者数は2019年度の改組初年度に次ぐ人数。志願倍率は4.2倍→4.6倍にアップ。
- 物質理工(93)は、やや減少で6学院中唯一減少。志願者数は2019年度の改組以降では最少。
- 情報理工(110)は、2年連続増加。志願者数は2019年度の改組以降では最多。志願倍率は6学院で最も高倍率の9.9倍で、2019年度の改組以降でも最も高倍率。
- 生命理工(103)は、やや増加で3年連続増加。志願倍率は2.2倍→2.3倍とわずかなアップだが、6学院中では最も低倍率。
- 環境・社会理工(116)は、大幅増加で2年連続増加。志願者数は2019年度の改組初年度に次ぐ人数で400人を上回った。志願倍率も3.9倍→4.5倍にアップ。
- 全学院の志願者数の合計が募集人員の4倍を超えた(志願倍率4.5倍)ことで第1段階選抜が実施され、合格率は89.5%。

一橋大：ソーシャル・データサイエンスの新設で、前期は微増、後期は大幅増加 前期：+53人 後期：+495人



主な入試変更点  
 学部新設：ソーシャル・データサイエンス…<前>30人、<後>25人  
 募集人員：法…<前>160人→149人  
 経済…<前>200人→185人、<後>60人→58人  
 商…<前>260人→243人  
 社会…<前>225人→210人

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は53人(102)の微増で3年連続増加。新設のソーシャル・データサイエンスを除いた既存の4学部では(95)のやや減少だが、募集人員が7%減少したことにより志願倍率は3.1倍→3.2倍にアップ。後期は従来からの経済にソーシャル・データサイエンスを加えた募集となり、495人(140)の大幅増加。募集人員の増加率38%を上回った。ただし、ソーシャ

ル・データサイエンスを除いた経済のみとの比較では(88)の減少。

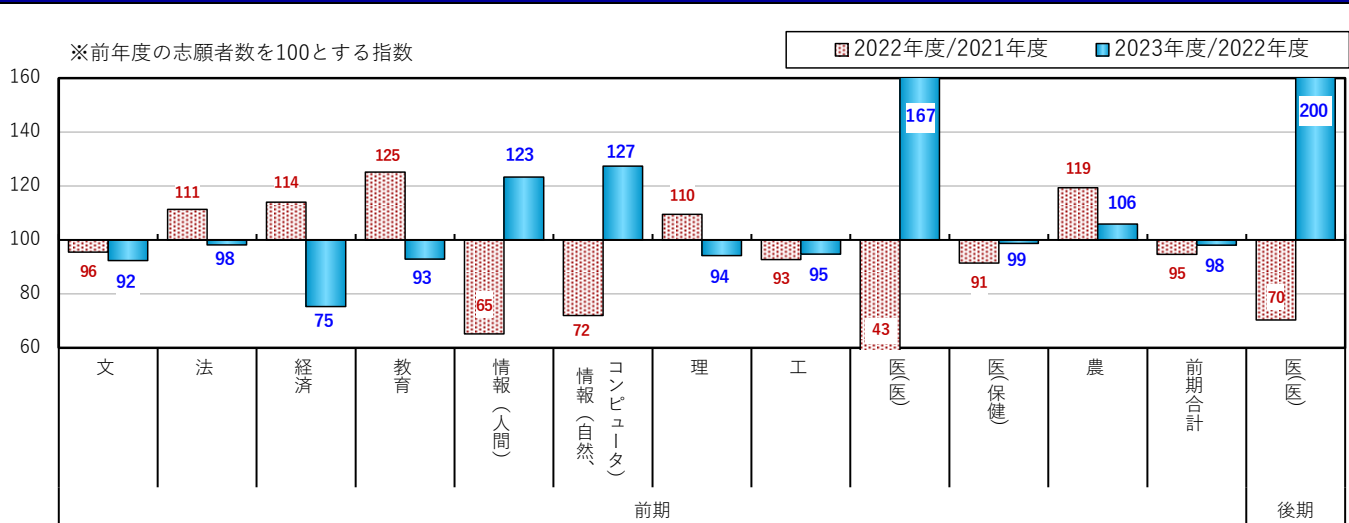
<前期日程>

- 法(76)は、3年連続増加の反動で大幅減少。募集人員は7%減少したが、志願倍率は3.5倍→2.9倍にダウン。
- 経済(124)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。募集人員は8%減少で、志願倍率は2.4倍→3.3倍にアップ。
- 商(83)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。募集人員は7%減少したが、志願倍率は3.4倍→3.0倍とダウン。
- 社会(106)は、2年連続やや増加。志願者数は3年ぶりに700人を上回った。募集人員は7%減少で、志願倍率は3.2倍→3.6倍にアップ。
- 新設のソーシャル・データサイエンスは、募集人員30人、志願者数182人で、志願倍率は6.1倍。前期全体の志願倍率3.3倍を上回り、5学部中最も高い倍率。
- 志願倍率の基準による第1段階選抜は、経済、商、社会、ソーシャル・データサイエンスで実施され、それぞれの合格率は92.2%、99.6%、88.5%、51.6%。4学部では新設のソーシャル・データサイエンスが最も厳しく、志願者の半数近くが不合格となった。

<後期日程>

- 経済(88)は、前年度大幅増加の反動で減少。志願倍率は20.7倍→18.9倍にダウン。
- 新設のソーシャル・データサイエンスは、募集人員25人、志願者数644人で、志願倍率は25.8倍で、経済を上回った。
- 志願倍率の基準による第1段階選抜は、経済とソーシャル・データサイエンスで実施され、それぞれの合格率は74.0%、71.0%。

名古屋大：前期は微減、後期は医(医)のみだが募集枠変更で倍増 前期：-81人 後期：+38人



<b>主な入試変更点</b>	第1段階選抜基準変更：医(医)<前>…共通テストの合計が900点満点中700点以上の者 →共通テストの合計が900点満点中600点以上の者 医(医)<後>…共通テストの合計が900点満点中700点以上の者 →約12倍(通過予定人数：約60人) 募集人員：医(医)<前>…(一般枠)90人、(地域枠)0人→(一般枠)85人、(地域枠)5人 ※地域枠新設 医(医)<後>…(一般枠)0人、(地域枠)5人→(一般枠)5人、(地域枠)0人 ※一般枠新設、地域枠廃止
----------------	---

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は81人(98)の微減で2年連続減少。文理別では、文系は2年連続増加の反動により、133人(89)の減少。理系は前年度減少の反動は小さく、52人(102)の微増。後期は医(医)のみの募集だが、今年度から募集枠を(地域枠)から(一般枠)に変更したことにより38人(200)の倍増。

<前期日程>

- 文(92)は、系統への低い人気より前年度のやや減少に引き続き減少。志願者数は7年ぶりに220人を下回った。
- 法(98)は、2年連続増加の反動は小さく微減。
- 経済(75)は、前年度増加の反動で大幅減少。志願者数は2005年度以来の18年ぶりに400人を下回った。
- 教育(93)は、前年度大幅増加の反動でやや減少。
- 情報(126)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、文系の(人間・社会情報)(123)は大幅増加で前年度の反動による増減が継続。理系の(コンピュータ科学)(143)は2年連続減少の反動で大幅増加、(自然情報)(103)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。
- 理(94)は、前年度4年ぶりに増加に転じたが反動でやや減少。
- 工(95)は、2年連続やや減少で、7学科中4学科が減少。2017年度の改組後では志願者数は最少で1,500人を下回った。学科別では、(エネルギー理工)(143)は前年度ほぼ半減の反動で大幅増加。(マテリアル工)(131)は大幅増加で前年度の反動による増減が継続。(環境土木・建築)(107)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。一方で、(物理工)(71)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。(電気電子情報工)(80)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、2017年度の改組後初めて志願者数300人を下回った。(化学生命工)(82)は大幅減少で2年連続減少、2017年度の改組後初めて志願者数150人台となった。(機械航

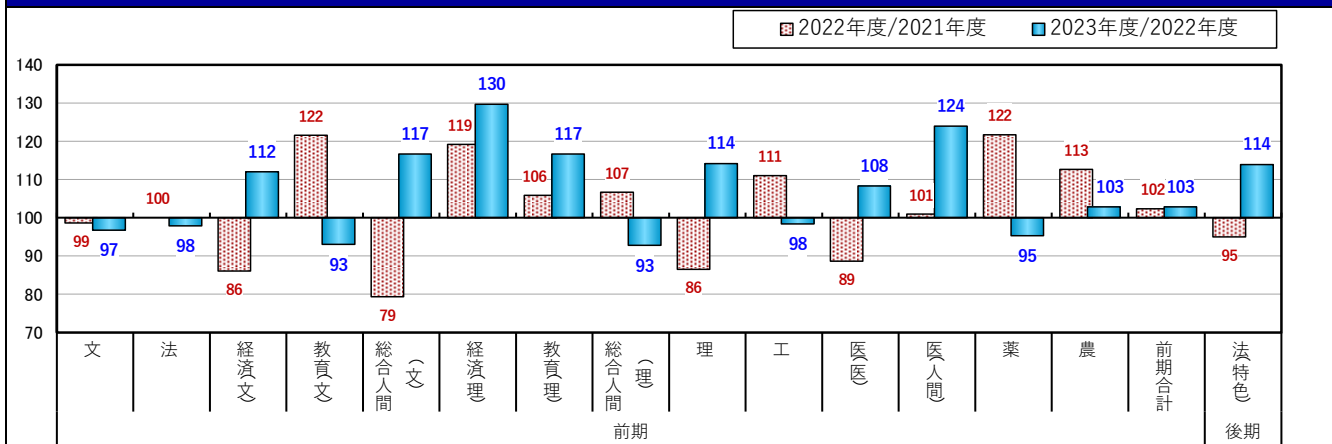
空宇宙工)(98)は微減だが2年連続減少、2017年度の改組後では志願者数は最少。

○**医(医)(167)**は、募集人員90人中5人が新たに(地域枠)となった。学科全体では、第1段階選抜の基準点緩和に共通テスト平均点のアップが加わり激増。募集枠別では、(一般枠)(151)は5割を超える大幅増加で、募集人員が6%減少したこともあって、志願倍率は1.7倍→2.7倍にアップ。新規の(地域枠)は募集人員5人に志願者数は23人で志願倍率は4.6倍と(一般枠)よりも厳しい競争だった。

○**医(保健)(99)**は、微減だが3年連続減少。専攻別では、(保健/看護学)(76)は2年連続増加の反動で25%近い大幅減少だが、これを除く4専攻は増加。(保健/放射線技術科学)(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(保健/作業療法学)(113)は2年連続大幅減少の反動で増加。(保健/検査技術科学)(108)は前年度大幅増加に引き続き、さらに増加。(保健/理学療法学)(106)は、前年度減少の反動は小さくやや増加。

○**農(106)**は、系統への高い人気もあり、前年度の大幅増加に引き続きやや増加。学科別では、(資源生物科学)(153)は大幅増加で2年連続増加、志願者数が130人を上回ったのは現行課程入試が始まった2015年度以降では初。志願倍率も2.1倍→3.2倍にアップ。(生物環境科学)(111)も2年連続増加。一方で、(応用生命科学)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

**京都大：前期は大学全体では2年連続増加** 前期：+207人 後期：+50人



**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は207人(103)のやや増加で2年連続増加。文理別では、文系は40人(102)の微増で5年ぶりの増加、理系は167人(103)のやや増加で2年連続増加。特色入試として実施の法のみ募集の後期は50人(114)の増加で、2018年度以降は前年度の反動による増減が継続。

**<前期日程>**

○**文(97)**は、系統への低い人気からやや減少で4年連続減少。

○**法(98)**は、微減。志願者数は募集人員が300人になった2016年度以降で初めて700人を下回った。

○**経済**は、(文系)(112)で、系統への高い人気と2年連続減少の反動で増加、志願者数は2年ぶりに500人を上回った。(理系)(130)は、系統への高い人気から2年連続大幅増加、志願者数は6年ぶりに150人を上回った。

○**教育**は、(文系)(93)は2年連続増加の反動でやや減少。一方で、(理系)(117)は大幅増加で2年連続増加。

○**総合人間**は、(文系)(117)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(理系)(93)は前年度やや増加の反動でやや減少。

○**理(114)**は、前年度14%減少の反動で増加。

○**工(98)**は、前年度増加の反動は小さく、微減に留まった。学科別では、系統への人気が高い工業化(90)は減少で9年連続減少、電気電子工(91)は前年度大幅増加の反動で減少。一方で、地球工(107)はやや増加で2年連続増加、志願者数は8年ぶりに400人を上回った。これらを除く3学科はいずれも前年度並。

○**医(医)(108)**は、前年度減少の反動で増加したが、志願者数は5年連続300人を下回った。

○**医(人間健康科学)(124)**は、大幅増加で2年連続増加。志願者数は6年ぶりに250人を上回った。

○**薬(95)**は、2年連続増加の反動は小さく、やや減少。

○**農(103)**は、やや増加で2年連続増加。志願者数は2年連続700人を上回った。

○志願倍率の基準による第1段階選抜は、総合人間(文系)、総合人間(理系)、教育(理系)、経済(理系)で実施され、それぞれの合格率は96.9%、96.9%、83.3%、79.1%だった。4募集単位では経済(理系)が最も厳しかった。

**<特色入試>** ※〔 〕内は前年度数値

○後期募集の法を除くと、募集人員152人〔145人〕に対して、志願者数は486人〔494人〕、合格者数は113人〔95人〕。志願倍率は3.2倍〔3.4倍〕で0.2ポイントダウンした。過去2年間で同様に、コロナ禍によって志願者数が減少。

○学部・学科・コース・入試方式別の合格者数は以下のとおり。

文…9人〔9人〕、経済…15人〔15人〕、教育…1人〔5人〕、総合人間…4人〔5人〕

理…12人〔10人〕(数理科学入試6人〔4人〕、生物科学入試6人〔6人〕)

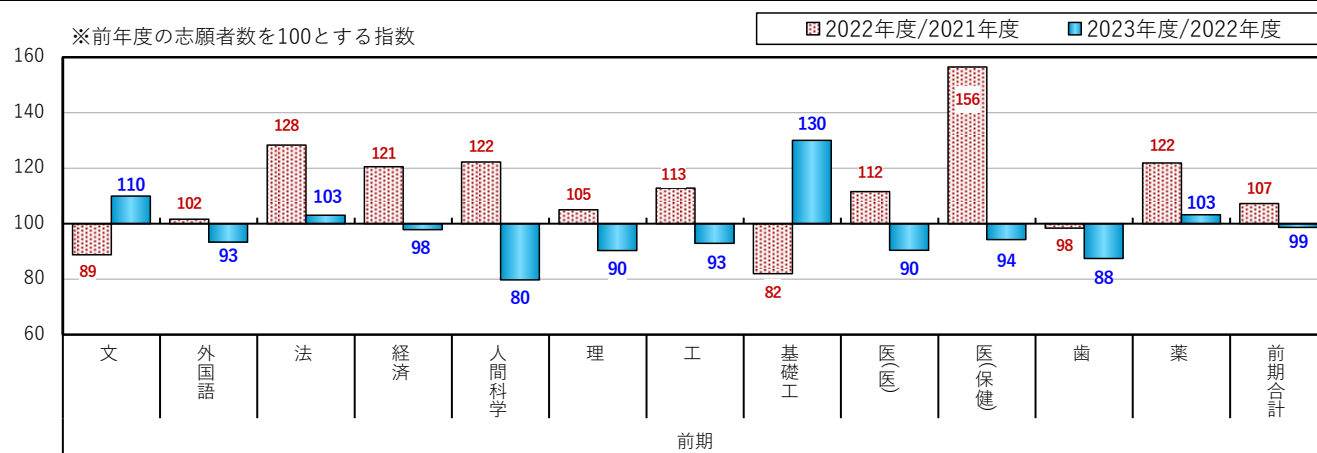
工(建築)…2人〔1人〕、(工業化)…13人〔3人〕、(情報)…2人〔2人〕、(電気電子工)…4人〔4人〕、(物理工)…5人〔5人〕、(地球工)…4人〔1人〕

医(医)…2人〔1人〕、(人間健康科学/先端看護科学)…16人〔15人〕、(人間健康科学/先端リハビリテーション科学-理学療法学)…5人〔4人〕、(人間健康科学/先端リハビリテーション科学-作業療法学)…3人〔3人〕

薬(薬科学)…3人〔1人〕、(薬)…1人〔1人〕

農(食料・環境経済)…3人〔2人〕、(資源生物科学)…0人〔1人〕、(応用生命科学)…2人〔1人〕、  
(地域環境工)…1人〔3人〕、(森林科学)…6人〔3人〕、(食品生物科学)…0人〔0人〕

## 大阪大：大学全体では微減、増加は4学部のみ、3学部を除き前年度と逆の増減 前期：-103人



主な入試変更点 募集人員：医(医)…<前>95人→92人

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

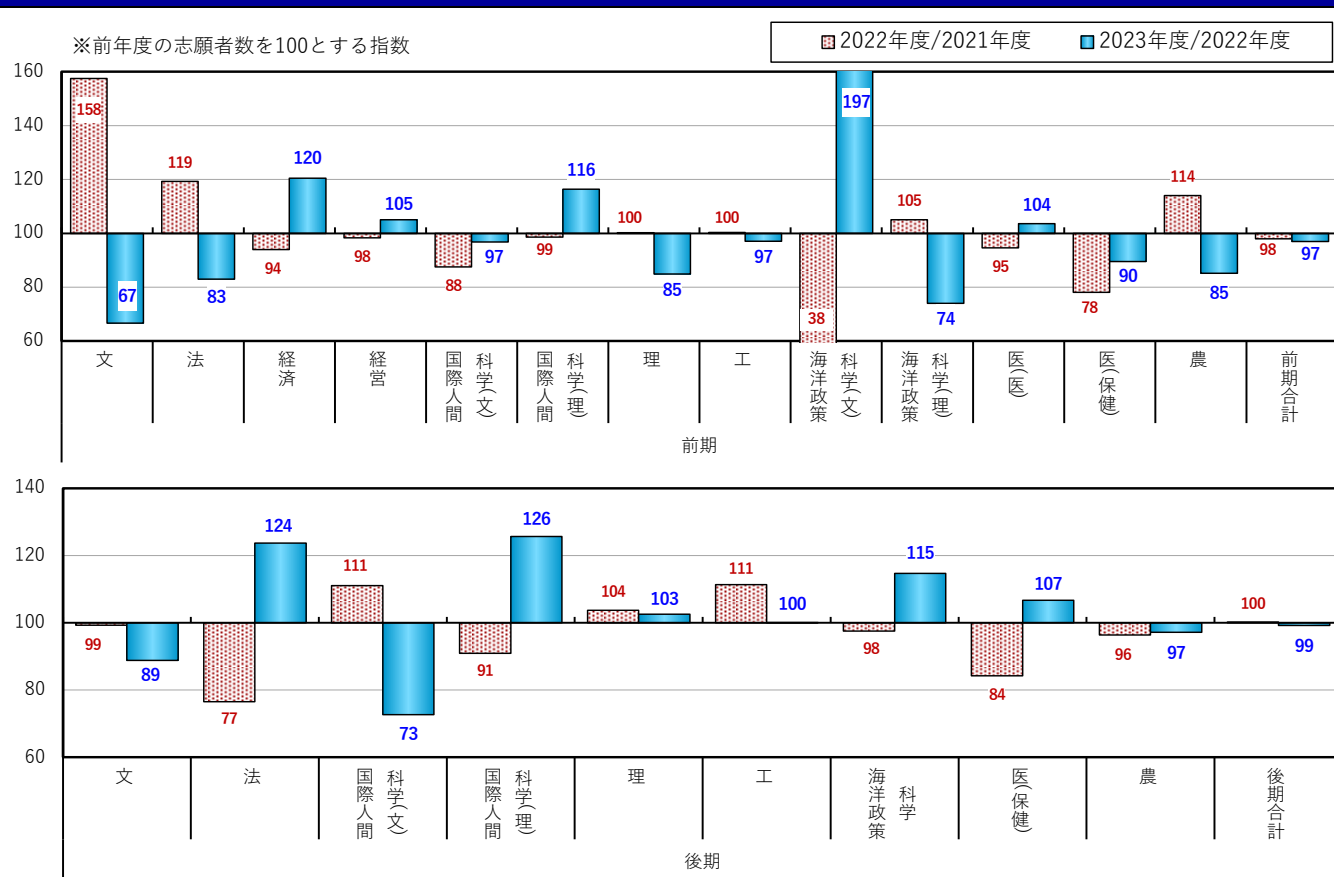
大学全体では、前期のみの募集で、103人(99)の微減で2年ぶりの減少。文理別では、文系は105人(97)のやや減少、理系は2人(100)の微増のみで前年度並。学部別(医は学科別)では、増加は基礎工(130)、文(110)、薬(103)、法(103)の4学部のみ。他はいずれも減少で、特に人間科学(80)は大幅減少。また、法、薬は連続増加、歯は連続減少だが、他はいずれも前年度と逆の増減。

### <前期日程>

- 文(110)は、前年度減少の反動で増加。
- 外国語(93)は、系統への低い人気もあってやや減少で、志願者数は6年ぶりに1,200人を下回った。専攻別では、25専攻中で減少が15専攻、増加が10専攻。
- 法(103)は、やや増加で3年連続増加。学科別では、(法)(115)は大幅増加で3年連続増加。一方で、(国際公共政策)(75)は前年度大幅増加の反動で大幅減少で、募集人員が72人になった2017年度以降では志願者数は最少。
- 経済(98)は、前年度大幅増加の反動は小さく、微減。
- 人間科学(80)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(90)は、減少。志願者数は5年ぶりに600人を下回った。学科・コース別では、(生物科学/生命理学)(121)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(生物科学/生命科学)(105)はやや増加で3年連続増加。一方で、(数)(82)、(化)(84)はいずれも前年度増加の反動で大幅減少、(物理)(89)は前年度やや増加の反動で減少。
- 工(93)は、前年度増加の反動でやや減少。学科別では、(応用理工)(87)、(電子情報工)(88)はいずれも前年度大幅増加の反動で減少。(応用自然科学)(95)はやや減少だが3年連続減少。一方で、(地球総合工)(107)は2年連続減少の反動でやや増加。(環境・エネルギー工)(101)は前年度大幅増加の反動はなく前年度並。
- 基礎工(130)は、大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、前年度全ての学科で減少したが、一転して(化学応用科学)(154)、(電子物理科学)(133)、(システム科学)(127)、(情報科学)(119)と4学科全てが大幅増加。
- 医(医)(90)は、減少。2019年度以降は反動による増減が継続。
- 医(保健)(94)は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少。専攻別では、前年度は3専攻全てが大幅増加したが、(保健/看護学)(85)は大幅減少、(保健/放射線技術科学)(95)はやや減少。一方で、(保健/検査技術科学)(109)は2年連続増加。
- 歯(88)は、前年度の微減に引き続き2年連続減少。
- 薬(103)は、6年制のみの募集。系統への高い人気から前年度大幅増加の反動はなく、やや増加で2年連続増加。しかしながら、志願倍率は3倍には達しなかった。

神戸大：前期はやや減少、後期は前年度並

前期：-186人 後期：-32人



主な入試変更点 募集人員：工(電気電子)<前>…73人→65人、<後>18人→26人

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は186人(97)のやや減少。文理別では、文系は75人(103)のやや増加、理系は261人(92)の減少。後期は32人(99)の微減で前年度並。文理別では、文系は107人(93)のやや減少、理系は75人(103)のやや増加。

<前期日程>

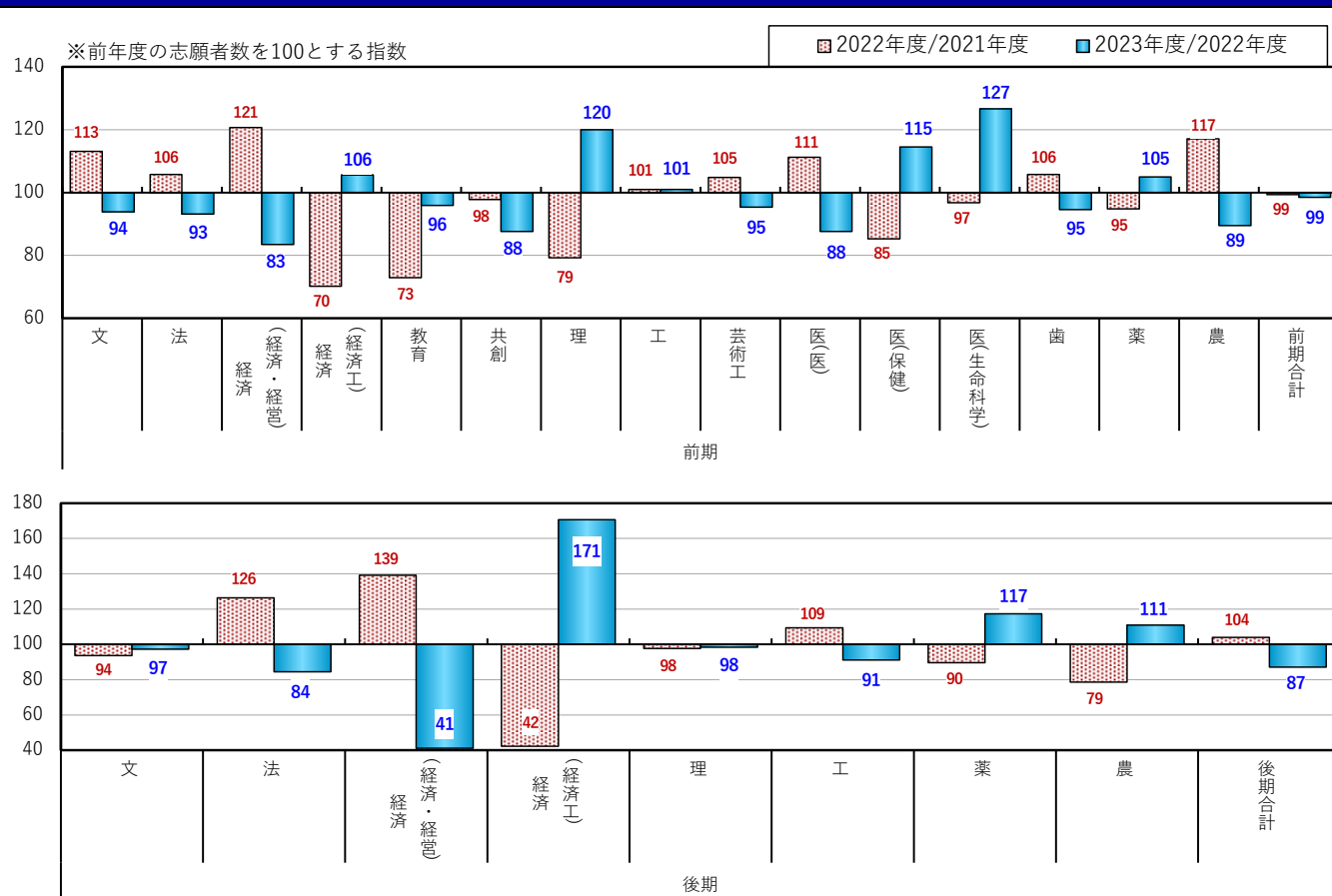
- 文(67)は、系統への低い人気に加えて、前年度50%以上の大幅増加の反動で大幅減少、大幅増減が4年連続継続。
- 法(83)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は、募集人員が117人になった2019年度以降では最少。
- 経済(120)は、大幅増加。志願者数が800人を上回ったのは4年ぶり。方式別では、募集人員が160人と最大の(総合)(129)は前年度減少の反動で大幅増加。志願者数が700人を上回ったのは4年ぶり。一方で、(数学)(59)は前年度倍増の反動で40%以上の大幅減少、(英数)(95)はやや減少。なお、志願者数は3年連続40人台で変化は少ない。
- 経営(105)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加。
- 国際人間科学(99)は、前年度減少の反動はなく前年度並。募集単位別では、(発達コミュニティ)(134)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、2017年度の改組以降は反動による増減が継続。(環境共生(理科系))(116)も2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(グローバル文化)(82)は2年連続増加の反動で大幅減少、(環境共生(文科系))(87)は前年度大幅減少に引き続き減少、志願者数は3年ぶりに50人を下回った。(子ども教育)(90)は2年連続増加の反動で減少。
- 理(85)は、4年連続増加の反動で大幅減少、志願者数は5年ぶりに300人を下回った。学科別では、5学科中で4学科が減少。(生物)(114)は前年度微増に引き続き増加。一方で、(化学)(72)は大幅減少で2年連続減少、(惑星)(76)は大幅減少で反動による増減が継続、(数学)(84)は前年度増加の反動で大幅減少、(物理)(91)は前年度大幅減少に引き続き減少。
- 工(97)は、やや減少。志願者数は3年ぶりに1,600人を下回った。学科別では、(機械工)(117)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(応用化学)(85)は2年連続増加の反動で大幅減少、(電気電子工)(90)は、募集人員が8人減少(募集人員の対前年度指数89)した影響もあり4年連続減少、(建築)(91)は2年連続大幅増加の反動で減少。その他の2学科は前年度並。
- 海洋政策科学(92)は、減少で2年連続減少。方式別では、(文系科目重視型)(197)は前年度激減の反動ではほぼ倍増、志願倍率も2.1倍→4.1倍にアップ。一方で、(理系科目重視型)(74)は大幅減少で、現在の募集形態となった2021年度以降で最少。
- 医(医)(104)は、前年度減少の反動は小さく9人のやや増加。共通テスト360点：個別試験450点と比較的共通テストの比重が高く、共通テストの平均点が上がったことも影響。
- 医(保健)(90)は、前年度大幅減少に引き続き減少。専攻別では、4専攻中3専攻が減少。(保健/作業療法学)(114)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(保健/看護)(83)は2年連続大幅減少、(保健/理学療法学)(86)は2年連続増加の反動で減少、(保健/検査技術科学)(94)は前年度大幅減少に引き続きやや減少。
- 農(85)は、2年連続増加の反動で大幅減少。志願者数は3年ぶりに300人を下回った。学科・コース別では、前年度とは逆に6学科・コース全てが減少。特に、(食料環境システム/食料環境経済学)(74)、(食料環境システム/生産環境工学)(79)、(資源生命科学/応用動物学)(83)、(生命機能科学/応用生命化学)(83)はいずれも2年連続増加の反動で大幅減少。

<後期日程>

- 文(89)は、系統への低い人気で減少。
- 法(124)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加、2020 年度以降は反動による大幅増減が継続。
- 国際人間科学(78)は、系統への低い人気と前年度増加の反動で大幅減少。募集単位別では、(環境共生(理科系))(126)が唯一増加、他の 4 募集単位はいずれも減少で、前年度と逆の増減。(環境共生(理科系))(126)は前年度減少の反動で大幅増加。一方で、(環境共生(文科系))(53)は 3 年連続増加の反動でほぼ半減、(子ども教育)(61)は 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少、(グローバル文化)(73)も大幅減少で、志願者数は 2017 年度改組以降で最少、260 人を下回った。(発達コミュニティ)(94)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。
- 理(103)は、やや増加で 3 年連続増加。学科別では、(生物)(161)は前年度大幅減少の反動で激増。志願倍率も 7.0 倍→11.3 倍にアップ。(惑星)(129)は大幅増加で 2 年連続増加、(数学)(108)は増加で、志願者数は 11 年ぶりに 90 人を上回った。一方で、(化学)(75)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(物理)(89)は減少で 2 年連続減少。
- 工(100)は、前年度並。学科別では、6 学科中 4 学科が増加。募集人員が 8 人増加(募集人員の対前年度指数 144)した(電気電子工)(114)は 4 年連続増加だが、志願倍率は 12.8 倍→10.2 倍にダウン。(建築)(113)も増加、(応用化学)(105)はやや増加、(機械工)(102)は前年度大幅増加の反動はなく微増。一方で、(市民工)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(情報知能工)(87)は 2 年連続増加の反動で減少。
- 医(保健)(107)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。専攻別では、(保健/検査技術科学)(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(保健/理学療法学)(100)、(保健/看護学)(99)はいずれも前年度並。
- 農(97)は、やや減少で 3 年連続減少。学科・コース別では、6 学科・コース中 2 学科・コースが大幅増加。(生命機能科学/応用機能生物)(141)は 2 年連続減少の反動で大幅増加、(食料環境システム/生産環境工)(130)は大幅増加で 2 年連続増加。一方で、(資源生命科学/応用植物学)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(食料環境システム/食料環境経済学)(76)は 2 年連続増加の反動で大幅減少、(資源生命科学/応用動物学)(89)は減少で 4 年連続減少。(生命機能科学/応用生命化学)(95)は 2 年連続やや減少。

九州大：大学全体では前期は前年度並、後期は減少

前期：-76 人 後期：-331 人



**主な入試変更点** 募集人員：医(医)<前>…110 人→105 人  
 個別試験：農<前>…数+理 2 +外 ※理：(物 or 化 or 生 or 地学)→ 2  
 →数+理 2 +外 ※理：(物 or 化 or 生)→ 2 ※理科の選択から地学除外

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 76 人(99)の前年度並、志願倍率は 3 年連続で 2.6 倍。文理別では、文系は 129 人(90)の減少、理系は 53 人(101)の微増で前年度並。後期は 331 人(87)の減少。文理別では、文系は 338 人(66)の大幅減少、志願者数は 700 人を下回り、募集人員が 81 人となった 2021 年度以降では最少。理系は 7 人(100)の微増で前年度並。

## &lt;前期日程&gt;

- 文(94)は、前年度増加の反動でやや減少。
- 法(93)は、やや減少。2019 年度以降は前年度の反動による増減が継続。
- 経済(91)は、2 年連続減少。学科別では、文系の(経済・経営)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。理系の(経済工)(106)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。
- 共創(88)は、前年度微減に引き続き 2 年連続減少。
- 理(120)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 工(101)は、前年度並。2021 年度の改組後は、志願倍率は 2.2 倍が継続。
- 芸術工(95)は、前年度やや増加の反動でやや減少。(学科一括)(103)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。コース別募集では、(芸術工/インダストリアルデザイン)(139)は大幅増加で 2 年連続増加、志願者数は 2020 年度の改組後最多。(芸術工/環境設計)(111)は前年度減少の反動で増加。一方で、(芸術工/未来構想デザイン)(42)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願者数は 2020 年度の改組後最少。(芸術工/メディアデザイン)(72)も前年度大幅増加の反動で大幅減少、同じく志願者数は 2020 年度の改組後最少。
- 医(医)(88)は、2 年連続増加の反動と募集人員が 5 人(5%)減少したことで減少。
- 医(保健)(115)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。専攻別では、(保健/検査技術科学)(154)は前年度減少の反動で 50%以上の大幅増加、(保健/看護学)(117)も前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(保健/放射線技術科学)(86)は 2 年連続増加の反動で減少。
- 医(生命科学)(127)は、大幅増加で志願倍率も 3 年ぶりに 3 倍を上回った。
- 歯(95)は、2 年連続増加の反動は小さくやや減少。
- 薬(105)は、やや増加。学科別では、6 年制の(臨床薬)(117)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、4 年制の(創薬科学)(97)は、系統への高い人気もあって、3 年連続増加の反動は小さくやや減少に留まった。志願者数は 3 年連続 100 人を上回った。
- 農(89)は、前年度大幅増加の反動で減少。

## &lt;後期日程&gt;

- 文(97)は、2 年連続やや減少。志願倍率は 7 年ぶりに 8 倍を下回った。
- 法(84)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2017 年度以降、反動による増減が継続。
- 経済(61)は、3 年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、文系の(経済・経営)(41)は 3 年連続増加の反動で半減以下、志願倍率は 8 年ぶりに 8 倍を下回った。理系の(経済工)(171)は前年度半減以下の反動で激増。
- 理(98)は、2 年連続微減。学科別では、(地球惑星科学)(117)の大幅増加、(化学)(82)の大幅減少が目立った。
- 工(91)は、2 年連続増加の反動で減少。学科群別では、(V 群)を除く 5 つの学科群での募集だが、全てで減少。(II 群)(85)は大幅減少、志願倍率も 8.6 倍→7.3 倍にダウン。(I 群)(87)は減少、志願倍率も 11.2 倍→9.7 倍にダウン。(IV 群)、入学時に特定の学科または学科群を選択しない(VI 群)はいずれも(93)のやや減少。(III 群)(96)もやや減少。
- 薬(117)は、前年度減少の反動で大幅増加。2016 年度以降、反動による増減が継続。学科別では、(創薬科学)(127)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(臨床薬)(109)は 3 年連続増加。
- 農(111)は、前年度大幅減少の反動で増加。

## ⑨医学部医学科志願状況

□前期、後期いずれもやや増加で、前期は 3 年連続、後期も 2 年連続増加

〔設置・日程別志願状況〕

		2023年度	増減数	指数	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
募集人員	前期	3,584	-52	99	3,636	3,604	3,597	3,644	3,676	3,699	3,683	3,653
	後期	351	-12	97	363	408	454	524	539	541	556	586
	合計	3,935	-64	98	3,999	4,012	4,049	4,168	4,215	4,240	4,239	4,239
志願者数	前期	15,960	+873	106	15,087	14,773	14,742	16,390	17,064	18,093	18,342	18,999
	後期	7,549	+294	104	7,255	7,110	7,404	9,081	8,969	9,927	10,073	11,047
	合計	23,509	+1,167	105	22,342	21,883	22,146	25,471	26,033	28,020	28,415	30,046
志願倍率	前期	4.45			4.15	4.10	4.10	4.50	4.64	4.89	4.99	5.20
	後期	21.51			19.99	17.43	16.31	17.33	16.64	18.35	18.12	18.85
	合計	5.97			5.59	5.45	5.47	6.11	6.18	6.61	6.70	7.09

医学部医学科(以下「医学科」)一般選抜全体の志願者数は、後期募集廃止大学の増加、地域枠を中心として総合型選抜や学校推薦型選抜への募集人員の移行、受験人口減少に伴う既卒受験生の減少などの減少要因がありましたが、コロナ禍による医学への関心の高まりと共に、現役生の医学科志望者増加と固い志望動機を持ち他系統への志望変更を考えない受験生の増加により、募集人員が 64 人(98)減少する中で、1,167 人(105)のやや増加となりました。

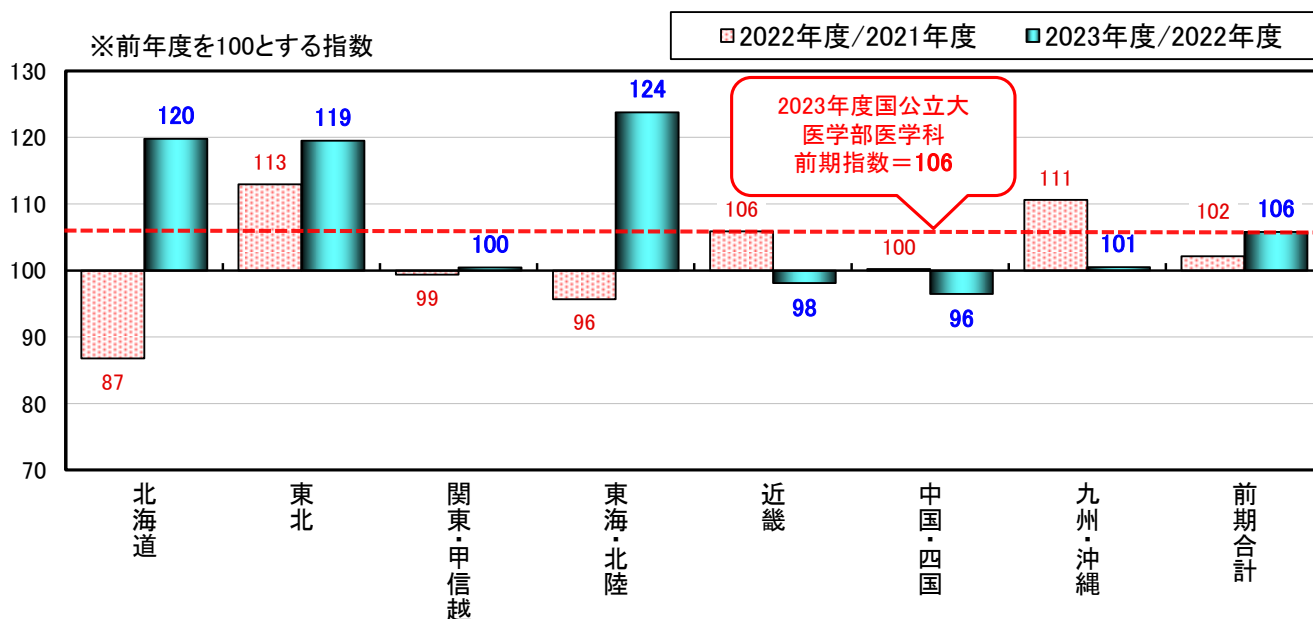


日程別では、前期は 873 人(106)のやや増加で、3 年連続増加。後期も 294 人(104)のやや増加で、2 年連続増加しました。今年度後期募集を廃止した岐阜大を除いた大学合計での比較では、(110)とさらに増加がみられました。この結果、志願倍率は前期が 4.15 倍→4.45 倍と 0.30 ポイントアップ、後期は 19.99 倍→21.51 倍と 1.52 ポイントアップとなり、2001 年度以降では 2012 年度の 21.05 倍を上回り、最も高倍率となりました。

□前期の地区別では東海・北陸、北海道、東北が増加、中国・四国が減少

〔地区別志願者指数〕

<前期日程>



前期合計では 873 人(106)のやや増加でした。地区別では、東海・北陸(124)、北海道(120)、東北(119)は大幅増加でした。一方で、中国・四国(96)はやや減少でした。

○北海道(120)

旭川医科大(149)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。札幌医科大(132)も大幅増加で前年度微増に引き続き増加。一方で、北海道大(92)は募集人員の減少もあり、3 年連続減少で志願者数は 2015 年度以来 8 年ぶりに 300 人を下回った。

○東北(119)

福島県立医科大(154)は大幅増加、2017 年度以降は前年度の反動による増減が継続。弘前大(130)は 2 年連続大幅増加。一方で、山形大(97)は前年度大幅増加の反動は小さく大学全体ではやや減少だが、<地域枠>(75)は大幅減少。

○関東・甲信越(100)

筑波大(106)は<一般枠>と<地域枠全国対象>との併願が可能になったが、大学全体では前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。ただし、<地域枠>(186)は激増、<一般枠>(84)は大幅減少と対照的。千葉大(105)は前年度減少の反動は小さくやや増加。一方で、群馬大(95)は前年度激増の反動は小さくやや減少。また、東京大(100)は第 1 段階選抜基準を 3.5 倍→3 倍と厳しくしたが、変動はなかった。

○東海・北陸(124)

富山大(193)は激増で前年度の微増に引き続き増加。浜松医科大(187)は 2 年連続大幅減少の反動で大幅増

加。名古屋大(167)は第1段階選抜基準を900点満点中700点以上の者→900点満点中600点以上の者に緩和したことに加えて、前年度57%の大幅減少だった反動で大幅増加。名古屋市立大(121)、金沢大(119)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。岐阜大(127)は2年連続大幅増加。一方で、福井大(56)は前年度激増の反動で大幅減少。

#### ○近畿(98)

大阪公立大(163)は前年度旧大阪市立大との比較で大幅減少の反動で大幅増加。奈良県立医科大(157)は3年連続減少の反動で大幅増加。京都府立医科大(123)は大幅増加で3年連続増加。一方で、滋賀医科大(54)、和歌山県立医科大(66)はいずれも2年連続増加の反動で大幅減少。

#### ○中国・四国(96)

鳥取大(197)は4年連続減少の反動でほぼ倍増。山口大(178)も2年連続減少の反動で激増。島根大(152)は大幅増加で2年連続増加。高知大(147)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。徳島大(114)は前年度大幅減少の反動で増加、前年度の反動による増減が継続。一方で、岡山大(50)は第1段階選抜基準を4倍→3倍と厳しくしたことから前年度大幅増加の反動で半減。香川大(55)は4年連続増加の反動で大幅減少。愛媛大(62)は2年連続大幅減少。広島大(68)は第1段階選抜基準を7倍→5倍と厳しくしたことから2年連続増加の反動で大幅減少。

#### ○九州・沖縄(101)

大分大(156)は2年連続大幅増加。鹿児島大(124)は大幅増加で2年連続増加。琉球大(124)は大幅増加で3年連続増加。宮崎大(112)は前年度大幅減少の反動で増加、2018年度以降は前年度の反動による増減が継続。一方で、長崎大(60)は募集人員減少に加えて、2年連続増加の反動で大幅減少。熊本大(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

### <後期日程>

後期合計では294人(104)のやや増加で2年連続増加しました。

地区別では、1大学のみ募集である地区では、北海道(241)は旭川医科大のみで2年連続大幅増加し、志願者数は4年ぶりに500人を上回りました。一方で、中国・四国(56)は山口大のみで前年度倍増以上の反動で大幅減少。近畿(76)は奈良県立医科大のみで前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願者数が1,000人を下回りました。

複数大学の募集がある4地区で増減が目立ったのは、九州・沖縄(169)、東北(126)は大幅増加。一方で、東海・北陸(76)は大幅減少だが、後期募集を廃止した岐阜大を除くと(115)の大幅増加。関東・甲信越(89)は前年度大幅増加の反動で減少。

#### ○東北(126)

秋田大(129)は3年連続増加で、志願者数は500人を、志願倍率は20倍をそれぞれ上回った。山形大(122)は前年度激増に引き続き大幅増加で、志願倍率は2014年度以来の20倍を上回った。

#### ○関東・甲信越(89)

東京医科歯科大(121)は前期の東京大、東京医科歯科大への強気な出願動向の併願先として狙われて、大幅増加で2年連続増加。一方で、山梨大(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

#### ○東海・北陸(76)

後期廃止した岐阜大を除くと(115)の大幅増加。浜松医科大(233)は前年度激減の反動で倍増以上。名古屋大(200)は<地域枠>→<一般枠>に変更したことで倍増。一方で、福井大(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○九州・沖縄(169)

宮崎大(308)は前年度大幅減少の反動で3倍以上の激増。琉球大(194)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。  
一方で、鹿児島大(83)は2年連続増加の反動で大幅減少。

〔大学別志願状況〕

地区	大学	方式	日程	配点		志願者数増減		2023年度		2022年度		志願倍率			コメント前(2023変更点のみ記載)
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2023年度	2022年度	2021年度	
北海道	旭川医科大		前	550	350	+88	149	40	266	40	178	6.7	4.5	7.0	大幅増加で5年ぶりに増加。志願者数は200人を上回った。
			後	600	250	+312	241	8	533	8	221	66.6	27.6	12.5	2年連続激増。志願倍率も27.6倍→66.6倍に大幅アップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は22.7%だった。
	北海道大		前	300	525	-24	92	90	291	97	315	3.2	3.2	3.3	<変更点>募集人員:92人⇒90人 3年連続減少。 ※募集人員はフロンティア入試の欠員分の5人を含む(2022年度5人)。
	札幌医科大	先進研修連携枠	前	700	700	+36	171	20	87	91	51	4.4	3.1	2.6	一般枠は激増で、先進研修連携枠は大幅増加。志願倍率は3.1倍→4.9倍にアップ。
						+53	123	55	282		229	5.1		4.0	
東北	弘前大	青森県定着枠	前	1000	500	+85	134	50	338	50	253	6.8	5.1	3.4	一般枠、青森県定着枠ともに、2年連続大幅増加。志願者数は4年ぶりに480人を上回った。
						+25	121	20	144	20	119	7.2	6.0	6.4	
	東北大		前	250	950	-5	98	77	237	77	242	3.1	3.1	3.2	志願者数は微減、募集人員が77人になって以降は3年連続減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は97.5%だった。
	秋田大		前	550	400	+11	105	55	231	55	220	4.2	4.0	4.4	2年連続減少の反動は小さく、やや増加。志願倍率は3年連続4倍台。
			後	700	300	+107	131	20	447	20	340	22.4	17.0	15.6	
		秋田県枠		450	250	+6	112	4	56	4	50	14.0	12.5	9.5	一般枠は大幅増加で、2年連続増加。志願倍率は17.0倍→22.4倍にアップ。3年目の秋田県地域枠も2年連続増加で、志願倍率も12.5倍→14.0倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は61.6%だった。
山形大	地域枠	前	900	700	-2	99	65	348	65	350	5.4	5.4	3.3	前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少。一般枠は前年度並で、3年目の地域枠は2021年度と同数の大幅減少で志願倍率も4.5倍→3.4倍にダウン。	
		後	900	100	+60	122	15	329	15	269	21.9	17.9	9.8		
福島県立医科大	地域枠	前	650	660	+197	171	49	474	49	277	9.7	5.7	6.2	医学部全体では、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2017年度から前年度の反動による増減が継続。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は56.1%だった。	
					+11	110	30	120	30	109	4.0	3.6	4.0		
関東・甲信越	筑波大	茨城県枠	前	900	1400	-21	84	45	112	44	133	2.5	3.0	3.6	<変更点> <一般枠> 単願⇒単願または地域枠全国対象との併願を選択 <地域枠全国対象> 単願⇒自動的に一般枠との併願へ 一般枠は2年連続大幅減少。志願倍率は3.6倍→3.0倍→2.5倍にダウン。地域枠は単願から一般枠との併願になったことで大幅増加。志願倍率も2.0倍→3.7倍にアップ。
						+31	186	8	67	8	30	3.7	3.8	3.8	
			全国枠					10		10	6		0.6	1.8	
	群馬大	地域医療枠	前	450	450	-18	94	65	266	65	284	4.1	4.4	2.5	一般枠は前年度激増の反動は小さく、やや減少。地域医療枠は2年連続増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は78.9%だった。
						+3	109	6	37	6	34	6.2	5.7	4.0	
	千葉大	地域枠	前	450	1000	+36	114	82	293	82	257	3.6	3.1	4.0	一般枠は前年度大幅減少の反動で増加、地域枠は前年度激増の反動で大幅減少と対照的。2段階選抜が一般枠で実施され、第1段階選抜の合格率は84.0%だった。
後			450	1000	+5	101	15	406	15	401	27.1	26.7	25.9		
	地域枠												9.0	前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は59.9%だった。	
東京大		前	110	440	-1	100	97	420	97	421	4.3	4.3	4.0	<変更点>第1段階選抜基準変更: 約3.5倍(通過予定人数:約339人) ⇒約3倍(通過予定人数:約291人) 前年度約9%増加の反動および第1段階選抜基準が厳しくなった影響はなく、前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は69.3%だった。	
東京医科歯科大		前	180	360	+5	102	69	308	79	303	4.5	3.8	4.0	<変更点>募集人員:79人⇒69人 2年連続減少の反動は小さく微増。志願倍率は募集人員減少もあり、逆に3.8倍→4.5倍にアップ。	
		後	500	200	+36	121	10	204	10	168	20.4	16.8	15.0	大幅増加で2年連続増加。志願倍率は16.8倍→20.4倍にアップ。	

2023年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	方式	日程	配点		志願者数増減		2023年度		2022年度		志願倍率			コメント前(2023変更点のみ記載)
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2023年度	2022年度	2021年度	
関東・甲信越	横浜市立大	地域枠	前	1000	1400	±0	100	58	228	58	228	3.3	3.3	3.7	<変更点><地域枠>募集人員:10人⇒9人 第1段階選抜基準変更: 共通テストの合計が750点以上の者のうちから、募集人員の約3倍(通過予定人数:210人程度) ⇒共通テストの合計が750点以上の者のうちから、募集人員の約3倍(通過予定人数:207人程度)※750点以上の志願者が207人に満たない場合は、志願者全体の共通テストの得点状況等により、750点未満でも合格となる場合がある  前年度と同一志願者数。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は87.7%だった。
			後					9		10					
			診療科枠					2		2					
	新潟大	前	750	1200	-3	99	80	344	80	347	4.3	4.3	3.8	前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は93.0%だった。	
	山梨大	後	1100	1200	-288	82	90	1333	90	1621	14.8	18.0	11.7	前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も18.0倍⇒14.8倍にダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は67.8%だった。	
	信州大	前	450	600	-3	99	95	380	95	383	4.0	4.0	5.0	前年度並。志願倍率も変動なし。	
東海・北陸	富山大		前	900	700	+203	193	70	421	70	218	6.0	3.1	3.6	前年度微増だが、志願者数が200人台で3年間推移した反動で激増。前年度後期廃止による募集人員増で志願倍率は前年度3.6倍⇒3.1倍にダウンしたが、6.0倍にアップ。
			後										18.9		
		金沢大	前	450	1050	+47	119	84	291	84	244	3.5	2.9	3.8	前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率は2.9倍⇒3.5倍にアップ、2年ぶりに3倍を上回った。
		福井大	前	900	700	-162	56	55	208	55	370	3.8	6.7	3.5	前年度激増の反動でほぼ半減。志願倍率も6.7倍⇒3.8倍にダウン。
			後	450	220	-95	76	25	302	25	397	12.1	15.9	12.8	前年度大幅増加の反動で大幅減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は75.2%だった。
		岐阜大	前	900	1200	+127	127	55	593	45	466	10.8	10.4	9.6	<変更点>募集人員:45人⇒55人 第1段階選抜基準:約15倍(通過予定人数:約675人) ⇒約9倍(通過予定人数:約495人) 2年連続大幅増加。後期廃止による募集人員増で志願倍率は10.4倍⇒10.8倍と変わらず。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は83.5%だった。
			後							10	405		40.5	45.6	<変更点>募集人員:10人⇒0人
	浜松医科大	地域枠	前	450	700	+216	189	68	458	68	242	6.7	3.6	4.6	2年連続減少の反動で激増。特に一般枠は3年連続減少の反動で激増。地域枠は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は60.6%だった。
			後	900	350	+176	239	14	303	14	127	21.6	9.1	23.8	
		地域枠	前	900	350	+3	138	1	11	1	8	11.0	8.0		
			後											個別試験に教科試験がなく、共通テストの成績で合否が決まるので、平均点アップの影響も加わり2.3倍増。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は63.7%だった。	
	名古屋大	愛知県内	前	900	1650	+77	151	85	227	90	150	2.7	1.7	3.8	<変更点> 第1段階選抜基準変更: 共通テストの合計が900点満点中700点以上の者 ⇒共通テストの合計が900点満点中600点以上の者 募集人員:(一般枠)90人、(地域枠)0人 ⇒(一般枠)85人、(地域枠)5人 募集人員90人中5人が新たに地域枠となった。第1段階選抜基準緩和に共通テスト平均点のアップが加わり激増。一般枠は5割以上の大幅増加、さらに募集人員の6%減少で、志願倍率は1.7倍⇒2.7倍にアップ。新規の地域枠は募集人員5人に志願者数は23人で志願倍率は4.6倍と一般枠よりも競争激化。
			後	900	0	+38	200	5	76	5	38	15.2	7.6	10.8	
			後	900	0	+38	200	5	76	5	38	15.2	7.6	10.8	<変更点> 第1段階選抜基準変更: 共通テストの合計が900点満点中700点以上の者 ⇒約12倍(通過予定人数:約60人) 募集人員:(一般枠)0人、(地域枠)5人 ⇒(一般枠)5人、(地域枠)0人 地域枠から一般枠となり、第1段階選抜基準緩和に共通テスト平均点のアップが加わり倍増。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は78.9%だった。

2023年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	方式	日程	配点		志願者数増減		2023年度		2022年度		志願倍率			コメント前(2023変更点のみ記載)
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2023年度	2022年度	2021年度	
東海・北陸	三重大	医療枠	前	600	700	-40	90	70	350	70	390	4.7	5.2	5.3	2年連続減少。志願倍率も5.2倍→4.7倍にダウン。
			後	600	300	-1	100	10	212	10	213	21.2	21.3	18.3	<変更点> 第1段階選抜基準変更: 10倍(通過予定人数:100人) ⇒15倍(通過予定人数:150人) 第1段階選抜の基準が緩和されたが、前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は70.8%だった。
近畿	名古屋市立大	指定枠	前	550	1200	+34	121	60	198	60	164	3.3	2.7	3.5	<変更点> 第1段階選抜基準変更: 「総配点550点中の概ね73%以上の者」を22/1/19に 「総配点550点中390点以上(概ね71%以上)に変更」 ⇒「総配点550点中の概ね71%以上の者を対象に募集人員の約3倍」を23/1/18に「総配点550点中400点以上(概ね73%以上)の者を対象に約3倍」に変更  第1段階選抜基準について、過去2年間共通テスト終了後の水曜日に基準変更を発表したので、自己採点集計には反映されないため、次年度以降も注意が必要。前年度大幅減少の反動と共通テストの平均点のアップにより、大幅増加で、2019年度に2段階選抜導入後では2番目の志願者数。
			後	600	600	-73	34	5	37	5	110	7.4	22.0	10.6	前年度激増の反動で大幅減少。特に、地域枠はほぼ1/3で志願倍率も22.0倍→7.4倍の大幅ダウン。
中国	滋賀医科大	地域枠	前	600	600	-113	62	55	182	55	295	3.3	5.4	3.6	前年度減少の反動で増加したが、志願者数は5年連続300人を下回った。 ※募集人員は特色入試の欠員分の3人を含む(2022年度4人)。
	京都大		前	250	1000	+22	108	105	287	106	265	2.7	2.5	2.8	<変更点>募集人員:95人⇒92人 前年度増加の反動で減少。2019年度以降前年度の反動による増減が継続。
	大阪大		前	500	1500	-25	90	92	235	95	260	2.6	2.7	2.5	やや増加。共通テストの配点比が比較的高いため、共通テストの平均点アップも影響。
	神戸大		前	360	450	+9	104	92	256	92	247	2.8	2.7	2.8	大幅増加で3年連続増加。志願者数は300人を上回った。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は85.2%だった。
	京都府立医科大		前	450	600	+65	123	100	352	100	287	3.5	2.9	2.8	前年度は、2021年度に旧大阪市立大が増加した反動で大幅減少したが、この反動で大幅増加。志願倍率も2019年度旧大阪市立大以来の3倍台へアップ。
	大阪公立大 ※2021年度以前は旧大阪市立大	指定枠	前	650	800	+96	163	75	249	75	153	3.1	1.9	2.8	3年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も6.5倍→10.2倍にアップ。
	奈良県立医科大		前	450	450	+81	157	22	224	22	143	10.2	6.5	7.0	前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も24.7倍→18.8倍にダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は74.5%だった。
	和歌山県立医科大	医療枠A	前	600	700	-101	66	64	150	64	295	2.3	3.7	2.9	<変更点>募集人員:(一般枠)64人程度、(県民医療枠)15人程度⇒(一般枠)64人程度、(県民医療枠A)10人程度、(県民医療枠C)2人程度 第1段階選抜基準:約3.3倍⇒共通テストの合計が900点満点中630点以上の者のうちから、募集人員の約3.4倍(共通テストの中間発表時点の平均点により630点未満でも合格とする場合がある)
中国	鳥取大	鳥取県枠 兵庫県枠 島根県枠	前	900	700	+208	197	58	422	58	214	5.3	2.7	4.5	2年連続大幅増加の反動で大幅減少。新方式の県民医療枠Cは志願者数10人、志願倍率5.0倍で、募集枠別では最も高倍率。
			後	300	900	-314	76	53	997	53	1311	18.8	24.7	16.8	4年連続減少の反動でほぼ倍増。志願倍率も2.7倍→5.3倍にアップ。
			前	700	460	+205	153	55	595	55	390	10.8	7.1	6.6	一般枠は前年度やや増加に引き続き大幅増加で2年連続増加。定着枠も大幅増加で3年連続増加。志願倍率も9.0倍→12.7倍→18.0倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は71.6%だった。
			後	700	460	+16	142	3	54	3	38	18.0	12.7	9.0	<変更点>募集人員:98人⇒95人 第1段階選抜基準:4倍(通過予定人数:392人)⇒3倍(通過予定人数:285人) 前年度大幅増加の反動と第1段階選抜基準を4倍→3倍に厳しくしたことで半減。
岡山大		前	500	1100	-270	50	95	270	98	540	2.8	5.5	3.7		

2023年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	方式	日程	配点		志願者数増減		2023年度		2022年度		志願倍率			コメント前(2023変更点のみ記載)
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2023年度	2022年度	2021年度	
中国	広島大		前	900	1800	-197	68	90	424	90	621	4.7	6.9	5.5	<変更点>第1段階選抜基準:7倍(通過予定人数:630人)⇒約5倍(通過予定人数:約450人) 合否配点基準変更:A配点(理科重視型)、B配点(一般型)⇒A(s)配点(理科重視型)、A(em)配点(英教重視型)、B配点(一般型) 2年連続増加の反動に加えて、第1段階選抜基準を7倍⇒5倍と厳しくしたことで大幅減少。
	山口大		前	900	600	+167	178	55	381	55	214	6.9	3.9	5.6	2年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も3.9倍⇒6.9倍にアップ。
		地域枠	後	900	500	-196	56	7	254	7	450	25.4	45.0	21.2	前年度倍以上の反動で大幅減少。志願倍率も45.0倍⇒25.4倍に大幅ダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は59.1%だった。
四国	徳島大		前	900	400	+24	114	62	195	64	171	3.1	2.7	3.3	<変更点>募集人員:64人⇒62人 前年度大幅減少の反動で増加。前年度の反動による増減が継続。
	香川大		前	700	700	-236	55	70	284	70	520	3.6	6.6	4.8	4年連続増加の反動でほぼ半減。志願倍率も6.6倍⇒3.6倍にダウン。
		地域枠					9		9						
	愛媛大		前	450	700	-146	62	55	243	55	389	4.4	7.1	9.7	共通テスト英語の配点がリーディング:リスニング=9:1であることから英語リーディング難化の影響もあって、2年連続大幅減少。志願倍率も9.7倍⇒7.1倍⇒4.4倍とダウン。
	高知大		前	900	1000	+112	147	55	350	55	225	5.8	4.1	4.9	2年連続大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も4.0倍⇒5.8倍にアップ。
地域枠						5		5	13		2.6	5.0			
九州・沖縄	九州大		前	450	700	-38	88	105	269	110	307	2.6	2.8	2.5	<変更点>募集人員:110人⇒105人 2年連続増加の反動と募集人員減少で減少。志願者数は300人を下回った。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は92.9%だった。
	佐賀大		前	630	300	-2	99	50	230	50	232	4.6	4.6	4.8	<変更点>調査書の点数化廃止 調査書の点数化を廃止した影響はなく、微減で5年連続減少。
			後	630	120	-4	98	10	223	10	227	22.3	22.7	23.9	<変更点>面接の配点変更、調査書の点数化廃止 面接の配点変更となり、調査書の点数化を廃止した影響はなく、微減で2年連続減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は80.7%だった。
	長崎大		前	450	800	-184	60	71	273	76	457	3.8	6.0	5.6	<変更点>募集人員:76人⇒71人 2年連続増加の反動と募集人員減少で大幅減少。志願者数は300人を下回った。
	熊本大		前	400	800	-81	82	87	366	87	447	4.2	5.1	3.7	前年度大幅増加の反動で大幅減少。
	大分大		前	450	550	+142	156	55	395	55	253	6.1	3.9	2.7	2年連続大幅増加。志願倍率も2.7倍⇒3.9倍⇒6.1倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は49.9%だった。
		地元枠					10		10						
	宮崎大		前	900	600	+30	112	45	282	45	252	6.3	5.6	5.9	前年度大幅減少の反動で増加。2018年度から前年度の反動による増減が継続。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は95.7%だった。
			後	900	150	+586	308	15	868	15	282	57.9	18.8	19.9	前年度大幅減少の反動で3倍以上。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は39.1%だった。
	鹿児島大		前	900	920	+65	124	69	331	69	266	4.8	3.9	3.6	2年連続増加。2020年度以降前年度の反動による増減が継続。志願倍率も3.9倍⇒4.8倍にアップ。
		後	900	320	-62	83	21	313	23	375	14.9	16.3	12.7	<変更点>募集人員:23人⇒21人 2年連続増加の反動と募集人員減少で大幅減少。志願倍率も16.3倍⇒14.9倍にダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は60.1%だった。	
琉球大		前	900	800	+81	124	70	421	70	340	6.0	4.9	4.5	共通テスト重視の配点により共通テストの平均点アップの影響もあって、大幅増加で3年連続増加。志願倍率も4.5倍⇒4.9倍⇒6.0倍にアップし、志願者数も5年ぶりに400人を上回った。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は83.1%だった。	
		後	1000	300	+330	194	25	682	25	352	27.3	14.1	16.5	前年度大幅減少の反動でほぼ倍増。志願者数は700人に迫った。2020年度以降前年度の反動による増減が継続。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は44.0%だった。	

〔志願者数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
島根大	649 (58)	山梨大	1333 (90)
福島県立医科大	594 (75)	奈良県立医科大	997 (53)
岐阜大	593 (55)	宮崎大	868 (15)
浜松医科大	495 (75)	琉球大	682 (25)
弘前大	482 (70)	旭川医科大	533 (8)

〔志願者数が少なかった大学〕

前期日程		後期日程	
筑波大	179 (63)	名古屋大	76 (5)
和歌山県立医科大	194 (76)	東京医科歯科大	204 (10)
徳島大	195 (62)	三重大	212 (10)
名古屋市立大	198 (60)	佐賀大	223 (10)
福井大	208 (55)	山口大	254 (10)

※( )内は募集人員。一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数を掲載。

〔増加数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
浜松医科大	+230	宮崎大	+586
島根大	+221	琉球大	+330
鳥取大	+208	旭川医科大	+312
福島県立医科大	+208	浜松医科大	+179
富山大	+203	秋田大	+113

〔減少数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
岡山大	-270	奈良県立医科大	-314
香川大	-236	山梨大	-288
広島大	-197	山口大	-196
滋賀医科大	-186	福井大	-95
長崎大	-184	鹿児島大	-62

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数で増減を算出。

〔志願倍率が高かった大学〕

前期日程		後期日程	
島根大	11.2	旭川医科大	66.6
岐阜大	10.8	宮崎大	57.9
奈良県立医科大	10.2	琉球大	27.3
福島県立医科大	7.9	千葉大	27.1
山口大	6.9	山口大	25.4
弘前大	6.9		

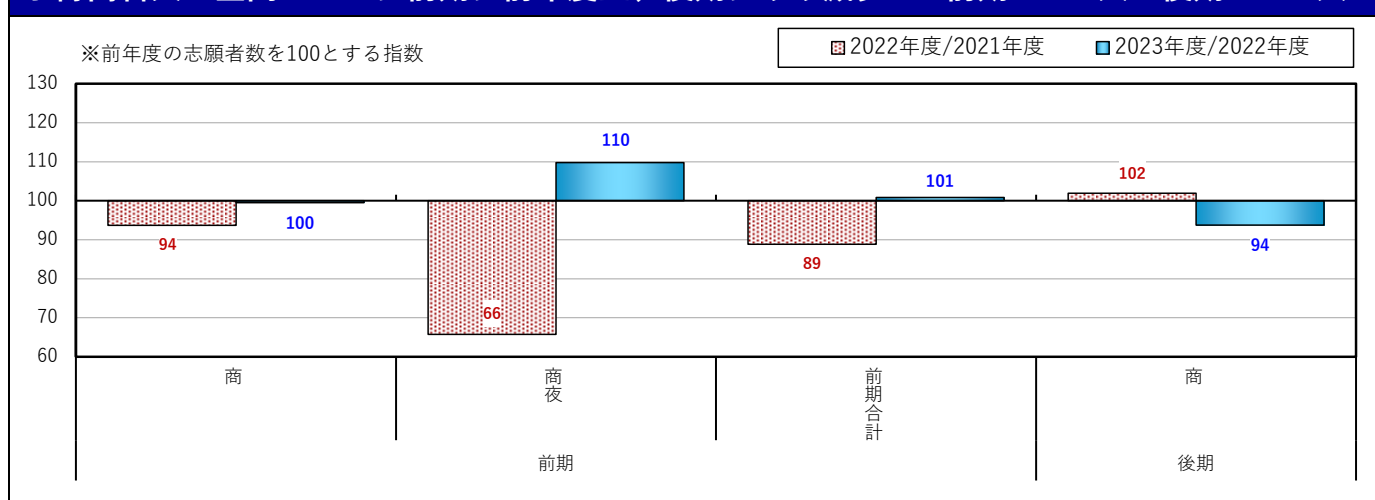
〔志願倍率が低かった大学〕

前期日程		後期日程	
和歌山県立医科大	2.6	福井大	12.1
大阪大	2.6	山梨大	14.8
九州大	2.6	鹿児島大	14.9
名古屋大	2.8	名古屋大	15.2
神戸大	2.8	奈良県立医科大	18.8
京都大	2.8		
筑波大	2.8		
岡山大	2.8		

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の募集人員、志願者数で算出。

## ⑩大学別志願状況

小樽商科大：昼間コースは前期は前年度並、後期はやや減少 前期：+6人 後期：-26人

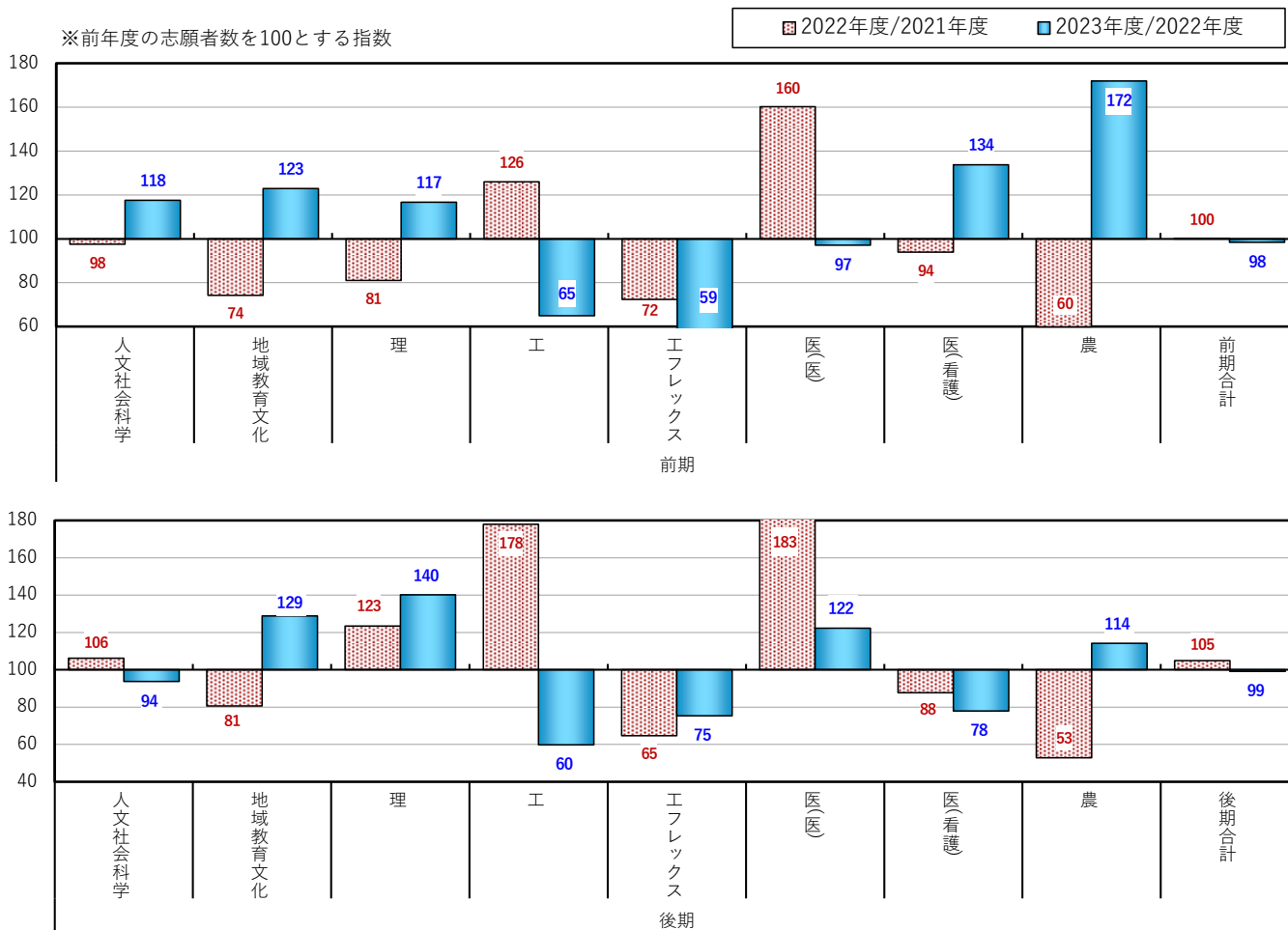


COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、20人(98)の微減で2年連続減少。日程別では、前期は前年度減少の反動はなく6人(101)の微増で前年度並。コース別では、昼間コースは前年度やや減少の反動はなく、3人(100)の微減で前年度並。夜間主コースは前年度大幅減少の反動で増加、志願者数は2年ぶりに100人を上回った。2019年度以降、前年度の反動による増減が継続。後期は昼間コースのみの募集だが、26人(94)のやや減少、志願者数は3年ぶりに400人を下回った。

## 山形大：前期は微減、後期も微減だが3年ぶり減少

前期：-38人 後期：-13人



## COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は38人(98)の微減。工フレックス(59)を除くと(101)の微増。後期は13人(99)の微減で3年ぶり減少。工フレックス(75)を除くと(100)の前年度並。

## &lt;前期日程&gt;

- 人文社会科学(118)は、3年連続減少の反動で大幅増加。学科・コース別では、3コースとも大幅増加で、特に(人文社会科学／グローバル・スタディーズ)(124)は2年連続減少の反動で大幅増加。
- 地域教育文化(123)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別・コース別では、(地域教育文化／文化創生)(144)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(地域教育文化／児童教育)(104)は3年連続減少の反動は小さくやや増加。
- 理(117)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願者数は再び300人を上回った。
- 工(65)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2018年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科・コース別では、(機械システム工)(133)は大幅増加で2年連続増加、(建築・デザイン)(118)は前年度半減以下の反動で大幅増加。一方で、(化学・バイオ工／バイオ化学工学)(25)は前年度約2.3倍増の反動で1/4の激減、(化学・バイオ工／応用化学・化学工学)(28)、(高分子・有機材料工)(44)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少、(情報・エレクトロニクス／情報・知能)(65)は大幅減少、(情報・エレクトロニクス／電気・電子通信)(85)は3年連続大幅減少。
- 医(医)(97)は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少。一般枠は前年度並で、3年目の地域枠は2021年度と同数の大幅減少で志願倍率も4.5倍→3.4倍にダウン。
- 医(看護)(134)は、3年連続減少の反動で大幅増加、志願者数は4年ぶりに100人を上回った。
- 農(172)は、前年度大幅減少の反動で激増。2019年度の6コースを3コースへの再編以降は前年度の反動による大幅な増減が継続。

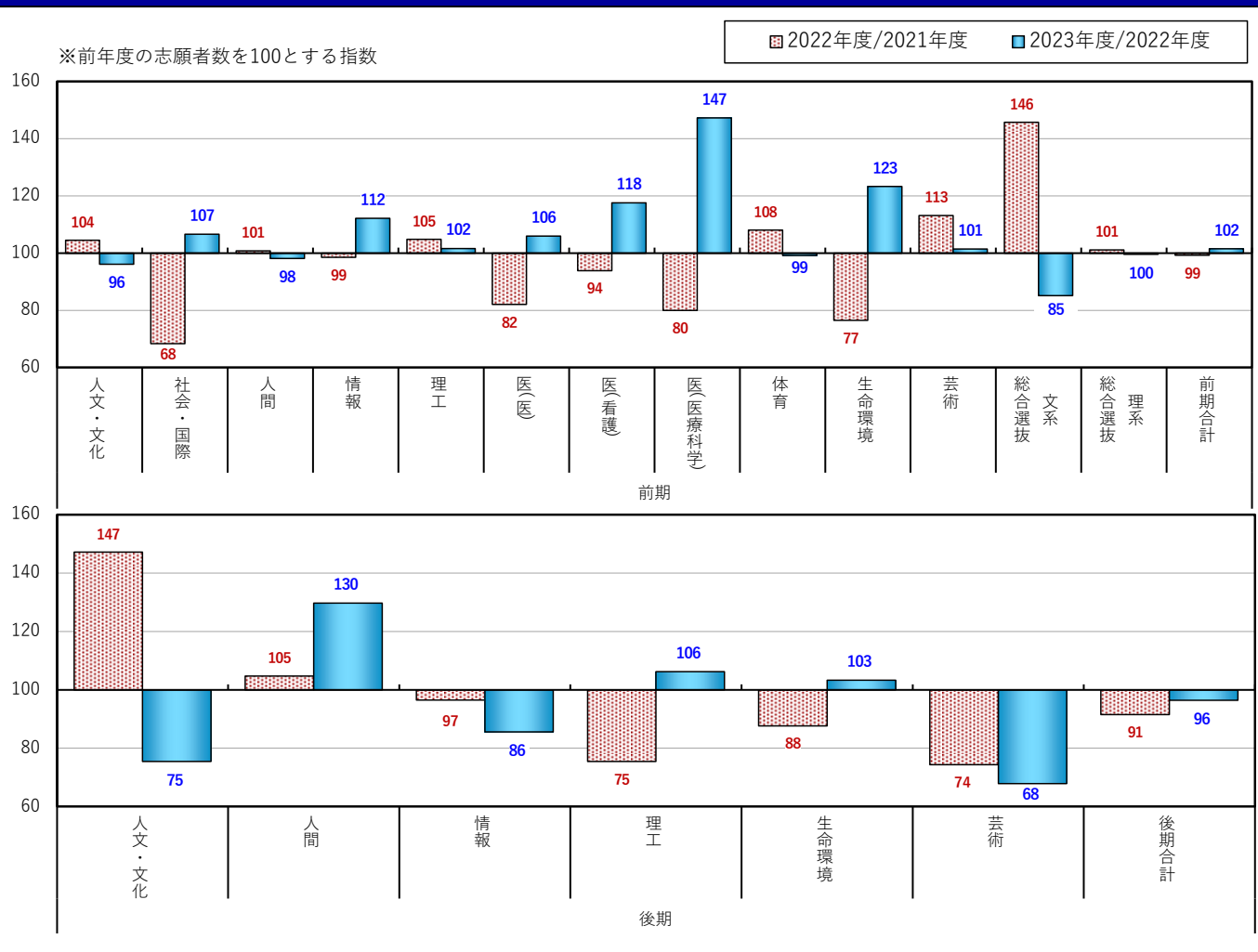
## &lt;後期日程&gt;

- 人文社会科学(94)は、やや減少。学科・コース別では、(人文社会科学／人間文化)(108)は増加で2年連続増加。一方で、(人文社会科学／総合法律・地域公共政策・経済・マネジメント)(84)は2年連続増加の反動で大幅減少。
- 地域教育文化(129)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科・コース別では、いずれも増加で、(地域教育文化／文化創生)(164)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(地域教育文化／児童教育)(103)は3年連続減少の反動は小さくやや増加。
- 理(140)は、2年連続大幅増加。志願倍率も3.8倍→4.7倍→6.6倍にアップ。
- 工(60)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2017年度の改組以降は前年度の反動による大幅な増減が継続。学科・コース別では、(機械システム工)(103)はやや増加で2年連続増加。一方で、その他の募集単位はいずれも大幅減少で、(高分子・有機材料工)(44)、(建築・デザイン)(45)、(情報・エレクトロニクス／情報・知能)(46)はいずれも半減以下。



- 医(医)(122)は、2年連続大幅増加。志願倍率は9.8倍→17.9倍→21.9倍にアップ。
- 医(看護)(78)は、大幅減少で2年連続減少。
- 農(114)は、前年度ほぼ半減の反動で増加。志願者数は200人を再び上回った。

筑波大：前期は微増だが4年ぶりに増加、後期はやや減少 前期：+63人 後期：-50人



**主な入試変更点** ※コロナ禍対策のため、一般選抜個別試験での調査書を用いた主体性等評価(調査書点数化)を見送り、調査書配点を除いた総点で選抜。  
 選抜方法：医(医)<前>…<一般枠>単願→単願または地域枠全国対象との併願を選択  
 <地域枠全国対象> 単願→自動的に一般枠との併願へ

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期はコロナ禍による強い地元志向が緩和したことで、63人(102)の微増で4年ぶりに増加。後期は、共通テストの平均点アップによる強気な出願で難関大前期からの併願が減少し、50人(96)のやや減少で2年連続減少。増減が目立ったのは、前期の学群・専門学群別選抜の学群(医は学類)別では、医(医療科学)(147)、生命環境(123)、医(看護)(118)が大幅増加。総合選抜では、(文系)(85)が大幅減少。後期の学群・専門学群別では、人間(130)が大幅増加。芸術(68)、人文・文化(75)が大幅減少。

- <前期日程>
- 人文・文化(96)は、やや減少。3年連続で、志願者数は250人前後、志願倍率も3.0倍あまりとほぼ変動なし。
  - 社会・国際(107)は、前年度志願倍率が6.4倍→4.4倍にダウンした反動は小さくやや増加に留まった。学類別では、(社会)(121)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2021年度の募集人員減少の翌年からは大幅増減が連続。一方で、国際総合(87)は、前年度増加の反動で減少。
  - 人間(98)は、2021年度の募集人員減少後の志願者数は260人台でほぼ変動なし。学類別では、心理(107)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加、教育(102)は前年度大幅減少の反動はなく前年度並。一方で、(障害科学)(83)は前年度2.4倍以上だった反動で大幅減少。
  - 情報(112)は、2021年度の募集人員減少後では、初めての増加。学類別では系統への人気が高いことから、(情報科学)(114)、(情報メディア創成)(108)と2学類共に増加。
  - 理工(102)は、微増だが、2021年度の募集人員減少後では2年連続増加。学類別では、6学類中3学類ずつの増減。(数)(231)は前年度半減近い反動で倍以上、(物理)(118)は大幅増加で2年連続増加。(応用理工)(102)は微増だが2年連続増加。一方で、(社会工)(83)は前年度増加の反動で大幅減少、(化)(88)は減少、(工学システム)(95)はやや減少。

## 2023 年度入試状況分析【国公立大】

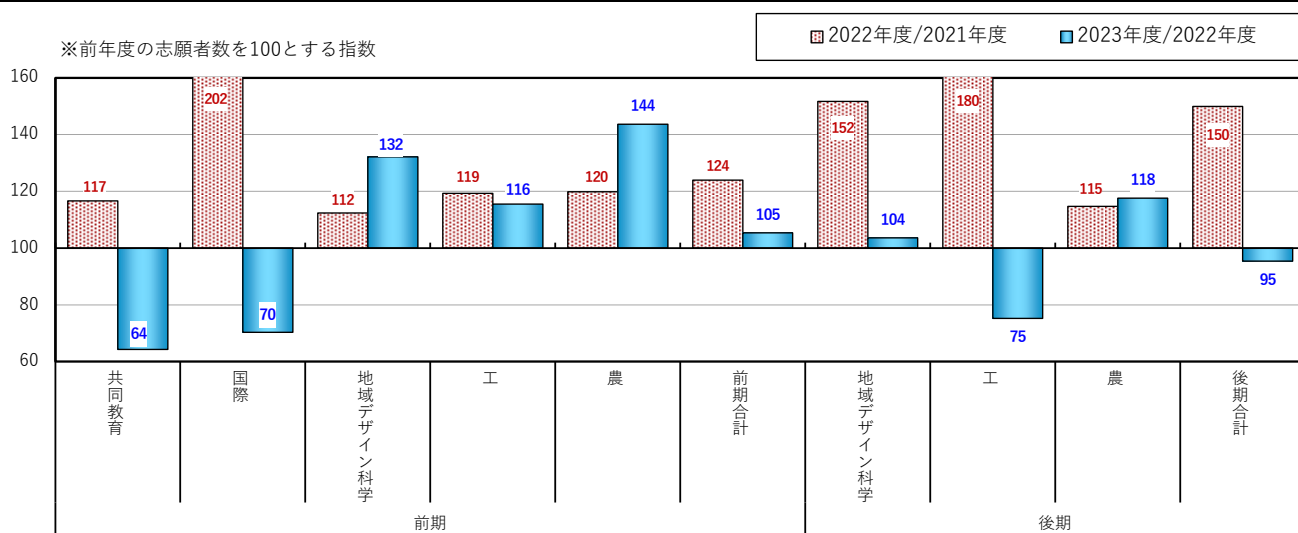
- 医(医)(106)**は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。募集単位別では、<地域枠>(186)は単願から一般枠との併願になったことで大幅増加。<一般枠>(84)は2年連続大幅減少。
- 医(看護)(118)**は、大幅増加で2021年度の募集人員減少後では、初めての増加。志願倍率は4年ぶりに2.6倍を上回った。
- 医(医療科学)(147)**は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も2.4倍→3.5倍にアップ。
- 体育(99)**は、前年度やや増加の反動はなく前年度並。
- 生命環境(123)**は、系統への高い人気もあり大幅増加。2021年度の募集人員減少後では、初の増加。学類別では、(生物資源)(136)は大幅増加で、募集人員が多かった2020年度以前を含めて7年ぶりの増加、(生物)(123)は2年連続大幅増加。(地球)(100)は前年度大幅減少の反動はなく全く同じ志願者数。
- 芸術(101)**は、前年度並。
- 総合選抜文系(85)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率は3.3倍→2.8倍にダウン。
- 総合選抜理系(100)**は、前年度並。募集単位別では、均等配点の(理系II)(147)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、数学重視の(理系III)(115)は2年連続大幅増加。一方で、物理必須の(理系I)(76)は大幅減少と増減が分かれた。

### <後期日程>

- 人文・文化(75)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率は17.3倍→13.1倍にダウン。
- 人間(130)**は、大幅増加。学類別では、3学類とも大幅増加で、(教育)(159)、(障害科学)(139)、(心理)(117)といずれも大幅増加。
- 情報(86)**は、2021年度から(知識情報・図書館)(86)のみの募集。(知識情報・図書館)は2年連続減少で志願者数は71人にまで減少。
- 理工(106)**は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。学類別では、5学類中4学類が増加で、特に(化)(197)は前年度大幅減少の反動でほぼ倍増、(応用理工)(120)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、唯一減少の(社会工)(82)は大幅減少で2年連続減少。
- 生命環境(103)**は、やや増加。学類別では、3学類中、(生物)(117)が唯一前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(地球)(86)は減少で3年連続減少。
- 芸術(68)**は、2021年度の募集人員減少後では、2年連続大幅減少。志願倍率は17.4倍→11.8倍にダウン。

## 宇都宮大：前期はやや増加、後期はやや減少

前期：+78人 後期：-29人



### 主な入試変更点

共通テスト：地域デザイン科学(社会基盤デザイン)<前>…理の配点変更  
 国<200>+歴公<100>+数2<200>+理2<200>+外<200>=総点<900>  
 ※理：物<100>+(化 or 生 or 地学)<100>  
 →国<200>+歴公<100>+数2<200>+理2<300>+外<200>=総点<1,000>  
 ※理：物<200>+(化 or 生 or 地学)<100>  
 <後>…数と理の配点変更  
 国<200>+歴公<100>+数2<200>+理2<200>+外<200>=総点<900>  
 ※理：物<100>+(化 or 生 or 地学)<100>  
 →国<200>+歴公<100>+数2<300>+理2<300>+外<200>=総点<1,100>  
 ※理：物<200>+(化 or 生 or 地学)<100>  
 個別試験：地域デザイン科学(社会基盤デザイン)<前>…数<300>+理<200>→数<500>

### COMMENT

※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は78人(105)のやや増加で2年連続増加。学部別では、農(144)、地域デザイン科学(132)、工(116)はいずれも大幅増加。一方で、共同教育(64)、国際(70)は大幅減少と分かれた。後期は29人(95)のやや減少。学部別では、農(118)は大幅増加。一方で、工(75)は大幅減少。

<前期日程>

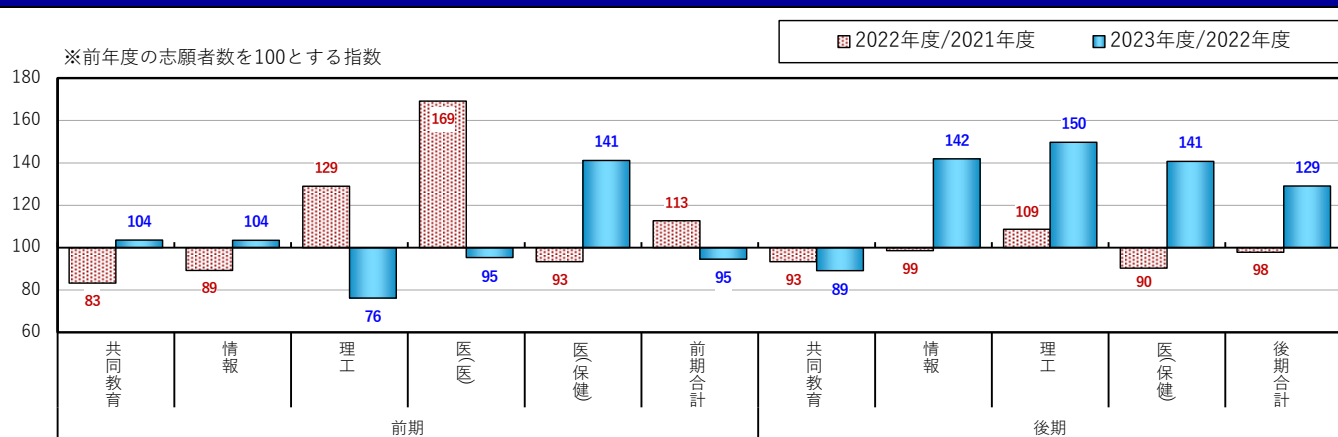
- 共同教育(64)は、2020 年度の学部改組以降 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。系別では、(学校教育教員養成/教育人間科学)(52)は前年度倍増以上の反動でほぼ半減、(学校教育教員養成/人文社会)(64)、(学校教育教員養成/芸術・生活・健康)(68)、(学校教育教員養成/自然科学)(75)はいずれも大幅減少。
- 国際(70)は、前年度倍増以上の反動で大幅減少。2017 年度以降前年度の反動による増減が継続。
- 地域デザイン科学(132)は、大幅増加で 2 年連続増加。学科別では、全学科大幅増加で、特に、入試変更がなかった(建築都市デザイン)(145)の大幅増加が目立った。
- 工(116)は、2 年連続大幅増加で、志願者数は 5 年ぶりに 500 人を上回った。
- 農(144)は、系統への高い人気もあり 2 年連続大幅増加。学科別では、全ての学科で増加。(農業環境工)(169)、(応用生命化)(167)、(生物資源科学)(162)、(森林科学)(120)はいずれも大幅増加、(農業経済)(102)は微増。

<後期日程>

- 地域デザイン科学(104)は、やや増加で 2 年連続増加。学科別では、(社会基盤デザイン)(191)は 2 年連続大幅増加、(建築都市デザイン)(109)は増加。一方で、(コミュニティデザイン)(74)は大幅減少で、志願者数は 3 年ぶりに 100 人を下回った。
- 工(75)は、2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も 6.4 倍→4.8 倍にダウン。
- 農(118)は、系統への高い人気もあり 3 年連続大幅増加。学科別では、(農業環境工)(143)は 3 年連続大幅増加、(生物資源科学)(126)は大幅増加で 3 年連続増加、(応用生命化)(116)は 2 年連続大幅増加。一方で、(農業経済)(84)は大幅減少で 2 年連続減少。

群馬大：前期はやや減少、後期は大幅増加

前期：-86 人 後期：+332 人



主な入試変更点 個別試験：共同教育(学校教育教員養成/芸術・生活・健康-音楽)<前>…実の配点変更  
論<200>+面<100>+実<260>=総点<560>→論<200>+面<100>+実<300>=総点<600>

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度増加の反動は小さく、86 人(95)のやや減少。後期は 332 人(129)の大幅増加で 4 年ぶりに 1,400 人を上回った。

<前期日程>

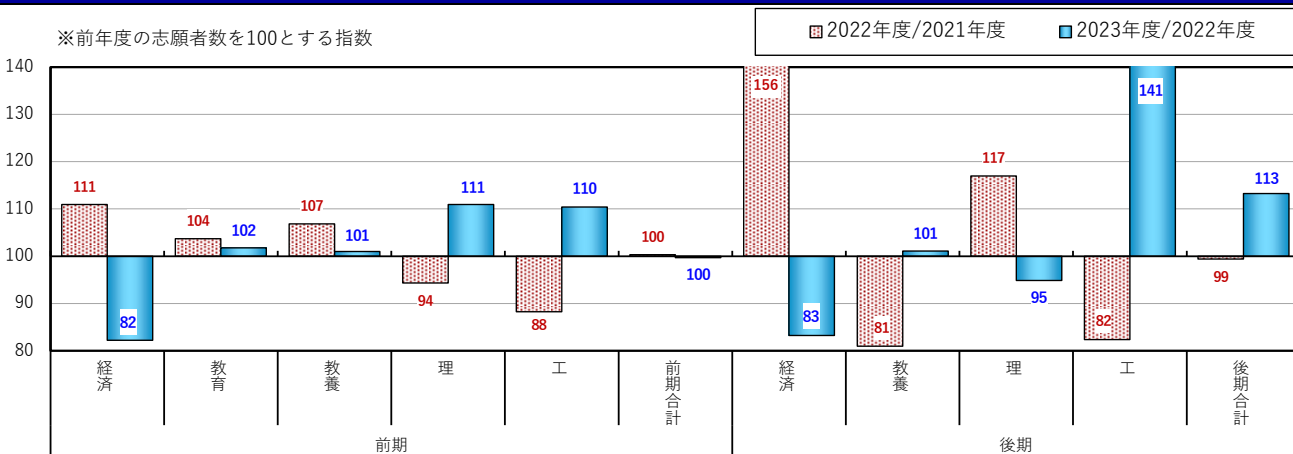
- 共同教育(104)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。募集単位別では、13 募集単位中 6 募集単位が増加。また、募集人員が少ない募集単位が多いことから増減が極端になりやすく、増加の 6 募集単位のうち(学校教育教員養成/自然科学-技術)(108)を除いた 5 募集単位が大幅増加。一方で、減少の 5 募集単位のうち(学校教育教員養成/自然科学-数学)(94)、(学校教育教員養成/教育人間科学-教育)(86)を除いた 3 募集単位が大幅減少。
- 情報(104)は、学部改組後 3 年目だが、系統への高い人気もあり、前年度減少の反動は小さくやや増加。
- 理工(76)は、学科改組後 3 年目だが前年度大幅増加の反動で大幅減少。類別では、(電子・機械)(73)、(物質・環境)(78)のいずれも大幅減少。
- 医(医)(95)は、前年度激増の反動は小さくやや減少に留まった。学科全体で志願倍率が 3 倍を超えたために 2 段階選抜が実施され、第 1 段階選抜の合格率は 78.9%だった。出願区分別では、(一般枠)(94)は前年度激増の反動は小さくやや減少。一方で、(地域医療枠)(109)は前年度大幅増加に引き続き増加で、志願倍率も 4.0 倍→5.7 倍→6.2 倍にアップ。
- 医(保健)(141)は、大幅増加。専攻別では、(保健/看護学)(202)は 3 年連続減少の反動で倍増以上で、志願倍率も 1.5 倍→3.1 倍にアップ。(保健/作業療法学)(173)も激増で 3 年連続増加、(保健/理学療法学)(111)は増加で 2 年連続増加。一方で、(保健/検査技術科学)(83)は 2 年連続大幅減少で、志願倍率も 2.2 倍→1.8 倍にダウン。

<後期日程>

- 共同教育(89)は、減少で 2 年連続減少。募集単位別では、10 募集単位中 6 募集単位が減少。(学校教育教員養成/芸術・生活・健康-家政)(209)は前年度激減の反動で倍増以上、(学校教育教員養成/人文社会-英語)(154)、(学校教育教員養成/芸術・生活・健康-保健体育)(124)はいずれも大幅増加。一方で、減少の 6 募集単位のうち(学校教育教員養成/教育人間科学-特別支援教育)(97)を除いた 5 募集単位は大幅減少で、(学校教育教員養成/自然科学-理科)(55)、(学校教育教員養成/芸術・生活・健康-美術)(56)はいずれもほぼ半減。

- 情報(142)**は、学部改組後3年目だが、系統への高い人気もあり大幅増加。志願倍率も8.5倍→12.1倍とアップ。
- 理工(150)**は、学科改組後3年目だが大幅増加で3年連続増加。類別では、(電子・機械)(198)は前年度大幅減少の反動でほぼ倍増で、志願倍率は6.3倍→12.6倍にアップ。(物質・環境)(126)は2年連続大幅増加で、志願倍率も8.4倍→10.6倍にアップ。
- 医(保健)(141)**は、前年度減少の反動で大幅増加、2020年度以降前年度の反動による増減が継続。専攻別では、(保健/作業療法学)(214)は前年度大幅減少の反動で倍増以上、(保健/看護学)(184)、(保健/理学療法学)(117)はいずれも大幅増加。一方で、(保健/検査技術科学)(81)は大幅減少で2年連続減少。

**埼玉大：大学全体では前期は微減、後期は増加** 前期：-9人 後期：+398人



**主な入試変更点**

募集単位変更：教育(学校教育教員養成/小学校)  
 …文系、理系、実技系/音楽、実技系/図画工作、実技系/体育  
 →教育学、心理・教育実践学、言語文化(国語、英語)、社会、自然科学(算数、理科)、芸術(音楽、図画工作)、身体文化(体育)、生活創造(ものづくりと情報、家庭科)

選抜方法：理(分子生物)<前>…合否判定基準変更  
 個別の得点が2割未満の場合は不合格とする  
 →面接の得点が2割未満の場合は不合格とする

募集人員：工(電気電子物理工)…<前>55人→65人、<後>55人→45人

共通テスト：教育(学校教育教員養成/中学校-生活創造-技術)<前>  
 …国<200>+歴公<100>+数2<200>+外<200>+{理2 or(理+理基2)}<200>=総点<900>  
 →国<100>+歴公<100>+数2<200>+外<100>+{理2 or(理+理基2)}<200>=総点<700>  
 (学校教育教員養成/中学校-生活創造(家庭科))<前>  
 …国<250>+数2<300>+外<150>+[歴公+{理2 or 理・理基2 or(理+理基2)}]→3<450>=総点<1,150>  
 →国<300>+数2<200>+外<150>+[歴公+{理2 or 理・理基2 or(理+理基2)}]→3<450>=総点<1,100>

個別試験：教育(学校教育教員養成/中学校-生活創造-技術)<前>…面<500>→面<700>  
 (学校教育教員養成/中学校-生活創造-家庭科)<前>…外<250>→外<300>

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は9人(100)の微減で、志願者数は4年連続大きな変動はなく、2,900人前後が継続。後期は398人(113)の増加で、学部別ではいずれも前年度と逆の増減と反動が見られた。

**<前期日程>**

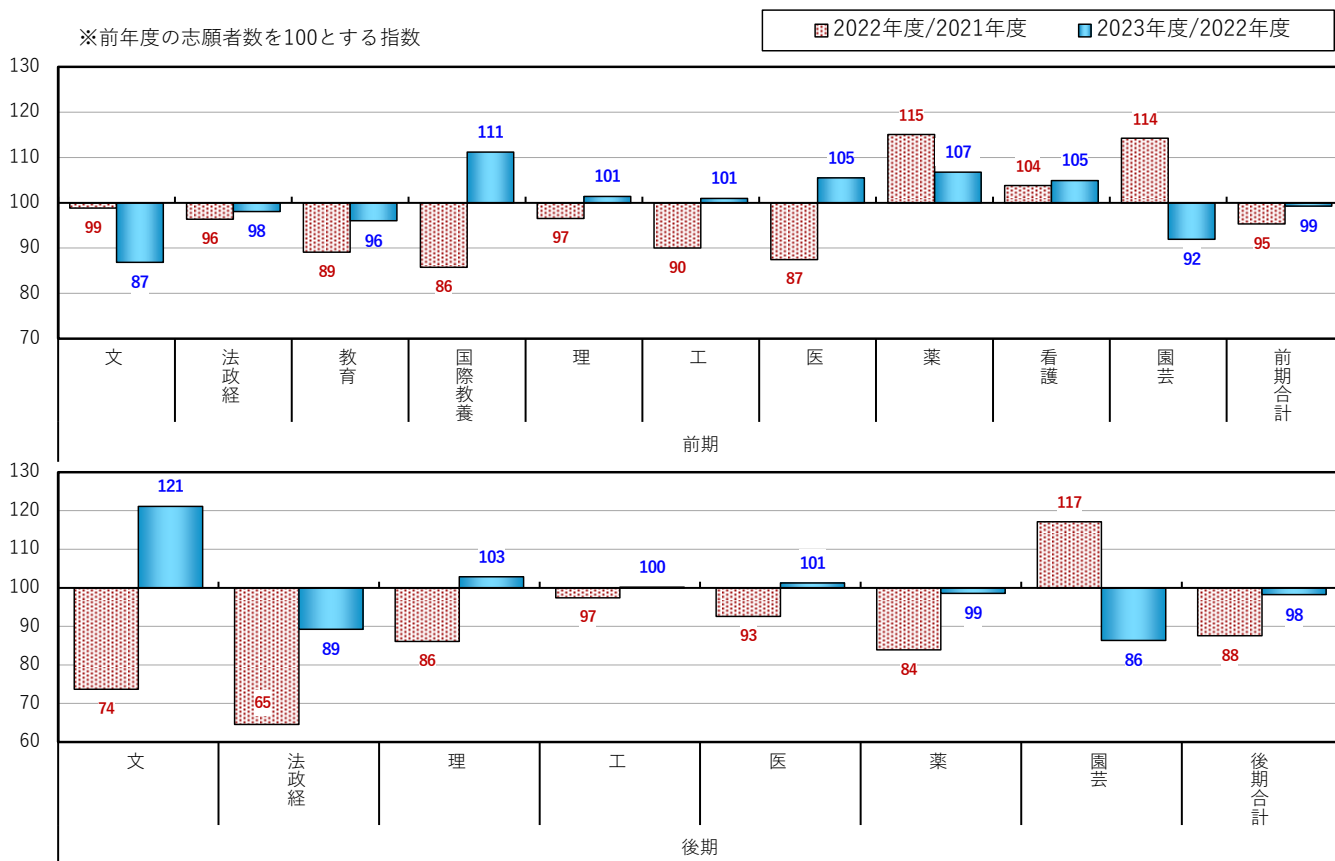
- 経済(82)**は、前年度増加の反動で大幅減少。方式別では、<国際プログラム枠>(57)は、前年度倍増以上の反動で40%以上の大幅減少。一方で、<一般選抜枠>(89)は減少で2年連続減少。志願者数は2015年度以来8年ぶりに600人を下回った。
- 教育(102)**は、微増で2年連続増加だが、志願者数は3年連続800人を下回った。募集単位別では、募集単位が変更となった(学校教員養成/小学校)(133)のみコース単位の比較で大幅増加、志願倍率は2.3倍→3.0倍へアップ。その他の募集単位は13募集単位中11募集単位が減少。また、募集人員が少ない募集単位が多いことから増減が極端になりやすく、10募集単位で20%以上の減少があった。特に、(学校教育教員養成/中学校-芸術-音楽)(17)は激減で志願倍率は2.0倍→0.3倍へ大幅ダウン。(学校教育教員養成/中学校-生活創造-技術)(38)も激減で前年度激増の反動。
- 教養(101)**は、微増だが2年連続増加。志願者数は3年ぶりに300人に達した。
- 理(111)**は、増加。志願者数は2013年度以来10年ぶりの400人台。募集人員は5%増加し志願倍率は4.2倍→4.5倍へアップ。学科別では、5学科中4学科が大幅増加で、(分子生物)(119)のみ2年連続増加、その他の学科はいずれも前年度と逆の増減。一方で、(物理)(75)は4年連続増加の反動で大幅減少。
- 工(110)**は、前年度減少の反動で増加。学科別では、(情報工)(154)は3年ぶりの大幅増加、(機械工学・システムデザイン)(142)も大幅増加で、志願者数は200人を上回った。(電気電子物理工)(111)は増加だが、募集人員が18%増加で志願者数増加率を上回ったことで、志願倍率は逆に2.5倍→2.3倍へダウン。一方で、(環境社会デザイン)(65)、(応用化)(83)はいずれも大幅減少。

**<後期日程>**

- 経済(83)**は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。

- 教養(101)**は、前年度大幅減少の反動はなく微増。
- 理(95)**は、やや減少。学科別では、5 学科中 2 学科が増加。(生体制御)(172)は激増、加えて募集人員が 29%減少で志願倍率は 3.6 倍→8.6 倍へアップ。(分子生物)(63)は 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 工(141)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願者数は 1,800 人を上回った。学科別では、(環境社会デザイン)(90)が減少だが、これを除いた 4 学科はいずれも大幅増加。特に (電気電子物理工)(188)は激増で前年度の反動による極端な増減が継続、募集人員は 18%減少で志願倍率は 3.0 倍→7.0 倍へアップ。

**千葉大：前後期ともに微減だが、大学全体の志願者数は 1 万人台を維持 前期：-45 人 後期：-79 人**



**主な入試変更点** 選抜方法：教育(学校教員養成/英語教育)<前>  
 …英語外部試験パターン変更 得点加算(10 点加点、20 点加点、満点換算)→得点加算(20 点加点、30 点加点)  
 個別試験：園芸(緑地環境)<前>  
 …理の選択から地学除外 数+理 2+外 ※理：(物 or 化 or 生 or 地)→2 →数+理 2+外 ※理：(物 or 化 or 生)→2

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、124 人(99)の微減だが 2 年連続減少、志願者数は 1 万人台を維持。日程別では、前期は 45 人(99)の微減だが 2 年連続減少、後期も 79 人(98)の微減で前期同様に 2 年連続減少。

- <前期日程>
- 文(87)**は、減少で 3 年連続減少。コース別では、4 コース全て減少。特に(人文/日本・ユーラシア文化)(75)は大幅減少で志願者数は 100 人だった。(人文/国際言語文化学)(81)は 2 年連続大幅減少。
  - 法政経(98)**は、微減だが 3 年連続減少。志願者数は 2018 年度以降 900 人台が継続。
  - 教育(96)**は、やや減少で 2 年連続減少。課程・コース・分野別では、14 募集単位中 8 募集単位が減少。(学校教員養成/特別支援教育)(157)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(学校教員養成/小中専門教科-家庭科教育)(118)、(学校教員養成/中学校-社会科教育)(118)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(学校教員養成/中学校-技術科教育)(53)、(学校教員養成/乳幼児教育)(55)、(学校教員養成/小中専門教科-図画工作・美術科教育)(67)、(学校教員養成/英語教育)(76)、(学校教員養成/小中専門教科-保健体育科教育)(84)はいずれも大幅減少。
  - 国際教養(111)**は、2021 年度に現行の募集方法になって以降では初の増加。志願者数は 300 人を上回った。
  - 理(101)**は、前年度並、2021 年度から志願者数の大きな変動はない。学科別では、(生物)(129)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(化)(105)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。一方で、(数学・情報数理)(91)は前年度大幅増加の反動で減少。
  - 工(101)**は前年度減少の反動はなく、前年度並。コース別では、9 コース中 6 コースが減少。(総合工/物質科学)(222)は前年度約 3 分の 1 の激減の反動で倍以上。一方で、(総合工/デザイン)(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
  - 医(105)**は、前年度減少の反動は小さくやや増加。募集単位別では、<一般枠>(114)は前年度大幅減少の反動で増加、<千葉県地域枠>(75)は前年度激増の反動で大幅減少と対照的。なお、2 段階選抜が<一般枠>のみで実施され、第 1 段階選抜の合

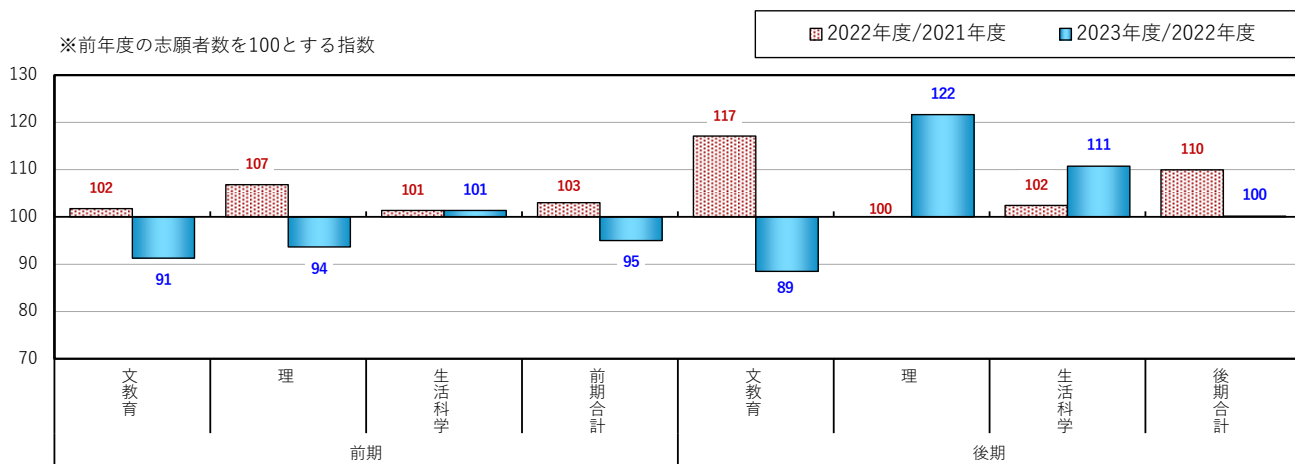
格率は 84.0%だった。

- 薬(107)**は、系統への高い人気から、やや増加で3年連続増加。志願倍率も5.9倍→6.3倍へアップ。
- 看護(105)**は、2年連続やや増加。
- 園芸(92)**は、前年度増加の反動で減少。学科別では、4学科中3学科が減少で、特に(応用生命化)(69)は2年連続大幅減少で3年連続減少、(園芸)(89)は2年連続大幅増加の反動で減少。一方で、(緑地環境)(106)は2年連続やや増加。

<後期日程>

- 文(121)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。募集を行う2学科は、(人文/行動科学)(128)が大幅増加、(人文/歴史学)(107)はやや増加。
- 法政経(89)**は、前年度大幅減少に引き続き2年連続減少。志願倍率も10.6倍→9.5倍にダウン。
- 理(103)**は、やや増加。学科別では、5学科中3学科が減少。(生物)(147)は大幅増加で2019年度以降前年度の反動による増減が継続。一方で、(地球科学)(67)は2年連続増加の反動で大幅減少、(化)(83)は2年連続大幅減少。
- 工(100)**は、前年度並。コース別では、7コース中5コースが増加。特に、(総合工/電気電子工学)(115)は3年連続大幅増加。一方で、(総合工/情報工学)(87)は2年連続減少。
- 医(101)**は、地域枠を廃止して2年目だが、前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は59.9%だった。
- 薬(99)**は、4年制の(薬科学)のみの募集だが、前年度大幅減少の反動はなく微減。志願倍率は3年連続で20倍を上回った。
- 園芸(86)**は、2年連続増加の反動で減少。学科別では、4学科全てが減少。特に(応用生命化)(72)は大幅減少で、志願倍率は18.6倍→13.3倍にダウン。

お茶の水女子大：前期はやや減少、後期は理と生活科学の増加目立つ 前期：-48人 後期：+1人



COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前年度5年ぶりに増加に転じたが、女子大への人気低下の中で再び47人(97)のやや減少。日程別では、前期は48人(95)のやや減少で、志願者数は4年連続1,000人を下回った。後期は前年度増加の反動はなく、1人(100)の微増だが2年連続増加。特に、共通テストの平均点が特に理系で大幅アップしたことで、理、生活科学が前期難関大からの併願先として狙われて増加。

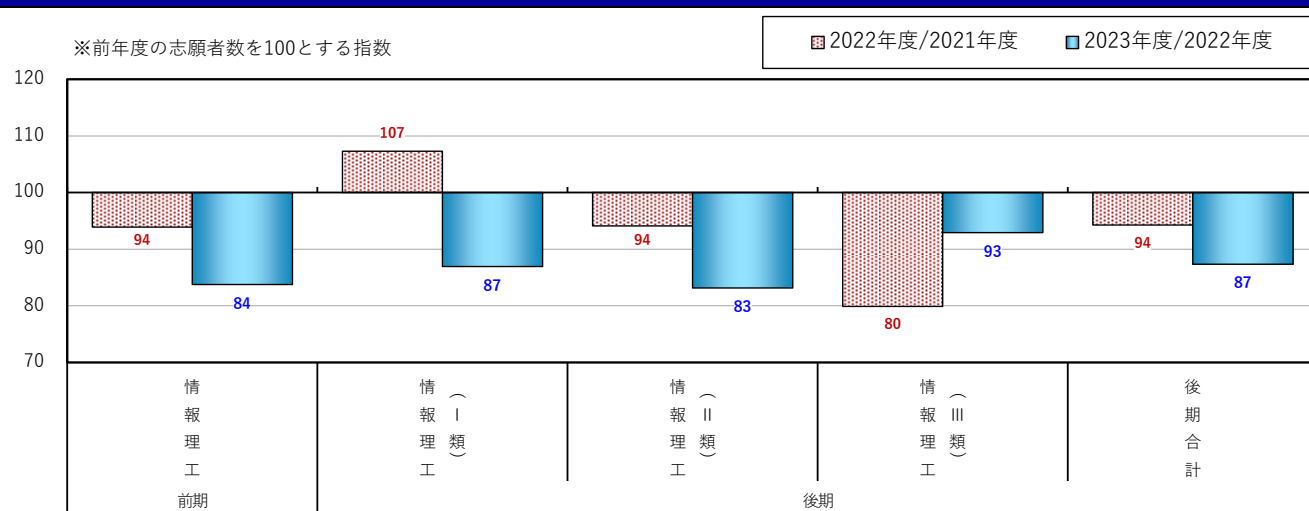
<前期日程>

- 文教育(91)**は、減少で志願者数は再び400人を下回った。学科・専修プログラム別では、5募集単位中で(人文科学)(107)が唯一やや増加で2年連続増加。これを除く4募集単位は減少。特に、(芸術・表現行動)は募集人員が少なく極端な増減となりやすいが、(芸術・表現行動/舞踊教育学)(69)、(芸術・表現行動/音楽表現)(70)はいずれも2年連続大幅減少。(人間社会科学)(86)、(言語文化)(91)は減少。
- 理(94)**は、やや減少。学科別では、(生物)(115)は2年連続大幅増加。(化)(111)は増加で、3年連続増加。(数)(105)は前年度ほぼ半減の反動は小さくやや増加。一方で、(物理)(67)は前年度50%近い大幅増加の反動で大幅減少、(情報科学)(88)は系統への人気は高いが、前年度50%以上の大幅増加の反動で減少。
- 生活科学(101)**は、2年連続微増。学科別では、前年度唯一減少の(食物栄養)(115)は大幅増加、(人間生活)(108)は増加。一方で、(人間・環境科学)(87)、(心理)(87)は減少でいずれも前年度の反動。

<後期日程>

- 文教育(89)**は、前年度大幅増加の反動で減少。学科・専修プログラム別では、募集を行う3募集単位中2募集単位が大幅減少。(人間社会科学)(105)は唯一の増加でやや増加。一方で、(芸術・表現行動/音楽表現)(81)は3年ぶりの減少、(人文科学)(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(122)**は、大幅増加で5年ぶりの増加。学科別では、唯一減少の(物理)(67)は大幅減少。これを除く4学科は増加で、特に(情報科学)(175)は、前年度半減以下の反動で70%以上の激増。(数)(122)は大幅増加、(化)(108)は増加でいずれも2年連続増加。(生物)(103)は前年度まで2年連続大幅増加に引き続きやや増加。
- 生活科学(111)**は、2年連続増加。募集を行う2学科では、(食物栄養)(116)は大幅増加で2年連続増加、(人間・環境科学)(103)はやや増加で、3年連続増加。

電気通信大：類別募集に変更の前期は大幅減少、後期は3年連続減少 前期：-223人 後期：-296人



※前期は2023年度の類別募集における各々の志願者数の合計と、2021年度、2022年度の大括り募集における志願者数の合計との比較

**主な入試変更点** 選抜方法：情報理工<前>…大括り募集から類別募集に変更  
全類一括：349人→I類：121人、II類：114人、III類：114人

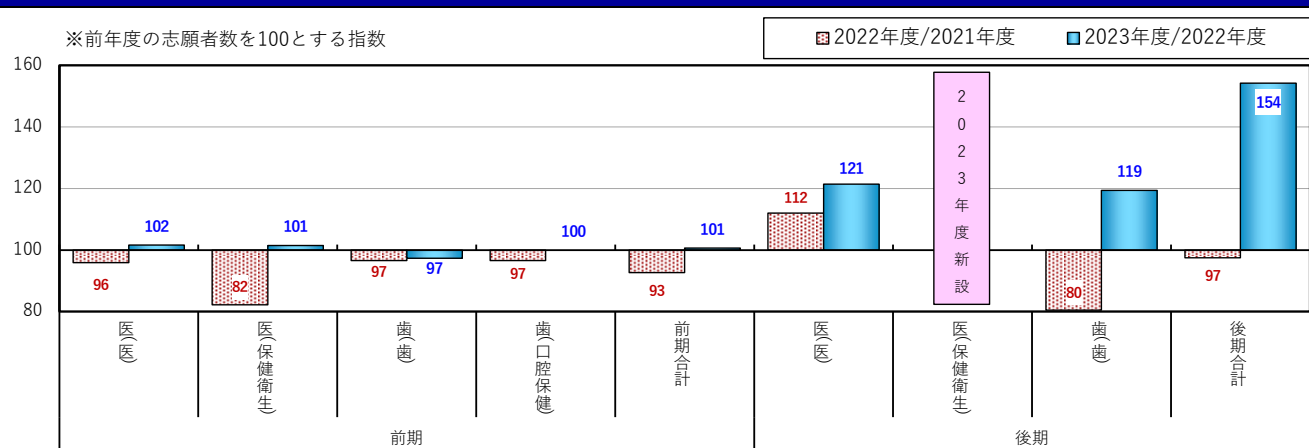
**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、519人(86)の減少で3年連続減少。2016年度の募集方式変更以降では最少の志願者数。共通テストの平均点アップにより、より目標ラインの高い大学への志望の流れがあったことも影響。前期は大括り募集から類別の募集に変更したが、223人(84)の大幅減少。志願倍率は3.9倍→3.3倍にダウン。後期は296人(87)の減少で3年連続減少。志願倍率は9.4倍→8.2倍にダウンし、7年ぶりの8倍台。

<前期日程>  
○情報理工(84)は、大幅減少。類別では、系統への人気の高いI類(情報系)の志願倍率が3類の中で最も高く4.1倍、次いでII類(融合系)が3.4倍で前期全体の志願倍率3.3倍を上回った。III類(理工系)は志願倍率2.4倍で3類の中で最も低倍率だった。

<後期日程>  
○情報理工(87)は、減少で3年連続減少。類別では全ての類が減少、II類(融合系)(83)は大幅減少で2年連続減少、I類(情報系)(87)は減少、III類(理工系)(93)はやや減少で2年連続減少。

東京医科歯科大：前期は各募集単位の変化は小さいが、後期は共テ易化で大幅増加 前期：+4人 後期：+147人



**主な入試変更点** 選抜方法：医(保健衛生/検査技術学)…後期日程を新規実施  
募集人員：医(医)<前>…79人→69人  
医(保健衛生/検査技術学)…<前>27人→20人、<後>0人→7人  
共通テスト：医(保健衛生/検査技術学)<前>…国<80>+歴公<40>+数2<80>+理2<80>+外<80>=総点<360>  
→国<160>+歴公<80>+数2<160>+理2<160>+外<160>=総点<720>

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

医(医)は、前期は2年連続減少の反動は小さく、5人(102)の微増。後期は36人(121)の大幅増加で2年連続増加。医(医)を除く大学全体では、前期は前年度減少の反動はなく、1人(100)の微減で前年度並。後期は111人(208)の倍増以上で4年ぶり

の増加。新規実施の医(保健衛生/検査技術学)を除く、歯(歯)(119)のみでも大幅増加。

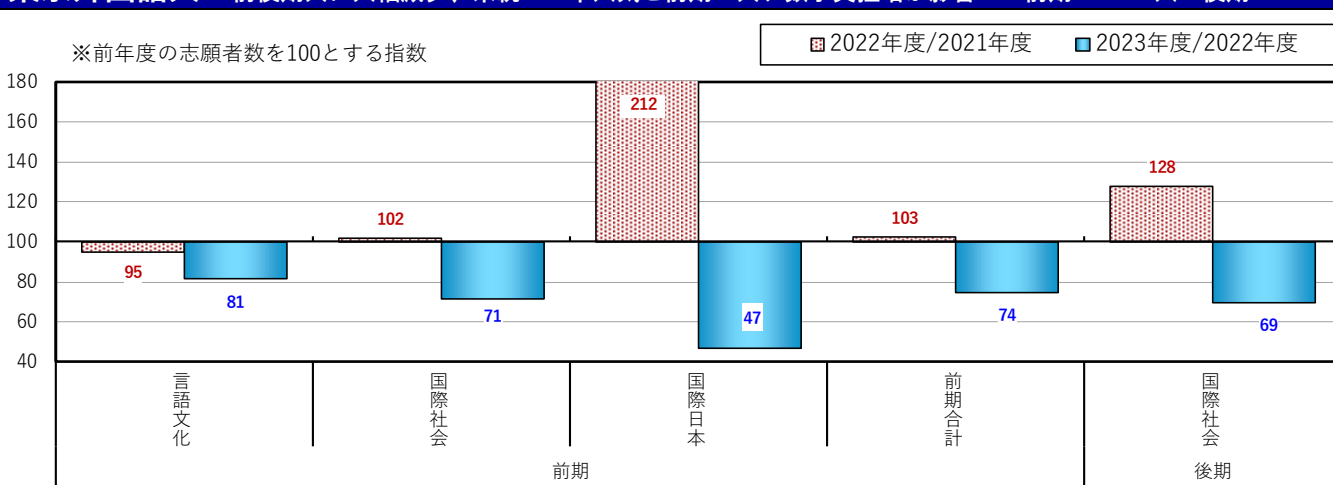
<前期日程>

- 医(医)(102)は、2年連続減少の反動は小さく微増。募集人員が13%減少したことで、志願倍率は3.8倍→4.5倍にアップ。
- 医(保健衛生)(101)は、2年連続減少の反動はなく、微増。専攻別では、(保健衛生/看護学)(114)は4年ぶりの増加。(保健衛生/検査技術学)(90)は減少だが、募集人員の26%減少で志願倍率は2.6倍→3.2倍にアップ。
- 歯(歯)(97)は、2021年度の大幅減少から3年連続減少だが、志願者数は110人台を維持。
- 歯(口腔保健)(100)は、前年度と志願者数は同数。専攻別では、(口腔保健/口腔保健工学)(112)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(口腔保健/口腔保健衛生学)(95)は前年度増加の反動でやや減少。

<後期日程>

- 医(医)(121)は、共通テスト易化による高得点層の増加の影響から、前年度増加の反動はなく大幅増加。志願者数は4年ぶりに200人を上回った。志願倍率も16.8倍→20.4倍にアップ。
- 医(保健衛生)は、(保健衛生/検査技術学)のみの募集を新規実施。募集人員7人に対して志願者数91人、志願倍率13.0倍。
- 歯(歯)(119)は、2年連続大幅減少の反動に加えて、共通テスト平均点アップの影響も加わり、大幅増加で4年ぶりの増加。志願倍率は6.9倍→8.2倍にアップ。

東京外国語大：前後期共に大幅減少、系統への不人気と前期の共通数学負担増が影響 前期：-390人 後期：-406人



**主な入試変更点** 共通テスト：<前>…科目変更：数→数2  
 配点変更：国<100>+数<50>+外<200>+{(歴公 or 理 or 理基2)→2} <100>=総点<450>  
 →国<100>+数2<100>+外<150>+{(歴公 or 理 or 理基2)→2} <100>=総点<450>

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

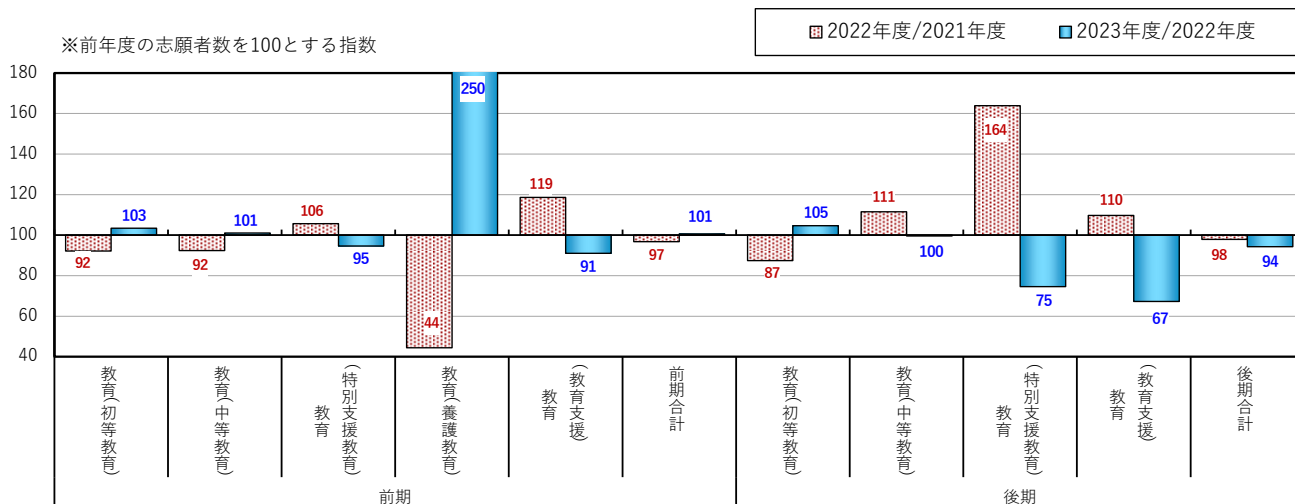
大学全体では、前年度7年ぶりに増加したが、コロナ禍の影響による系統への低い人気に加えて、前期では共通テストでの数学2科目必須の負担増も影響して、796人(72)の大幅減少。日程別では、前期は390人(74)の大幅減少で、募集人員が579人となった2019年度以降では最少。志願倍率は2.64倍→1.96倍にダウンして2倍を下回った。国際社会のみ募集の後期は前年度大幅増加の反動もあって、406人(69)の30%を超える大幅減少。募集人員が56人となった2019年度以降では最少で、志願者数は1,000人を下回り、志願倍率も23.7倍→16.5倍にダウンした。

<前期日程>

- 言語文化(81)は、大幅減少で、募集人員が290人となった2019年度以降では4年連続減少。志願倍率も2.7倍→2.2倍にダウン。専攻言語別では、15募集単位中9募集単位が減少。
- 国際社会(71)は、大幅減少で2年ぶりに減少。13募集単位中11募集単位で減少。
- 国際日本(47)は、前年度倍以上の反動で半減以下。志願倍率も3.5倍→1.7倍にダウン。



東京学芸大：前期は微増、後期はやや減少だが志願倍率はほぼ変化なし 前期：+9人 後期：-65人



## 主な入試変更点

募集単位改組および名称変更

※詳細は「入試変更点一覧」([https://www2.sundai.ac.jp/news/2023news/k\\_4.pdf](https://www2.sundai.ac.jp/news/2023news/k_4.pdf))参照

選抜方法：教育(学校教育教員養成/中等教育-情報)&lt;前&gt;&lt;後&gt;…新規実施

(旧初等教育教員養成/美術)&lt;後&gt;…募集停止

(旧初等教育教員養成/情報教育)&lt;前&gt;&lt;後&gt;…募集停止

## COMMENT

※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は9人(101)の微増で、志願倍率は2.0倍で変化なし。後期は個別試験で教科試験を課さないため、共通テストの平均点アップの影響が起きやすいが、募集人員の4%減少もあって65人(94)のやや減少で2年連続減少。志願倍率は7.0倍→6.9倍でほぼ変化なし。なお、募集単位ごとの募集人員が少ないことから、増減率が大きくなる傾向があるので注意。

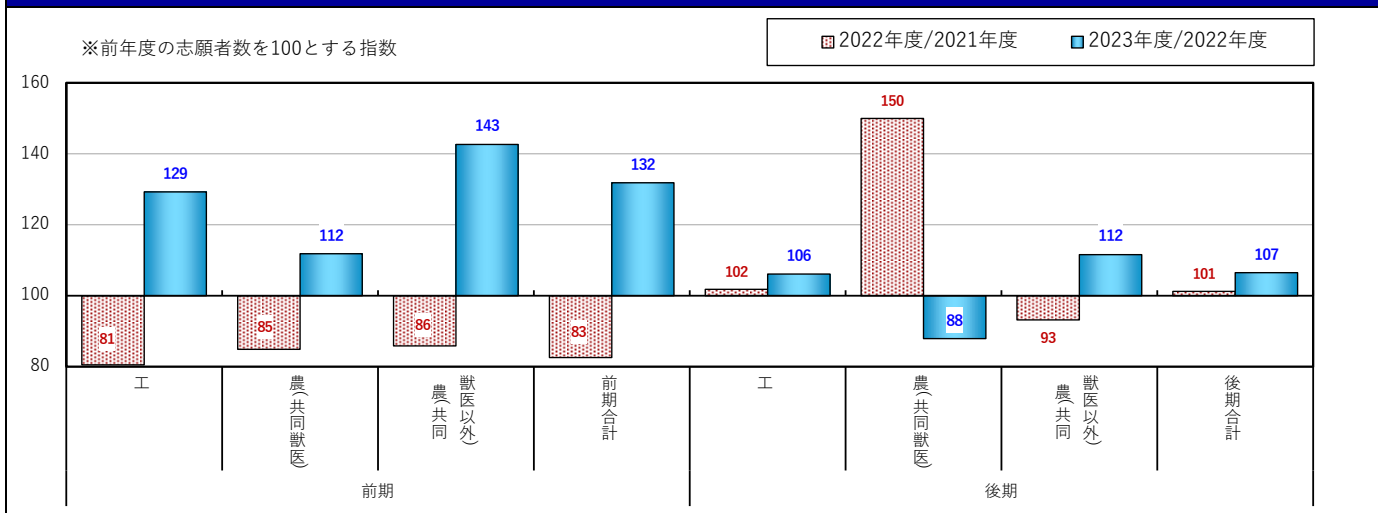
<前期日程> ※改組が行われたので、新募集単位と旧募集単位とで対応するものでの比較を行う。

- 教育(学校教育教員養成/初等教育)(103)は、やや増加。募集停止となった(旧初等教育教員養成/情報教育)を除いた比較では(107)のやや増加。募集単位別では、15募集単位中の10募集単位が増加。特に、(ものづくり技術)(400)は前年度志願倍率が1倍を下回った反動で4倍増、志願倍率は0.9倍→3.5倍と大幅アップ。(現代教育実践-学校心理)(267)は前年度大幅減少の反動で倍増以上、(英語)(182)、(現代教育実践-学校教育)(144)、(現代教育実践-環境教育)(141)、(幼児教育)(116)も大幅増加。一方で、(現代教育実践-国際教育)(65)、(美術)(74)、(理科)(82)、(家庭)(85)は大幅減少。
- 教育(学校教育教員養成/中等教育)(101)は、前年度並。新規実施の(情報)を除いた比較では(96)のやや減少。募集単位別では、12募集単位中の4募集単位が増加。特に、(英語)(164)は前年度半減の反動で激増、(美術)(119)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(理科)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。新設の(情報)は、募集人員15人に対して志願者数は18人、志願倍率は1.2倍。同じ募集人員だった(旧初等教育教員養成/情報教育)との比較では小学校よりも中学校・高等学校での情報教員へのニーズが高いことを反映して(152)の大幅増加。
- 教育(学校教育教員養成/特別支援教育)(95)は、やや減少。2021年度入試から志願者数は50人台で推移。
- 教育(学校教育教員養成/養護教育)(250)は、前年度半減以下の反動で倍増以上。志願倍率は1.3倍→3.3倍にアップ。
- 教育(教育支援)(91)は、前年度大幅増加の反動で減少。募集単位別では、7募集単位中の3募集単位が増加。特に、旧(教育支援/教育支援-生涯学習)から改称した(教育支援/教育支援-生涯学習・文化遺産教育)(176)は激増で、志願倍率は1.6倍→2.9倍にアップ。(教育支援/教育支援-生涯スポーツ)(120)も大幅増加で前年度の反動による増減が継続。一方で、(教育支援/教育支援-多文化共生教育)(45)は前年度倍増以上の反動で半減以下。

<後期日程>

- 教育(学校教育教員養成/初等教育)(105)は、やや増加。募集停止となった改組前の(旧初等教育教員養成/情報教育)、(旧初等教育教員養成/美術)を除いて比較すると(117)の大幅増加。募集単位別では、後期募集を行う8募集単位中の5募集単位が増加。特に、(現代教育実践-環境教育)(353)は3年連続減少の反動で3.5倍以上、志願倍率は6.0倍→21.2倍と大幅アップ。(現代教育実践-学校心理)(151)、(数学)(140)、(社会)(125)も大幅増加でいずれも前年度大幅減少の反動。一方で、(理科)(71)は2年連続増加の反動で大幅減少、志願倍率は6.2倍→4.4倍へダウン。
- 教育(学校教育教員養成/中等教育)(100)は、前年度並。新規実施の(情報)を除くと(88)の減少。募集単位別では、前年度から後期募集を行っていた4募集単位の3募集単位が減少。(理科)(83)は大幅減少で2年連続大幅増加の反動、(社会)(88)は減少で2年連続減少。新設の(情報)は、募集人員5人に対して志願者数は24人、志願倍率は4.8倍。
- 教育(学校教育教員養成/特別支援教育)(75)は、前年度激増の反動で大幅減少。
- 教育(教育支援)(67)は、大幅減少で3年ぶりの減少。後期募集を行う3募集単位では、(教育支援/教育支援-情報教育)(136)は大幅増加。旧(教育支援/教育支援-生涯学習)から改称した(教育支援/教育支援-生涯学習・文化遺産教育)(105)は、やや増加で2年連続増加。一方で、(教育支援/教育支援-多文化共生教育)(39)は激減、志願倍率は14.8倍→5.8倍へダウン。

## 東京農工大：系統への高い人気および共通平均点アップで志願者数増加 前期：+393人 後期：+129人



## COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、工、農・水産系への高い人気および共通テストの平均点アップが積極的な志願状況に影響。前期は前年度大幅減少の反動で393人(132)の大幅増加。後期も129人(107)のやや増加で3年連続増加、志願者数は2018年度入試以来5年ぶりに2,000人を上回った。

## &lt;前期日程&gt;

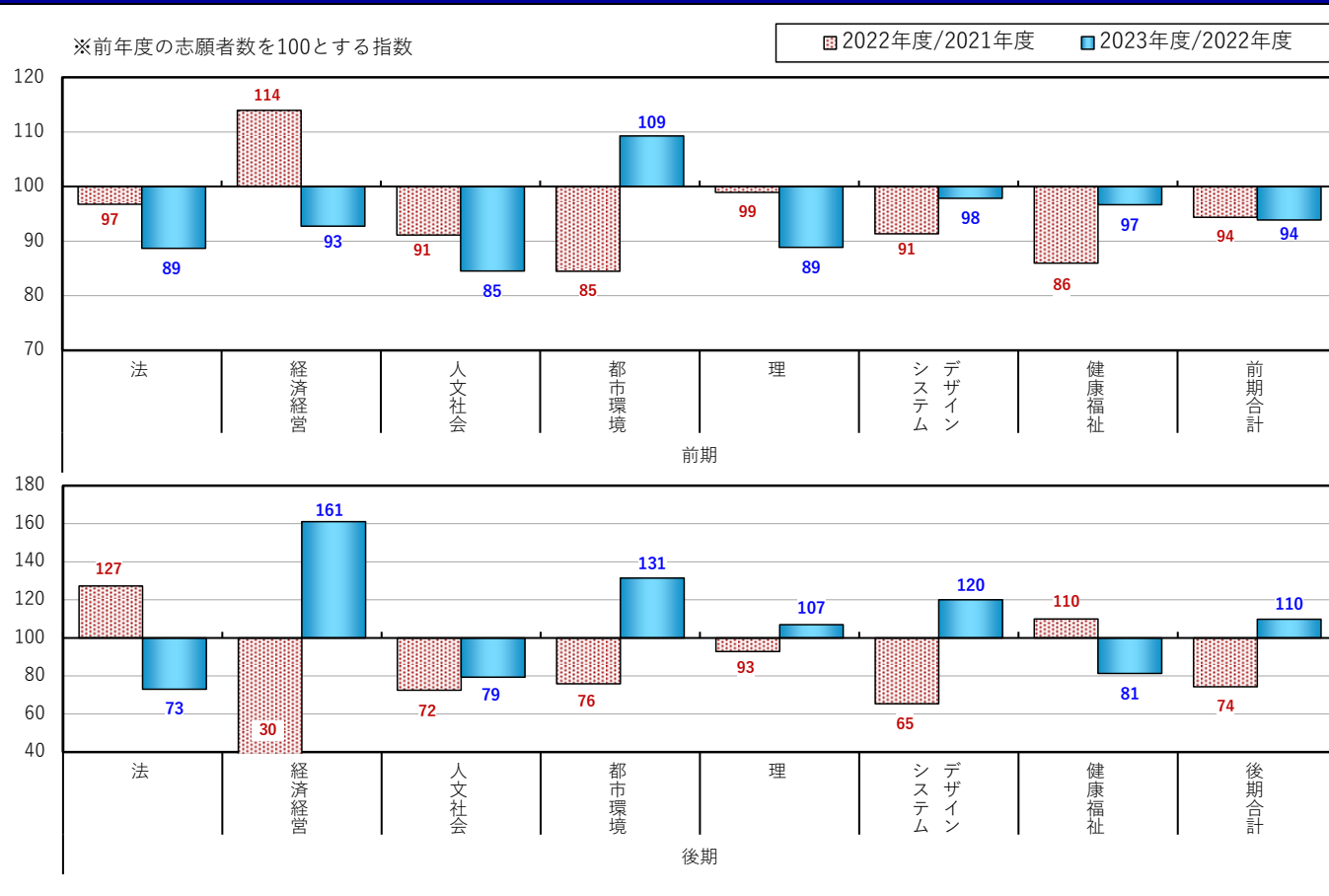
- 工(129)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、6学科中5学科が大幅増加。(化学物理工)(194)は激増で前年度の反動による極端な増減が継続、(知能情報システム工)(137)は系統への高い人気もあり大幅増加、(生命工)(125)、(応用化)(125)はいずれも前年度大幅減少の反動で20%以上の大幅増加。一方で、(機械システム工)(98)は微減だが2年連続減少。
- 農(共同獣医)(112)**は、増加。2018年度以降前年度の反動による増減が継続。
- 農(共同獣医以外)(143)**は、系統への高い人気に加えて共通テストの平均点アップの影響と前年度減少の反動で大幅増加。2019年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、4学科全てが大幅増加。(生物生産)(204)は倍増以上、(応用生物科学)(134)、(地域生態システム)(130)、(環境資源科学)(115)は大幅増加でいずれも前年度と逆の増減。

## &lt;後期日程&gt;

- 工(106)**は、やや増加で4年連続増加、志願者数は8年ぶりに1,500人を上回った。学科別では、6学科中増減が3学科ずつ。(化学物理工)(141)は大幅増加で3年連続増加、(生命工)(134)は前年度減少の反動で大幅増加。一方で、(生体医用システム工)(86)は2019年度の学科改組以降で初めての減少、(機械システム工)(88)は2年連続減少。
- 農(共同獣医)(88)**は、減少。志願者数は4年連続100人を下回った。
- 農(共同獣医以外)(112)**は、増加。学科別では4学科のいずれも前年度と逆の増減。(地域生態システム)(135)、(生物生産)(127)は大幅増加、(応用生物科学)(112)は増加。一方で、(環境資源科学)(77)は大幅減少。

東京都立大：前期は4年連続減少、後期は増加

前期：-277人 後期：+216人



主な入試変更点 共通テスト：健康福祉(放射線)<後>…数2+理2+外→国+数2+理2+外 ※国追加

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は277人(94)のやや減少で4年連続減少、志願者数は2018年度の改組後で最少。後期は前年度大幅減少の反動で216人(110)の増加。なお、第1段階選抜の不合格者数は、志願者数の増減に伴って、前期は367人→272人と大幅減少、一方で後期は129人→197人と大幅増加。

- <前期日程>
- 法(89)は、2年連続減少、志願者数は募集人員が150人となった2021年度以降で最少。
  - 経済経営(93)は、前年度増加の反動でやや減少。区分別では個別試験が「数学(数学IIIを含む)」の<数理>(129)は、大幅増加で2年連続増加。一方で、個別試験が「国語、地歴または数学(数学IIIを含まない)」の<一般>(84)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願者数は募集人員が100人となった2021年度以降で最少。
  - 人文社会(85)は、志願者数は450人を下回り、大幅減少で募集人員が118人となった2021年度以降で最少。学科別では、(人間社会)(78)は大幅減少で、志願倍率も4.8倍→3.7倍にダウン。(人文)(96)はやや減少、志願倍率は3.8倍で2018年度の改組後最低。
  - 都市環境(109)は、2年連続減少の反動で増加。募集単位別では、(都市政策科学)<文系>(207)は2年連続大幅減少の反動で倍以上、(都市政策科学)<理系>(194)は前年度半減以下の反動で激増、(観光科学)(157)は前年度半減以下の反動で大幅増加、(都市基盤環境)(120)は2年連続大幅増加。一方で、(環境応用化学)(84)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少、(建築)(91)は減少で志願倍率は7.7倍で2018年度の改組後最低。
  - 理(89)は、減少で4年連続減少、志願者数は2018年度の改組後で最少。学科別では、(化学)(115)は2年連続大幅増加。一方で、(生命科学)(66)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(数理科学)(74)は前年度減少に引き続き大幅減少。
  - システムデザイン(98)は、微減。志願者数は募集人員が167人となった2021年度以降で最少、志願倍率も5倍を下回った。学科別では、(情報科学)(113)は増加、(インダストリアルアート)(109)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(電子情報システム工)(86)は前年度大幅減少に引き続き減少、(航空宇宙システム工)(95)、(機械システム工)(95)はいずれもやや減少。
  - 健康福祉(97)は、前年度減少に引き続きやや減少で、募集人員が92人になった2021年度以降で最少。志願倍率は4年ぶりに3.2倍を下回った。学科別では、(放射線)(114)が前年度大幅減少の反動で、4学科で唯一増加。他の3学科は(理学療法)(84)が大幅減少で2年連続減少、(看護)(91)は減少で2年連続減少、(作業療法)(97)はやや減少。

- <後期日程>
- 法(73)は、後期募集3年目だが、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も14.3倍→10.5倍にダウン。
  - 経済経営(161)は、前年度約70%の激減の反動で激増。改組後2年目の2019年度以降は大幅な増減が継続。
  - 人文社会(79)は、大幅減少で募集人員が10人になった2021年度以降では最少。学科別でも、(人間社会)(79)、(人文)(80)はいずれも現在の募集人員となった2021年度以降では最少。
  - 都市環境(131)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、6学科中4学科が増加。特に、(都市政策科学)(333)は前

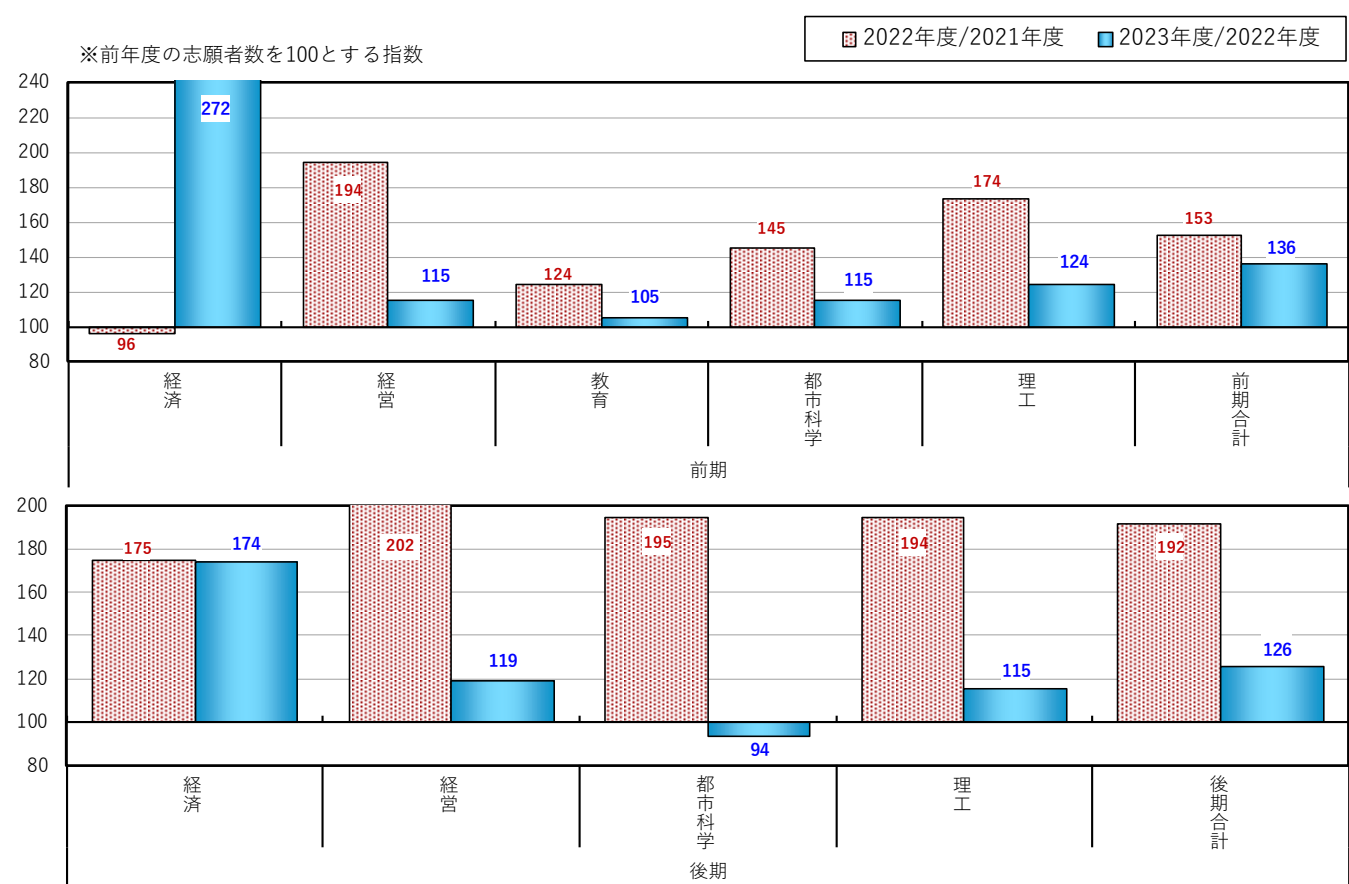
年度激減の反動で3.3倍以上の激増で、志願倍率も6.6倍→22.0倍に大幅アップ、(観光科学)(319)も前年度半減以下の反動で3.2倍近い激増、(地理環境)(119)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(環境応用化学)(81)は2年連続大幅減少、志願者数は募集人員が9人になった2021年度以降では最少、志願倍率も7.6倍までダウン。

○理(107)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(数理科学)(144)は3年連続減少の反動で大幅増加、(化学)(128)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(生命科学)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(物理)(89)は前年度増加の反動で減少。

○システムデザイン(120)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、前年度は5学科全てが大幅減少したが、5学科中4学科が増加に転じた。(情報科学)(140)、(機械システム工)(137)、(インダストリアルアート)(120)はいずれも前年度の反動で大幅増加。(航空宇宙システム工)(114)は前年度の反動で増加。一方で、(電子情報システム工)(92)は前年度に引き続き減少。

○健康福祉(81)は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、(放射線)(113)が唯一増加、他の3学科はいずれも減少。(作業療法)(36)は前年度2.5倍近い激増の反動で激減、(理学療法)(85)は2年連続大幅減少。(看護)(86)は減少で志願者数も募集人員が4名となった2021年度以降最少。

横浜国立大：前後期のいずれも2年連続大幅増加 前期：+1,027人 後期：+1,144人



主な入試変更点

選抜方法：経済(経済/LBEEP)…後期日程新規実施  
 第1段階選抜：理工<前>…新規実施、実施基準は募集人員の約6倍  
 (募集人員は学科募集人員、ただし化学・生命系はEP募集人員)  
 理工<後>…新規実施、実施基準は募集人員の約8倍  
 (募集人員は学科募集人員、ただし化学・生命系はEP募集人員)  
 募集人員：経済(経済/DSEP)…<前>5人→10人、<後>5人→10人  
 経済(経済/LBEEP)…<前>10人→10人、<後>0人→5人  
 共通テスト：理工(化学・生命系)…理の選択から地学除外  
 国+歴公+数2+理2+外 ※理：(物 or 化 or 生 or 地学)→2 → 国+歴公+数2+理2+外 ※理：(物 or 化 or 生)→2  
 理工(数物・電子情報系、機械・材料・海洋系)…理の選択から生、地学除外  
 国+歴公+数2+理2+外 ※理：(物 or 化 or 生 or 地学)→2 → 国+歴公+数2+理2+外 ※理：物+化  
 個別試験：教育<前>…規定なし→共テと個別試験の総得点が合格最低点に達していても面接の結果によって不合格とする

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では前年度の激増に引き続き2,171人(130)の大幅増加、志願者数は9,500人に迫り、コロナ禍対策として概ね個別試験実施なしとなった影響で前年度比45%減少した2021年度入試との比較では、約2.3倍増。2021年度の大規模減少の反動が継続したことに加えて、横浜地区の鉄道新線開通による交通の利便向上も影響。日程別でも、前期は1,027人(136)の2年連続大幅増加、後期も1,144人(126)の大幅増加で前年度のほぼ倍増に引き続き2年連続増加。コロナ禍以前の2020年度比でも、大学全体では1,890人(125)の大幅増加、前期は1,040人(137)の大幅増加、後期も850人(118)の大幅増加だった。

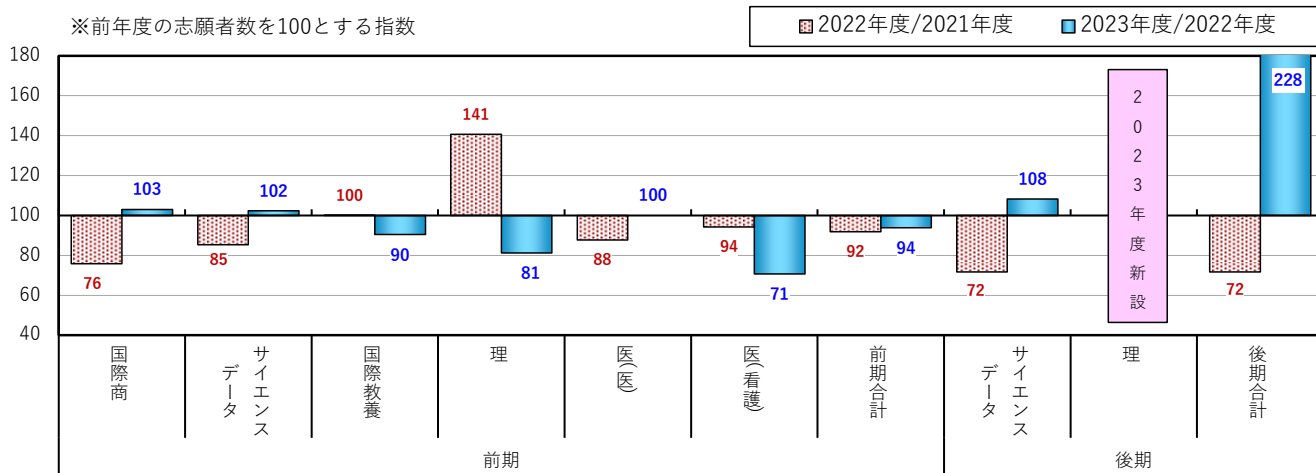
<前期日程>

- 経済(272)**は、4年連続減少の反動で約2.7倍増。志願倍率も2.4倍→6.3倍にアップ。募集単位別では、(経済/一般)(264)は約2.6倍増、人気の高い「情報処理・統計分析能力の育成」を謳っている(経済/DSEP)(555)は募集人員が倍増したことも加わって5倍増以上、(経済/LBEEP)(227)も約2.3倍増。
- 経営(115)**は、コロナ禍以前も個別試験はなく、前年度から新たに個別試験を実施。前年度にほぼ倍増で2年連続大幅増加だった反動はなく、さらに大幅増加。志願倍率も4.6倍→5.3倍にアップ。募集単位別では、(経済/一般)(112)は3年連続増加、人気の高い「情報処理・統計分析能力の育成」を謳っている(経営/DSEP)(185)は2年連続激増。
- 教育(105)**は、課程・コース・領域の大規模改組が行われて3年目だが、学部全体ではやや増加で2年連続増加。募集単位別では、増加が3募集単位、減少が4募集単位。増加した募集単位は全て大幅増加で、特に(学校教員養成/芸術・身体・発達支援系教育-心理学)(168)は激増。一方で減少した募集単位では、(学校教員養成/芸術・身体・発達支援系教育-美術)(60)の大幅減少が目立った。
- 都市科学(115)**は、2年連続大幅増加。学科別では、(環境リスク共生)(147)は2年連続減少の反動で大幅増加、(建築)(114)は前年度約2.3倍増の反動はなく増加。(都市基盤)(113)は2年連続増加。一方で、(都市社会共生)(94)はやや減少だが、前年度大幅増加の反動は小さかった。
- 理工(124)**は、前年度激増に引き続き大幅増加。学科・教育グループ(EP)別では、(化学・生命系/化学・化学応用)(96)が唯一やや減少だが、前年度約2.6倍増だった反動は小さかった。これを除く8つの学科・教育グループ(EP)はいずれも増加。特に目立ったのは、(機械・材料・海洋系/材料工学)(250)が前年度45%減少の反動で2.5倍増。(化学・生命系/バイオ)(176)が前年度の大幅増加に引き続き激増。

<後期日程>

- 経済(174)**は、2年連続で激増、志願倍率は6.8倍→11.8倍→18.3倍にアップ。特に、人気の高い「情報処理・統計分析能力の育成」を謳っている(経済/DSEP)(246)は前年度大幅増加に引き続いて約2.5倍増、志願倍率は9.2倍→11.3倍にアップ。
- 経営(119)**は、前年度の倍増以上に引き続き大幅増加。特に、人気の高い「情報処理・統計分析能力の育成」を謳っている(経営/DSEP)(155)は2年連続大幅増加で、志願倍率も21.3倍→33.0倍にアップ。
- 都市科学(94)**は、前年度ほぼ倍増だった反動は小さくやや減少。学科別では、4学科中3学科が増加。(環境リスク共生)(266)は前年度の志願者数3分の1の激減だった反動で、約2.7倍増。一方で、(都市社会共生)(39)は前年度ほぼ3倍増だった反動でほぼ60%の激減。
- 理工(115)**は、前年度のほぼ倍増に引き続き大幅増加。学科・教育プログラム(EP)別では、(化学・生命系/化学・化学応用)(82)が前年度倍増以上の反動で大幅減少だったが、これを除く8つの学科・教育グループ(EP)は増加。特に、(化学・生命系/バイオ)(205)は2年連続倍増以上、(数物・電子情報系/物理工学)(152)は前年度の倍増以上に引き続き大幅増加。

横浜市立大：前期はやや減少、後期は理の新規実施で大幅増加 前期：-125人 後期：+78人



主な入試変更点

2段階選抜実施：理<後>…約10倍  
 第1段階選抜基準、実施方法変更：  
 医(医) <前>…共通テストの合計が750点以上の者のうちから、募集人員の約3倍(通過予定人数：210人)  
 →共通テストの合計が750点以上の者のうちから、募集人員の約3倍(通過予定人数：207人)  
 ※750点以上の志願者が207人に満たない場合は、志願者全体の共通テストの得点状況等により、750点未満でも合格となる場合がある。  
 選抜方法：理…後期日程を新規実施  
 募集人員：理…<前>(B方式)25人→20人、<後>0人→10人  
 医(医)<地域医療枠>…<前>10人→9人  
 (看護)…<前>65人→55人  
 共通テスト：データサイエンス<前>…国<200>+数2<300>+外<500>+(歴公 or 理・理基2)→2<300>=総点<1,300>  
 →国<200>+数2<300>+外<300>+(歴公 or 理・理基2)→2<300>=総点<1,100>  
 理<前>(A方式)…国<200>+歴公<100>+数2<200>+理2<200>+外<500>=総点<1,200>  
 →国<200>+歴公<100>+数2<200>+理2<200>+外<300>=総点<1,000>

(B方式)…国<200>+歴公<100>+数2<200>+理2<200>+外<500>=総点<1,200>  
 →数2<400>+理2<300>+外<300>=総点<1,000>  
 個別試験：データサイエンス<前>…数+総合問題→数+外+総合問題  
 理<前>(A方式)…数+理2→数+理2+外  
 (B方式)…数+理→数+理2+外

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は125人(94)のやや減少。募集人員が595人となった2021年度以降では、初めて志願者数が2,000人を下回った。後期は78人(228)の大幅増加だが、既存のデータサイエンス(108)のみでは、5人のみの増加。後期全体では理の新規実施で募集人員が300%増加のため、志願倍率は12.2倍→9.3倍にダウン。

<前期日程>

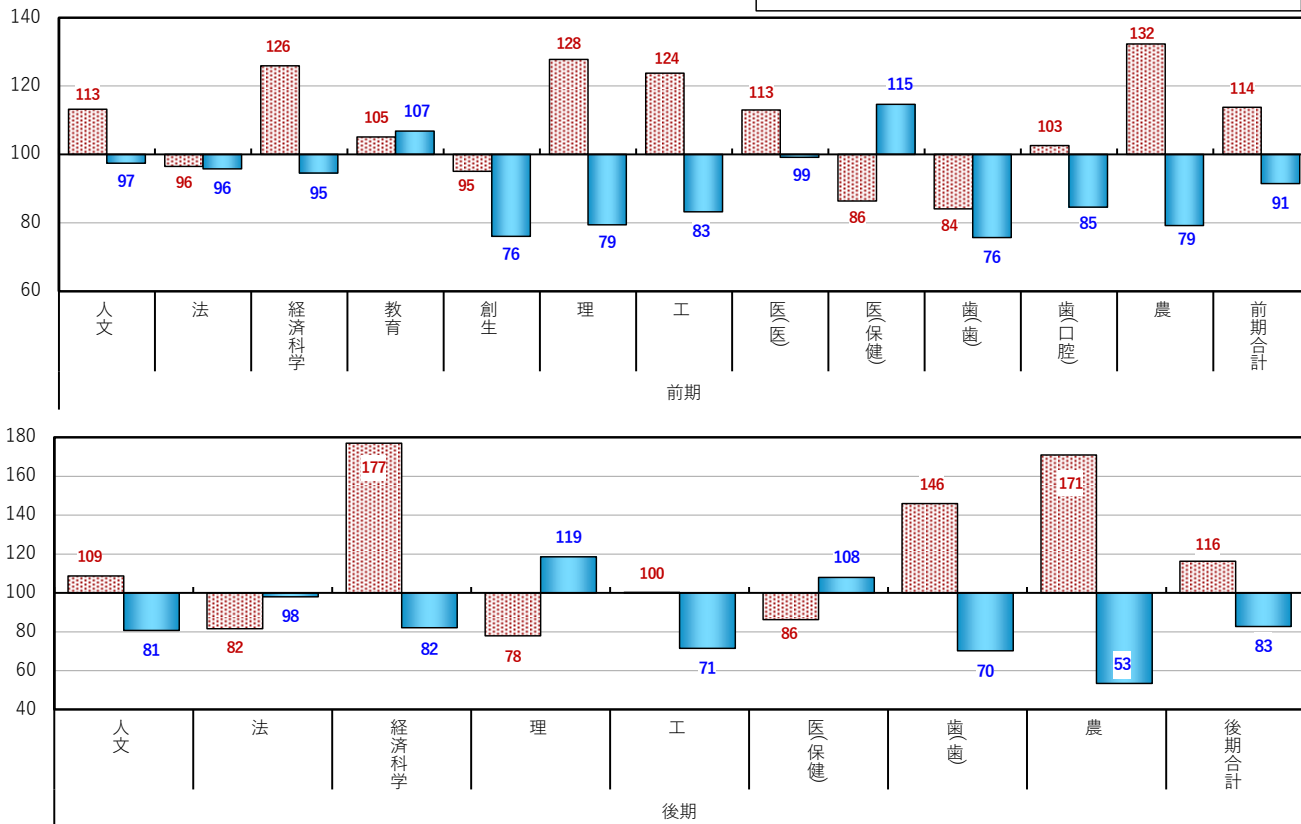
- 国際商(103)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。2019年度の改組の翌年から前年度の反動による増減が継続。志願者数は2年連続600人を下回った。
- データサイエンス(102)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。
- 国際教養(90)は、系統への低い人気もあり減少。志願者数は2019年度の改組以降、初めて600人を下回った。
- 理(81)は、前年度大幅増加の反動に加え、個別試験での科目負担増により大幅減少。募集人員も7%減少だが、それを上回る志願者数減少率で、志願倍率は3.7倍→3.2倍へダウン。
- 医(医)(100)は、前年度減少の反動はなく志願者数は同じで前年度並。第1段階選抜が実施され、合格率は87.7%だった。
- 医(看護)(71)は、大幅減少で2年連続減少。募集人員は15%減少だが、それを上回る志願者数減少率で、志願倍率は2.0倍→1.7倍と3年ぶりに2倍を下回った。

<後期日程>

- データサイエンス(108)は、個別試験は面接のみで、共通テストの成績が合否に大きく影響したことから、共通テストの平均点アップにより、3年ぶりの増加。
- 新規実施の理は、個別試験は面接のみで、共通テストの成績が合否に大きく影響した。募集人員10人に対し志願者数は73人、志願倍率は7.3倍。

**新潟大：前後期共に反動で減少、学部・学科単位でも多くは反動による増減** 前期：-304人 後期：-411人

※前年度の志願者数を100とする指数



**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、コロナ禍による移動回避に伴う地元志向が緩和され減少。前期は前年度増加の反動もあって、304人(91)の減少。学部別(医、歯は学科別、以下学部・学科別)では、増加は医(保健)(115)の大幅増加、(教育)(107)のやや増加のみで、他の学部・学科はいずれも減少。特に歯(歯)(76)、創生(76)、農(79)、理(79)、工(83)、歯(口腔生命福祉)(85)は大幅減少で、理系の減少が顕著。連続増加は教育、連続減少は法、創生、歯(歯)のみで、前年度と逆の増減が目立った。後期も前年度大幅増加の反動から、411人(83)の大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。学部・学科別では、理(119)の大幅増加と、農(53)、

歯(歯)(70)、工(71)、人文(81)、経済科学(82)の大幅減少が目立った。また、連続減少は法のみで、他の学部・学科はすべて前年度の逆の増減。

<前期日程>

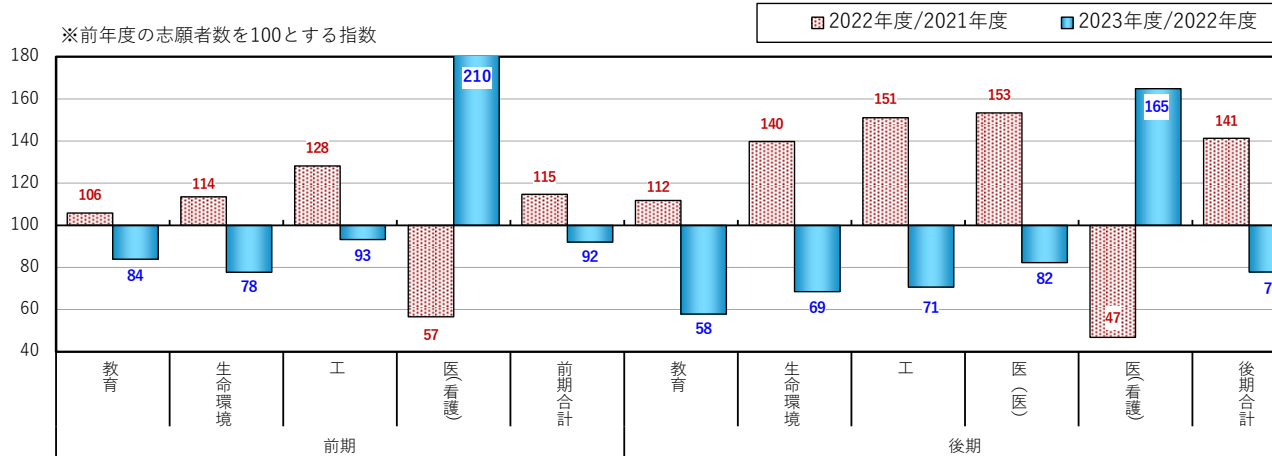
- 人文(97)は、前年度増加の反動は小さくやや減少。
- 法(96)は、やや減少で3年連続減少。
- 経済科学(95)は、2年連続増加の反動は小さくやや減少だが、志願者数は500人台を維持。
- 教育(107)は、2年連続やや増加。課程・コース・専修別では、13募集単位中で増加は9募集単位、減少は4募集単位。(学校教員/教科教育-保健体育)(108)、(学校教育/学校教育-学校教育学)(87)の2募集単位を除くと、いずれも大幅な増減。
- 創生(76)は、2年ぶりの大幅減少で3年連続減少。志願倍率は2.1倍→1.6倍にダウン、2017年度の新設以降、初めて志願倍率が2倍を下回った。
- 理(79)は、2年連続増加の反動で大幅減少。選抜方法別では、<野外科学志向選抜>(62)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願倍率は1.5倍→0.9倍にダウン、2年ぶりに1倍を下回った。<理数重点選抜>(74)は3年連続増加の反動で大幅減少。一方で、<理科重点選抜>(123)は2017年度の選抜方法変更後減少が継続した反動で大幅増加。
- 工(83)は、2021年度に改組したが、前年度の大幅増加の反動で大幅減少。選抜方法別では、<共通テスト重視型>(47)は前年度共通テストで大幅難化した数学の配点比率が全体の25%と小さいことで狙われて大幅増加した反動で半減以下、一方で、<個別学力検査重視型>(211)は前年度共通テストで大幅難化した数学の配点比率が全体の33%と大きいことで敬遠されて大幅減少した反動で倍増以上。選抜方法の名称と共通テストの平均点の変化との相関が逆に感じられる増減となったが、教科ごとの配点の違いが志願動向に大きく影響した。
- 医(医)(99)は、系統への高い人気から、前年度増加の反動は小さく、前年度並。
- 医(保健)(115)は、2年連続減少の反動で大幅増加。専攻別では、(保健/検査技術科学)(270)は2年連続半減近かった反動で激増。一方で、(保健/放射線技術科学)(59)は大幅減少で3年連続減少、(保健/看護学)(86)は減少。
- 歯(歯)(76)は、3年連続大幅減少。志願倍率は4.6倍→3.5倍にダウン、志願倍率は2010年度以来の4倍を下回った。
- 歯(口腔生命福祉)(85)は、大幅減少で、3年ぶりの減少。志願倍率は2.6倍→2.2倍にダウン。
- 農(79)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率は2.3倍→1.8倍にダウン、2年ぶりに2倍を下回った。

<後期日程>

- 人文(81)は、3年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は10.0倍→8.0倍にダウン。
- 法(98)は、前年度の大幅減少に引き続き微減。
- 経済科学(82)は、前年度激増の反動で大幅減少。
- 理(119)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 工(71)は、大幅減少。募集人員が50人となった2021年度以降は志願倍率6.4倍が連続したが、4.6倍にダウン。
- 医(保健)(108)は、前年度減少の反動で増加。専攻別では、(保健/検査技術科学)(236)は前年度半減以下の反動で倍増以上。志願倍率は8.3倍→19.6倍に大幅アップ。一方で、(保健/放射線技術科学)(52)は前年度激増の反動でほぼ半減。志願倍率は21.8倍→11.4倍に大幅ダウン。(保健/看護学)(89)は2年連続減少。
- 歯(歯)(70)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 農(53)は、前年度激増の反動でほぼ半減。2020年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。

山梨大：前後期ともに反動で減少、特に後期は大幅減少

前期：-83人 後期：-558人



**主な入試変更点** 募集人員：工(土木環境工)…<前>33人→39人、<後>5人→7人 (機械工)…<前>33人→40人、<後>5人→8人  
 (電気電子工)…<前>33人→41人 (メカトロニクス工)…<前>33人→39人、<後>5人→7人  
 (先端材料理工)…<前>19人→27人、<後>5人→6人

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前年度大幅増加の反動で641人(82)の大幅減少。日程別では、前期は前年度大幅増加の反動で83人(92)の減少。後期は前年度大幅増加の反動で、558人(78)の大幅減少。いずれも、共通テストの平均点アップによる上位大学への強気の出願動向も影響。

<前期日程>

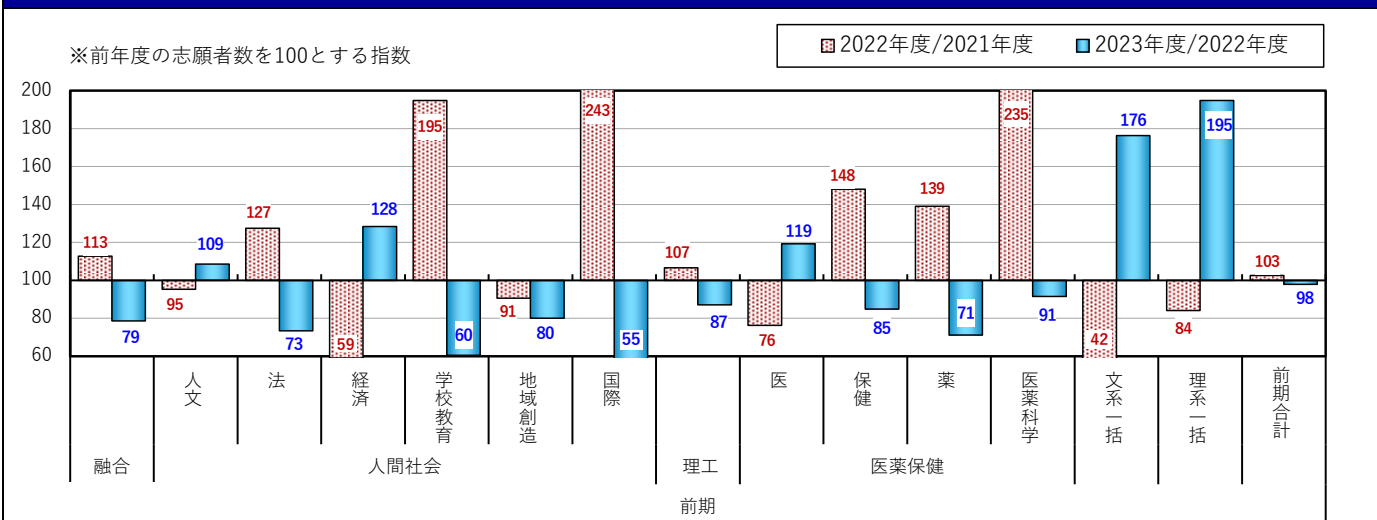
- 教育(84)**は、系統への低い人気と前年度やや増加の反動で大幅減少。コース別では、6コースで増減が3コースずつに分かれた。増加では、(学校教育/生活社会教育)(132)が3年連続減少の反動で大幅増加。一方で減少では、(学校教育/幼小発達教育)(50)は半減、(学校教育/障害児教育)(57)と(学校教育/科学教育)(84)は大幅減少。
- 生命環境(78)**は、前年度3年ぶりに増加したが、再び大幅減少。学科・コース別では、6募集単位中4募集単位が減少。減少した募集単位はいずれも20%以上の大幅減少、特に(地域社会システム/観光政策科学特別)(40)は2年連続大幅増加の反動で激減。一方で、増加した募集単位では(地域食物科学)(117)は前年度激増に引き続き大幅増加。
- 工(93)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学科別では、7学科中6学科が減少。特に、(機械工)(77)は前年度激増の反動で大幅減少、土木環境工(79)は2年連続大幅減少、(メカトロニクス工)(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(電気電子工)(141)は前年度の倍増以上に引き続き大幅増加、募集人員も24%増加したが志願倍率は4年ぶりに3倍を上回った。
- 医(看護)(210)**は、前年度40%以上の大幅減少の反動と個別試験に教科試験がなく共通テストの平均点アップの影響を強く受けて、倍増以上。

<後期日程>

- 教育(58)**は、系統への低い人気と前年度増加の反動で大幅減少。コース別では、6コース中5コースが減少。特に、(学校教育/幼小発達教育)(30)は前年度激増の反動で激減、(学校教育/障害児教育)(41)は前年度大幅減少に引き続き半減以下。一方で、唯一増加の(学校教育/生活社会教育)(163)は2年連続大幅減少の反動で激増。
- 生命環境(69)**は、前年度大幅増加の反動に加え、共通テストの平均点アップの影響による上位大学への強気な出願の影響で大幅減少。学科別では、全ての学科で大幅減少。特に、(地域社会システム)(59)は2年連続増加の反動で大幅減少、(環境科学)(63)は前年度倍増の反動で大幅減少。
- 工(71)**は、前年度大幅増加の反動と共通テストの平均点アップの影響による上位大学への強気な出願の影響で大幅減少。学科別では、7学科のうち6学科が減少、その中の5学科が大幅減少。特に(先端材料理工)(37)は3年連続大幅増加の反動で激減、(土木環境工)(57)は大幅減少で3年連続減少、(コンピュータ理工)(58)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、2017年度以降は前年度の反動による増減が継続。一方で、唯一増加の(メカトロニクス工)(121)は大幅増加で3年連続増加。
- 医(医)(82)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も18.0倍→14.8倍にダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は67.8%だった。
- 医(看護)(165)**は、前年度半減以下だった反動に加えて、個別試験が面接のみであることから共通テストの平均点アップの影響を強く受けて激増。前年度の反動による極端な増減が継続。

金沢大：大学全体では前年度並、一括入試は文理ともに激増

前期：-81人



<b>主な入試変更点</b>	学類新設：融合(スマート創成科学)…<文系傾斜>6人、<理系傾斜>12人 選抜方法：医薬保健(医)<前>…(合否判定基準追加)口述試験にて医師の適性を欠くと判断された場合には、学力検査の成績に関わらず不合格となる場合がある 共通テスト：医薬保健(医薬科学)<前>…英語外部試験新規利用(対象試験：ケンブリッジ英検、英検、GTEC CBT、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT) 個別試験：融合(観光デザイン)<前>…国+数+外→数+外+(国 or 総合問題)
----------------	---

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期のみの募集で、81人(98)の微減で前年度並。学域別(医薬保健は学類別、一括入試は募集単位別)ではいずれも前年度と逆の増減。前期実施になって3年目の一括入試が、<文系>(176)、<理系>(195)といずれも激増だったのが目立った。

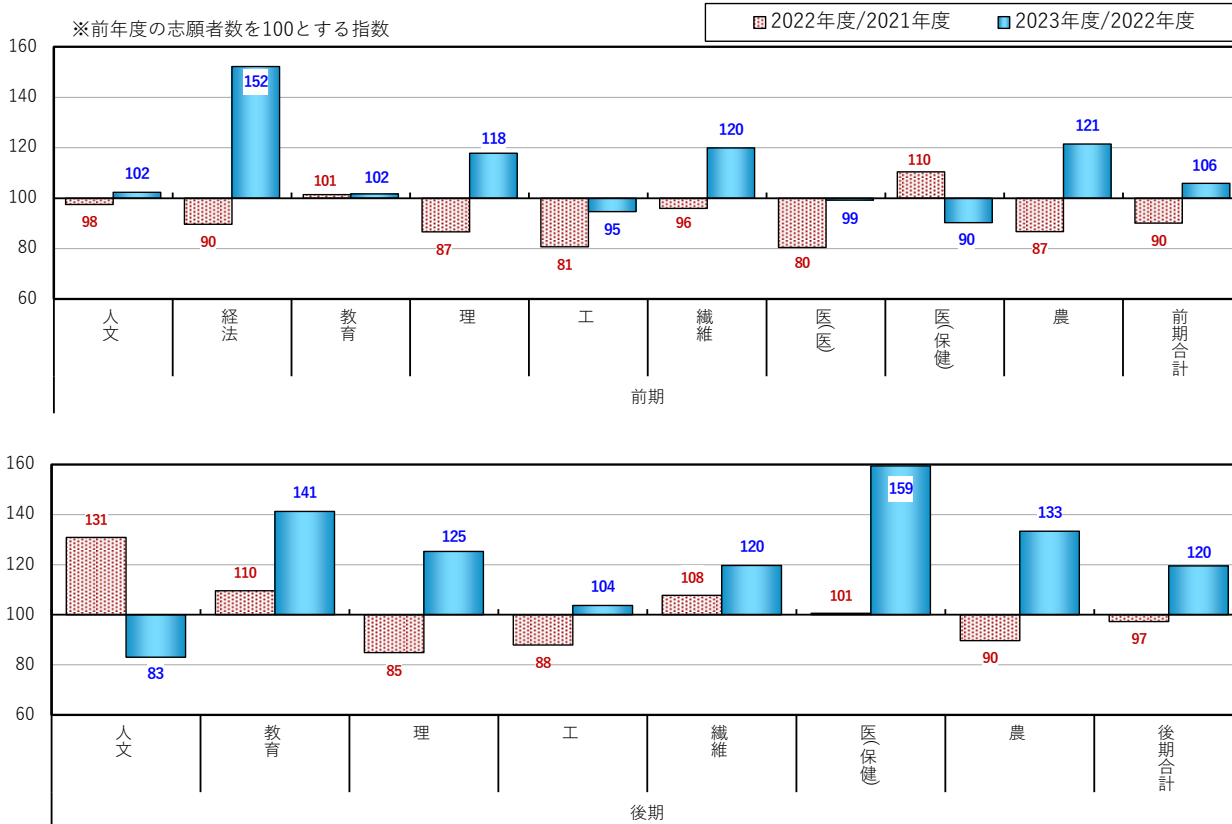


<前期日程>

- 融合(79)は、新設3年目だが大幅減少。さらに、新設の(スマート創成科学)を除くと(56)の40%以上となる大幅減少。学類別では、(先導科学)(49)は半減以下で、2年連続大幅減少、新設2年目の(観光デザイン)(77)も大幅減少。新設の(スマート創成科学)の志願者数は、<文系傾斜>10人、<理系傾斜>26人で、志願倍率はそれぞれ1.7倍と2.2倍で、学域全体の志願倍率1.6倍を上回った。
- 人間社会(84)は、2年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は2.2倍→1.9倍にダウンし、2年ぶりに2倍を下回った。学類別では、増加が2学類、減少が4学類。大幅減少で2年連続減少の(地域創造)(80)を除き、いずれも前年度と逆の増減。(経済)(128)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(人文)(109)は増加。一方で、(国際)(55)、(学校教育)(60)、(法)(73)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理工(87)は、減少。募集単位別では、5つの募集単位のうち、増加は前年度減少の反動による3学類一括入試の(機械工・フロンティア工・電子情報通信)(110)のみ。他の4つの募集単位はいずれも減少で、特に(地球社会基盤)(56)は3年連続増加の反動で大幅減少、(生命理工)(64)も前年度激増の反動で大幅減少。また、(数物科学)(87)、(物質科学)(89)はいずれも2年連続減少。
- 医薬保健(医)(119)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率は2.9倍→3.5倍にアップ、2年ぶりに3倍を上回った。
- 医薬保健(保健)(85)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。募集単位別では、4つの募集単位で大幅増加が2つ、大幅減少が2つと対照的。理学・作業併願入試の(保健/理学療法学、作業療法学)(136)、(看護学)(121)はいずれも大幅増加で2年連続増加。一方で、(診療放射線技術学)(58)は前年度約2.5倍増の反動で大幅減少、(検査技術科学)(66)も2年連続増加の反動で大幅減少。
- 医薬保健(薬)(71)は、学類別募集3年目で、前年度大幅増加の反動により大幅減少。志願者数は学類別募集となった2021年度以降で最少。
- 医薬保健(医薬科学)(91)は、学類別募集3年目。前年度約2.4倍増の反動は小さく、9%の減少。
- 一括入試<文系>(176)は、前期募集となって3年目だが、前年度半減以下の反動で激増。志願倍率は2.3倍→3.9倍にアップ。
- 一括入試<理系>(195)は、前期募集となって3年目だが、前年度大幅減少の反動でほぼ倍増。志願者数は500人を上回り、前期募集となった2021年度以降で最多。志願倍率も3.4倍→6.6倍にアップ。

信州大：前期・後期とも4年ぶりに増加

前期：+182人 後期：+538人



主な入試変更点

募集人員：教育(学校教育教員養成/英語教育)<前>…6人→10人  
 (学校教育教員養成/心理支援教育)<前>…9人→7人  
 医(保健/作業療法学)<前>…13人→12人  
 農(農学生命科学/生命機能科学)<前>…30人→23人  
 (農学生命科学/動物資源生命科学)<前>…25人→23人  
 (農学生命科学/植物資源科学)<前>…30人→23人  
 (農学生命科学/森林・環境共生学)<前>…25人→23人 <後>…24人→36人

## COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 182 人(106)のやや増加で 4 年ぶりに増加。後期は 538 人(120)の大幅増加で 4 年ぶりに増加、志願者数も 4 年ぶりに 3,000 人を上回った。

## &lt;前期日程&gt;

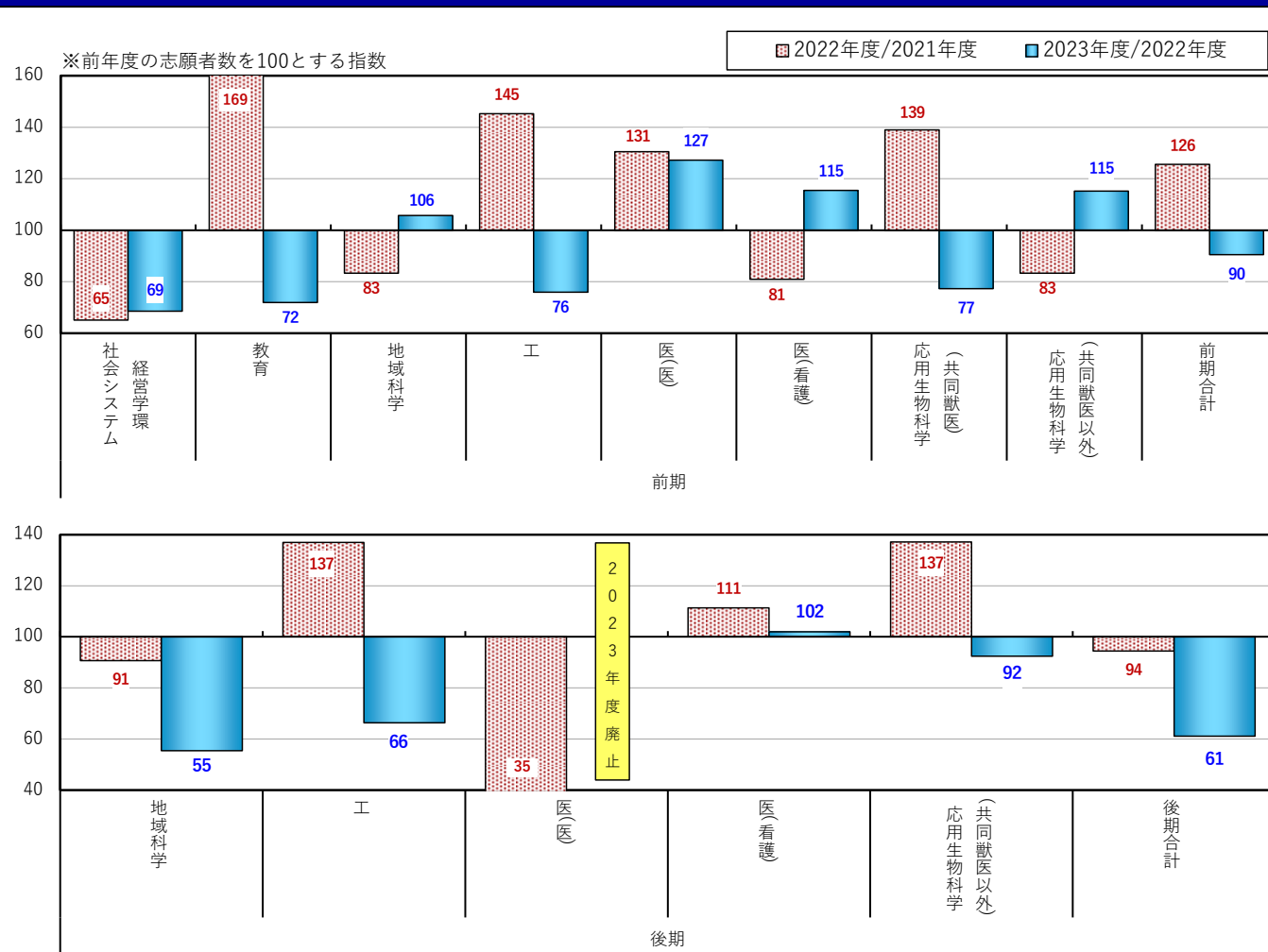
- 人文(102)**は、3 年連続減少の反動はなく微増。
- 経法(152)**は、2 年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(応用経済)(174)は激増で 2 年連続増加。志願者数は 6 年ぶりに 170 人を上回った。(総合法律)(132)は 2 年連続減少の反動で大幅増加。
- 教育(102)**は、2 年連続微増に留まり、志願者数は 3 年連続で 300 人を下回った。コース別では、14 コース中 8 コースが減少。特に、(学校教育教員養成/野外教育)(41)は半減以下、(学校教育教員養成/現代教育)(57)、(学校教育教員養成/理科教育)(66)、(学校教育教員養成/家庭科教育)(71)、(学校教育教員養成/ものづくり・技術教育)(73)、(学校教育教員養成/音楽教育)(82)、(学校教育教員養成/数学教育)(83)はいずれも大幅減少。一方で、(学校教育教員養成/国語教育)(275)、(学校教育教員養成/英語教育)(264)はいずれも 2.5 倍以上の激増、(学校教育教員養成/心理支援教育)(119)、(学校教育教員養成/社会科教育)(118)はいずれも大幅増加。
- 理(118)**は、前年度減少の反動で大幅増加。しかし、学科・コース別では、6 学科・コース中 4 学科・コースが減少と減少が上回った。特に、(理/地球学)(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(理/物理学)(85)は大幅減少で 2 年連続減少。(数)(89)は前年度大幅減少に引き続き減少。一方で、(理/生物学)(246)は 2 年連続激増で志願倍率も 2.5 倍→6.1 倍にアップ。(理/物質循環学)(144)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 工(95)**は、前年度大幅減少に引き続きやや減少。学科別では、5 学科中 3 学科が減少。(機械システム工)(47)は大幅減少で 2018 年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。(建築)(93)、(物質化)(94)はいずれもやや減少で 2 年連続減少。一方で、(水環境・土木工)(204)は前年度半減以下の反動で倍以上。(電子情報システム工)(109)は前年度大幅減少の反動で増加。
- 繊維(120)**は、大幅増加。学科別では、4 学科中 3 学科が増加で前年度と逆の増減。(機械・ロボット)(179)、(先進繊維・感性工)(174)はいずれも前年度大幅減少の反動で激増。(応用生物科学)(158)は 2 年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、唯一減少だった(化学・材料)(62)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 医(医)(99)**は、前年度大幅減少の反動はなく、3 人のみの減少で前年度並。志願倍率も変動なし。
- 医(保健)(90)**は、前年度増加の反動で減少。専攻別では、(保健/理学療法)(70)は大幅減少で 4 年連続減少、(保健/看護学)(78)は 2 年連続増加の反動で大幅減少。一方で、(保健/作業療法学)(118)は 3 年連続大幅減少の反動で大幅増加、(保健/検査技術科学)(114)は 3 年連続増加。
- 農(121)**は、4 年連続減少の反動で大幅増加。志願者数は 2 年ぶりに 200 人を上回った。コース別では、4 コース全てで増加。(農学生命科学/動物資源生命科学)(155)は 5 年連続減少の反動で大幅増加。(農学生命科学/植物資源科学)(123)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(農学生命科学/生命機能科学)(112)は募集人員が 7 人(23%)減少したが増加。

## &lt;後期日程&gt;

- 人文(83)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 教育(141)**は、大幅増加で 2 年連続増加。コース別では、14 コース中増加した 10 コースはすべて大幅増加。特に、(学校教育教員養成/英語教育)(555)は 3 年連続大幅減少の反動で 5.6 倍近い激増、(学校教育教員養成/国語教育)(477)は 4 年連続減少の反動で 4.8 倍近い激増、(学校教育教員養成/特別支援教育)(234)、(学校教育教員養成/数学教育)(210)はいずれも前年度大幅減少の反動で倍以上。一方で、(学校教育教員養成/野外教育)(27)は前年度 3 倍以上の反動で激減し 2021 年度志願者数も下回った。(学校教育教員養成/社会科教育)(55)は 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(125)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科・コース別では、6 学科・コース中 5 学科・コースが増加。(理/物理学)(177)は前年度大幅減少の反動で激増、(理/生物学)(147)、(数学)(134)、(理/地球学)(125)はいずれも大幅増加で 2 年連続増加。一方で、(理/化学)(80)は 2 年連続大幅減少。
- 工(104)**は、やや増加。学科別では、5 学科中 4 学科が増加。特に、(機械システム工)(141)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(水環境・土木工)(113)は 2 年連続減少の反動で増加、(建築)(105)、(電子情報システム工)(105)はいずれもやや増加。一方で、(物質化)(71)は 3 年連続増加の反動で大幅減少。
- 繊維(120)**は、大幅増加で 2 年連続増加。学科別では、(機械・ロボット)(215)は 2 年連続大幅減少の反動で倍以上、(応用生物科学)(152)は大幅増加で 2019 年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。一方で、(先端繊維・感性工)(81)は 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少、(化学・材料)(91)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 医(保健)(159)**は、大幅増加。専攻別では、3 専攻全てが大幅増加。(保健/検査技術科学)(171)は激増で 3 年連続増加、(保健/作業療法学)(167)は激増で 2 年連続増加、(保健/看護学)(141)は大幅増加で 2017 年度以降前年度の反動による増減が継続。
- 農(133)**は、大幅増加だが、募集人員も 50%増加したため、志願倍率は 7.6 倍→6.8 倍にダウン。2016 年度に学部・学科一括募集への変更以降、前年度の反動による増減が継続。

岐阜大：前期は減少、後期は大幅減少

前期：-259人 後期：-1,202人



**主な入試変更点**

選抜方法：医(医)…後期募集停止  
 募集人員：医(医)…＜前＞45人→55人、＜後＞10人→0人  
 第1段階選抜基準変更：医(医)＜前＞…約15倍(通過予定人数：約675人)→約9倍(通過予定人数：約495人)  
 個別試験：教育(学校教育教員養成/美術教育)＜前＞…面+実+(国 or 数 or 外)→面+実 ※教科試験除外  
 応用生物科学(応用生命科学)＜前＞、(生産環境科学)＜前＞…数+理 ※数の選択範囲変更  
 ※数：数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B  
 →※数は下記2つのパターンから1つを選択  
 数イ：数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B  
 数ロ：数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B・数Ⅲ

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度大幅増加の反動は小さく、259人(90)の減少。学部(医、応用生物科学は学科)・学環別では、医(医)(127)、医(看護)(115)、応用生物科学(共同獣医以外)(115)はいずれも大幅増加。一方で、社会システム経営学環(69)、教育(72)、工(76)、応用生物科学(共同獣医)(77)はいずれも大幅減少。後期は医(医)の募集停止の影響もあり1,202人(61)の大幅減少で5年連続減少。医(医)を除くと、前年度大幅増加の反動で(70)の大幅減少。

**<前期日程>**

- 社会システム経営学環(69)は、新設3年目だが、2021年度新設の翌年度から2年連続大幅減少で、志願者数は2021年度の半減以下。
- 教育(72)は、前年度激増の反動で大幅減少。募集単位13募集単位中9募集単位が減少。特に、(学校教育教員養成/特別支援教育)(15)、(学校教育教員養成/美術教育)(36)はいずれも前年度激増の反動で激減。(学校教育教員養成/理科教育)(49)、(学校教育教員養成/学校教育一教職基礎)(57)、(学校教育教員養成/英語教育)(65)、(学校教育教員養成/社会科教育)(73)、(学校教育教員養成/国語教育)(78)はいずれも大幅減少。一方で、(学校教育教員養成/技術教育)(43)は激増、(学校教育教員養成/音楽教育)(140)、(学校教育教員養成/家政教育)(125)、(学校教育教員養成/保健体育)(125)はいずれも大幅増加。各募集単位の募集人員が少ないので、極端な増減が目立った。
- 地域科学(106)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。志願倍率は2年ぶりに3倍を上回った。
- 工(76)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科・コース別では、8学科・コース中6学科・コースが減少。特に、(電気電子・情報工/応用物理)(41)、(機械工/機械)(49)、(社会基盤工)(58)はいずれも前年度激増の反動で大幅減少。(電気電子・情報工/電気電子)(71)は大幅減少で2年連続減少。(電気電子・情報工/情報)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(機械工/知能機械)(155)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。

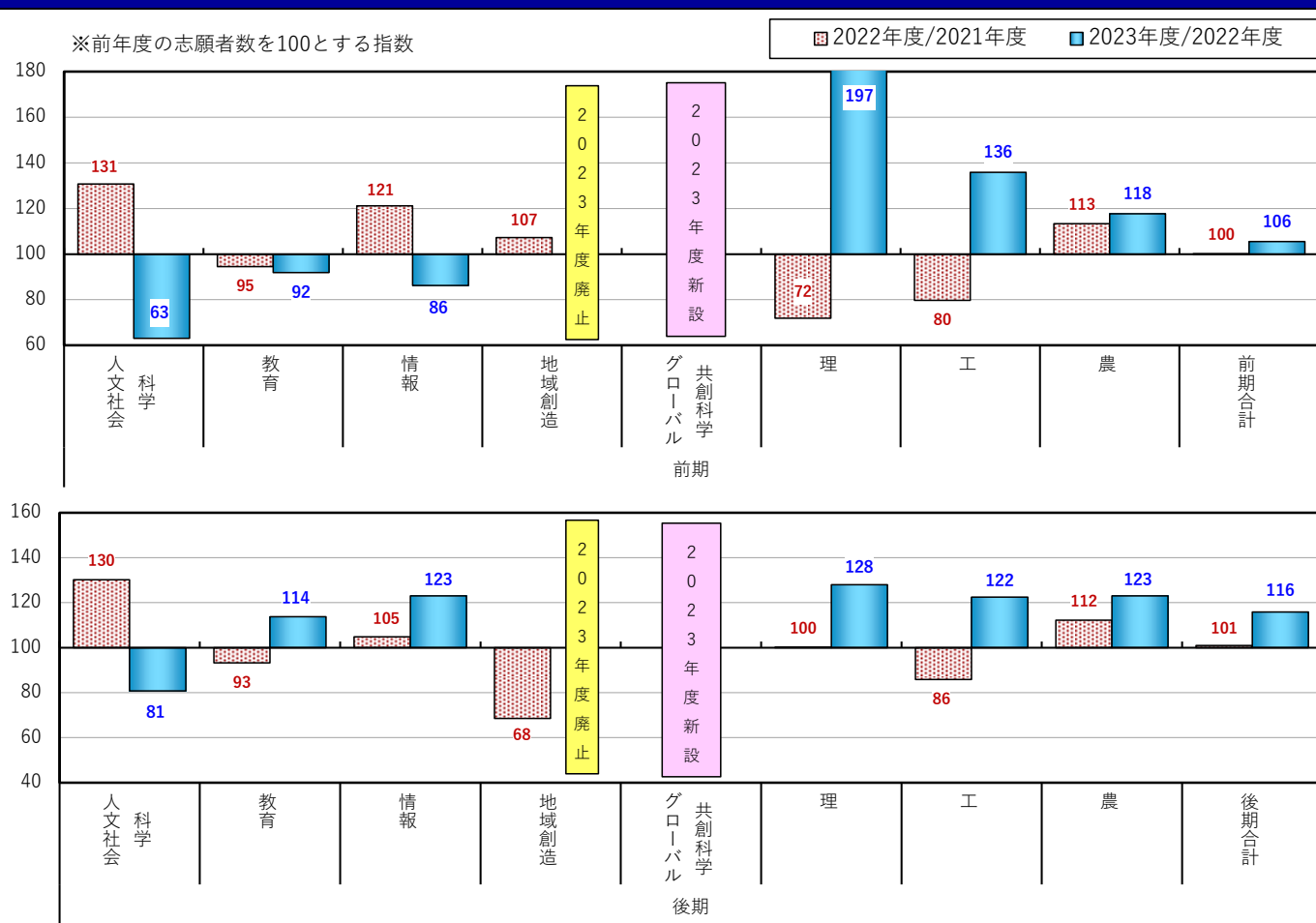
## 2023 年度入試状況分析【国公立大】

- 医(医)(127)**は、2年連続大幅増加。ただし、後期募集停止に伴う前期募集人員の増加があったため志願倍率は10.4倍→10.8倍とほぼ変化なし。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は83.5%だった。
- 医(看護)(115)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 応用生物科学(共同獣医)(77)**は、2年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は5.1倍→3.9倍にダウン。
- 応用生物科学(共同獣医以外)(115)**は、大幅増加で2019年度以降前年度の反動による大幅増減が継続。課程別では、(応用生命科学)(147)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(生産環境科学)(89)は2年連続減少。

### <後期日程>

- 地域科学(55)**は、大幅減少で2年連続減少。志願者数は9年ぶりに200人を下回った。
- 工(66)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科・コース別では、8学科・コース中7学科・コースが減少で前年度とは逆の増減。(電気電子・情報工/電気電子)(43)、(化学・生命工/生命化学)(51)はいずれも前年度激増の反動で大幅減少、(電気・電子情報工/応用物理)(57)、(化学・生命工/物質化学)(66)、(機械工/機械)(69)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。(社会基盤工)(59)は2年連続大幅増加の反動で減少。一方で、(機械工/知能機械)(117)は2年連続減少の反動で大幅増加。
- 医(看護)(102)**は、微増だが4年連続大幅増加。志願倍率は2年連続で10倍を上回った。
- 応用生物科学(共同獣医以外)(92)**は、2年連続大幅増加の反動で減少。課程別では、(生産環境科学)(79)は3年連続増加の反動で大幅減少。一方で、(応用生命科学)(103)は前年度大幅増加に引き続きやや増加で3年連続増加。

## 静岡大：前期はやや増加、後期は大幅増加、理学部への人気上昇 前期：+150人 後期：+565人



**主な入試変更点** 学部新設：グローバル共創科学…<前>47人、<後>20人  
 募集停止：地域創造…<前>25人→0人、<後>5人→0人  
 個別試験：工(化学バイオ工)<前>数+理+外 ※理：物 or 化 or 生→数+理+外 ※理：物 or 化 ※理科の選択から生除外

### COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は150人(106)のやや増加で、前年度微増に引き続き2年連続増加。新設のグローバル共創科学と募集停止の地域創造を除く既存学部と比較でも(105)のやや増加。既存6学部では増減が3学部ずつに分かれ、理(197)、工(136)、農(118)は大幅増加で、「理高文低」の動向が顕著。後期は共通テストの平均点アップによる強気な出願もあって565人(116)の大幅増加で、前年度微増に引き続き増加。既存学部での比較でも(113)の増加。既存6学部では文(81)を除く5学部が増加。理(128)、農(123)、工(122)はいずれも大幅増加。情報(123)も大幅増加で2年連続増加。

### <前期日程>

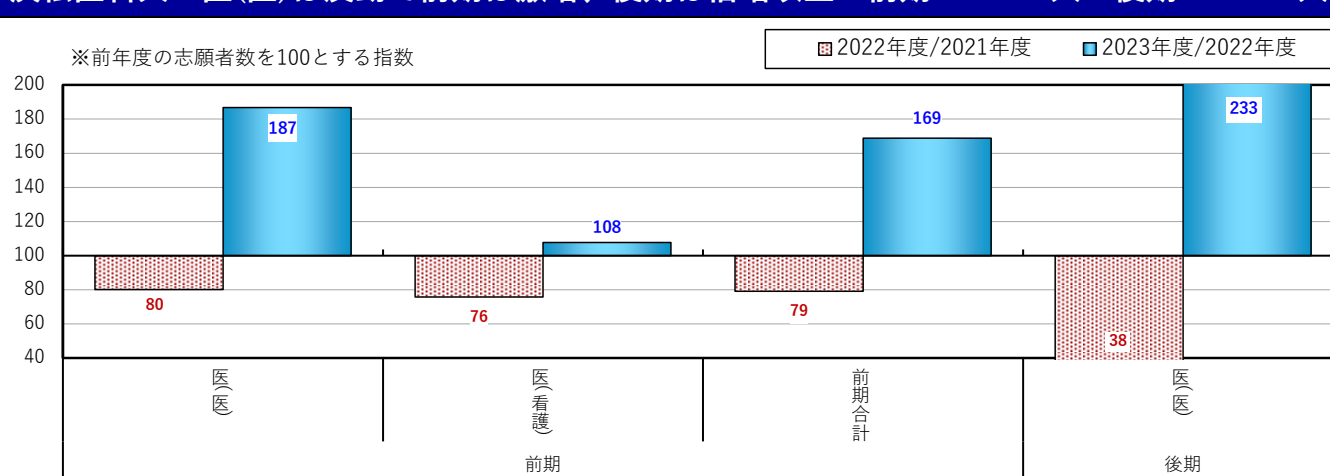
- 人文社会科学(63)**は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、4学科中で増加は前年度大幅減少の反動による(経済)(125)の大幅増加のみ。他の3学科はいずれも減少。特に、(法)(22)は前年度3.4倍増の反動で80%近い激減、志願者数

- 79人、志願倍率1.5倍は過去20年間でも最少・最低。(社会)(78)は2年連続増加の反動で大幅減少、(言語文化)(87)は減少。
- 教育(92)**は、系統への低い人気から3年連続減少。ただし、募集人員の16%減少により志願倍率は2.1倍→2.3倍にアップ。専攻・専修別では、16募集単位中で増加が9募集単位、前年度と同数が2募集単位、減少が5募集単位。減少の5募集単位はいずれも募集人員が10人以上の比較的大きい募集単位で、いずれも大幅減少だったことが学部全体の減少の要因。
  - 情報(86)**は、前年度大幅増加の反動で減少。学科・選抜区分別では、前年度の全て増加から一転して全て減少。特に、(行動情報)<選抜区分B>(63)は3年連続減少で、志願者数22人は2016年度に学科新設以降では最少。志願倍率も2.3倍→1.5倍にダウン。(行動情報)<選抜区分A>(65)は前年度大幅増加の反動により大幅減少。この2つの募集単位は個別試験が共通の総合問題だが、そこに含まれる数学B「確率分布と統計的な推測」の分野が共通テスト文系型受験者の<選抜区分B>への敬遠の要因となっている。(情報社会)(87)は前年度大幅増加の反動で減少。
  - 新設の**グローバル共創科学**は、募集人員47人、志願者数130人。志願倍率は2.7倍で、前期全体の2.7倍と同じ。
  - 理(197)**は、前年度大幅減少の反動でほぼ倍増、志願倍率は1.9倍→3.8倍にアップ。学科・コース別では、6募集単位が全て増加。(生物科学)(408)は3年連続大幅減少の反動で4倍以上、志願倍率は1.2倍→4.9倍に大幅アップ。(創造理学)(208)は前年度大幅減少の反動で倍増以上、志願者数は2021年度にコース新設以降では最多。(化学)(189)、(物理)(174)は激増、(数学)(158)、(地球科学)(151)は大幅増加。
  - 工(136)**は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、5学科全てが増加。(電気電子工)(161)は前年度半減以下の反動で激増。(機械工)(154)は3年連続減少の反動で大幅増加、(数理システム工)(138)も前年度減少の反動で大幅増加。(電子物質科学)(110)は2年連続減少の反動で増加。(化学バイオ工)(103)はやや増加で2年連続増加。
  - 農(118)**は、系統への高い人気から大幅増加で3年連続増加。2016年度の学科改組以降では志願者数が最多。学科別では、(生物資源科学)(140)は2年連続大幅増加、学科改組以降では志願者数では最多。一方で、(応用生命科学)(93)は2年連続増加の反動でやや減少。

<後期日程>

- 人文社会科学(81)**は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、4学科中3学科が減少、増加は前年度大幅減少の反動による(経済)(188)の激増のみ。(法)(38)は前年度約2.5倍増の反動で激減、(言語文化)(71)、(社会)(78)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 教育(114)**は、2年連続減少の反動で増加。募集人員の17%減少も加わり、志願倍率は8.8倍→12.1倍にアップ。専攻・専修別では、募集を行う10募集単位中で増加が6募集単位、前年度と同数が2募集単位、減少が2募集単位。
- 情報(123)**は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(行動情報)(175)は前年度大幅減少の反動で激増、(情報社会)(149)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(情報科学)(86)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 新設の**グローバル共創科学**は、募集人員20人、志願者数174人。志願倍率は8.7倍で、後期全体の志願倍率8.4倍を上回った。
- 理(128)**は、大幅増加。学科・コース別では、6募集単位中5募集単位が大幅増加だが、特に(生物科学)(180)、(化学)(161)は激増。一方で、(創造理学)(44)は半減以下で、2020年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 工(122)**は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、5学科全てが増加。特に(電気電子工)(157)は2年連続減少の反動で大幅増加、(化学バイオ工)(121)は3年連続減少の反動で大幅増加、(機械工)(119)は大幅増加で2年連続増加。
- 農(123)**は、系統への高い人気から大幅増加で3年連続増加。志願倍率は7.7倍→9.5倍にアップ、募集人員が45人になった2016年度以降では最高。学科別では、(応用生命科学)(137)は大幅増加、(生物資源科学)(114)は3年連続増加。

浜松医科大：医(医)は反動で前期は激増、後期は倍増以上 前期：+236人 後期：+179人



COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

医(医)は、学科合計では、前期は230人(187)で2年連続大幅減少の反動で90%近い激増。後期は前年度激減の反動で179人(233)の倍増以上。前期のみ募集の医(看護)(108)は前年度大幅減少の反動は小さく8%の増加。志願者数は2年連続で100人を下回った。

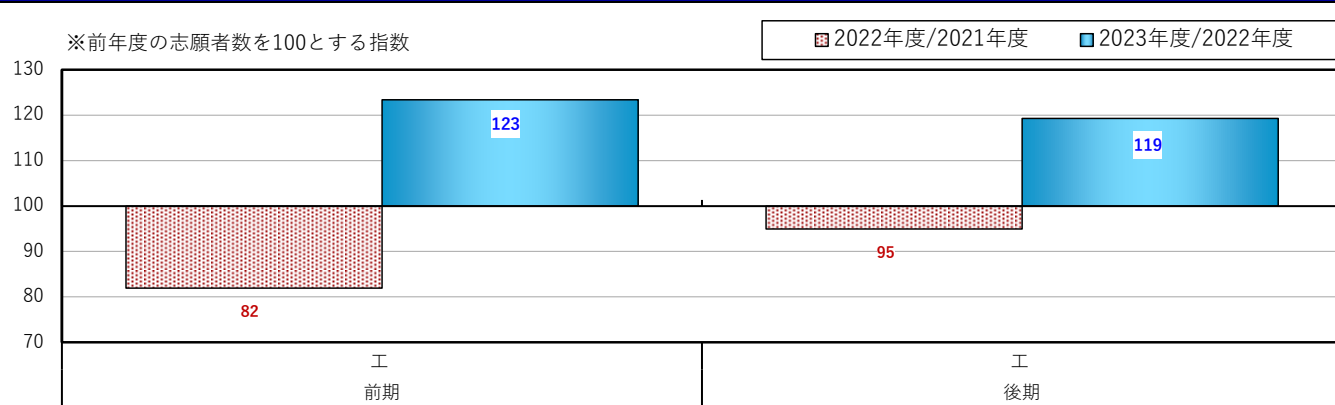
<前期日程>

○**医(医)(187)**は、2年連続減少の反動で激増。募集枠別では、<一般枠>(189)は、3年連続減少の反動で激増。志願者数は2020年度に<地域枠>を設ける以前も含めて6年ぶりに400人を上回り、志願倍率も3.6倍→6.7倍にアップ。<地域枠>(161)は募集人員が7人になって2年目だが2年連続大幅減少の反動で大幅増加。なお、2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は60.6%だった。

<後期日程>

○**医(医)(233)**は、個別試験に教科試験がなく、共通テストの成績で合格が決まるので、平均点アップの影響も加わり2.3倍増。募集枠別では、<一般枠>(239)は前年度激減の反動で約2.4倍、志願倍率も9.1倍→21.6倍に大幅アップ。<地域枠>(138)は募集人員が1人に対して志願者数は11人で3人の大幅増加。なお、2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は63.7%だった。

**名古屋工業大：理高文低の動向の中、前後期とも大幅増加 前期：+327人 後期：+401人**



**主な入試変更点** 募集人員：工(高度工学教育/物理工)<前>…55人→60人

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、「理高文低」という志望動向と前期は前年度大幅減少の反動もあって327人(123)の大幅増加。後期も401人(119)の大幅増加で2年ぶりに増加。

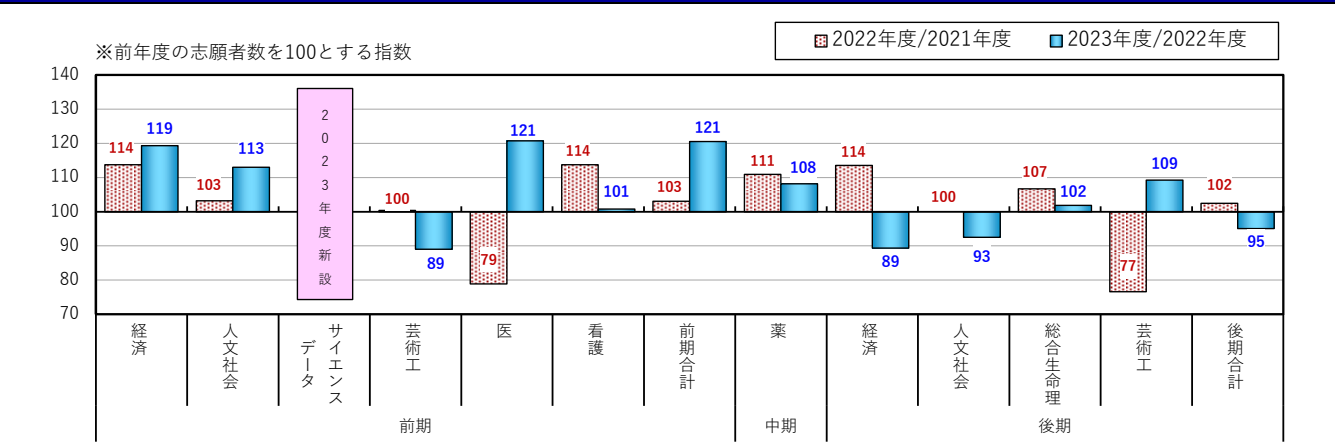
<前期日程>

○**工(123)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。募集単位別では、9募集単位中7募集単位が増加で、前年度とは逆の増減。特に、(高度工学教育/物理工)(155)は前年度大幅増加に引き続き50%以上の大幅増加。募集人員の9%増加を大きく上回り、志願倍率は3.3倍→4.6倍にアップし、2016年度の学科改組後では最も高倍率となった。(高度工学教育/社会工-建築・デザイン)(152)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(高度工学教育/社会工-環境都市)(138)は前年度半減以下の反動で大幅増加、(高度工学教育/情報工)(131)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(創造工学教育/材料・エネルギー)(70)は2年連続大幅減少で志願者数は3年ぶりに50人を下回った。

<後期日程>

○**工(119)**は、大幅増加。募集単位別では、9募集単位中7募集単位が増加。特に、(創造工学教育/情報・社会)(260)は前年度激減の反動で2.5倍以上の激増、(高度工学教育/物理工)(190)は前年度大幅減少の反動で激増、(高度工学教育/社会工-環境都市)(155)は前年度大幅減少の反動で50%以上の大幅増加。(高度工学教育/情報工)(126)、(創造工学教育/材料・エネルギー)(125)もいずれも大幅増加。一方で、(高度工学教育/社会工-経営システム)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

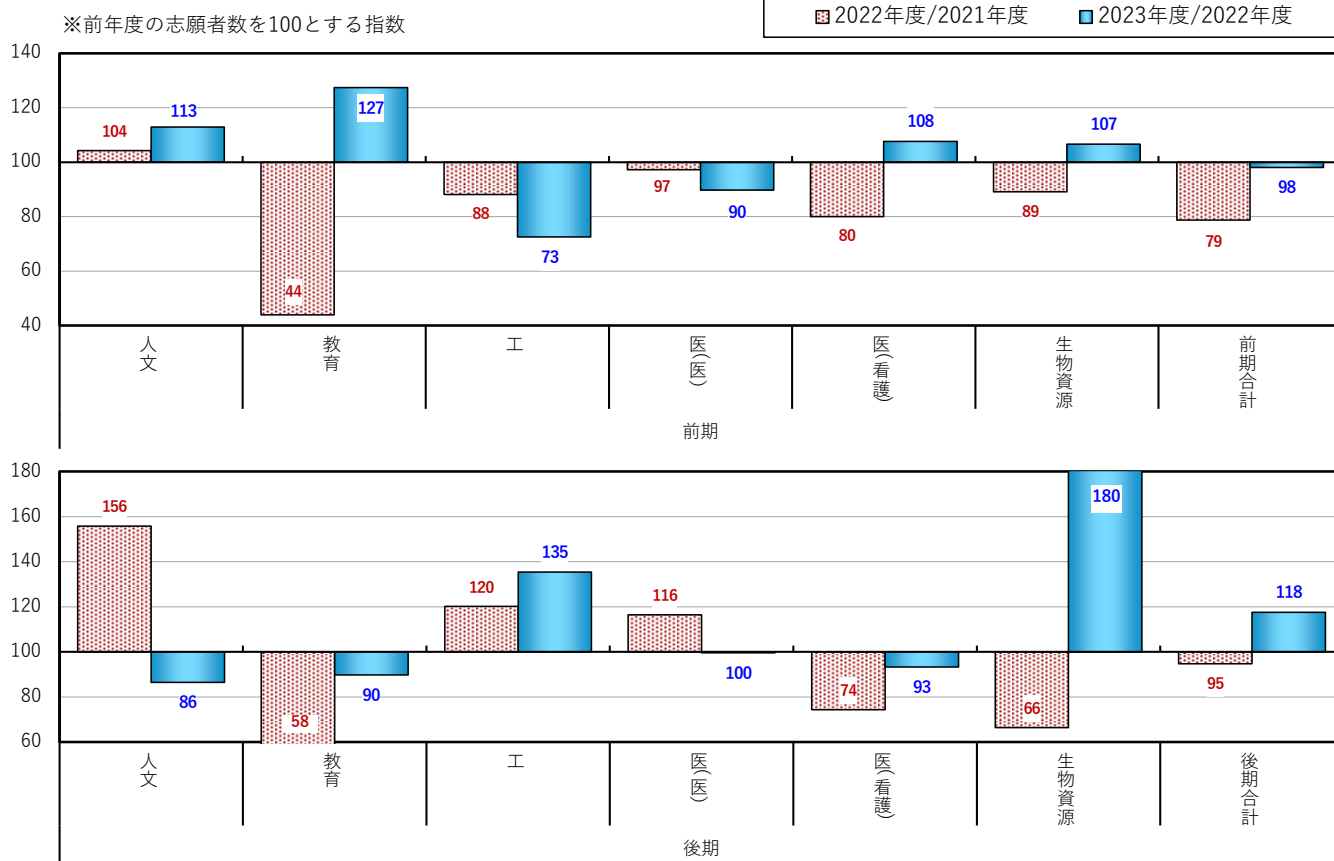
**名古屋市立大：前期は志願者数大幅増加も志願倍率は前年度並 前期：+279人 中期：+96人 後期：-73人**



<b>主な入試変更点</b>	学部新設…データサイエンス 募集人員：<前>50 人 第 1 段階選抜基準変更：医(医)<前> …「総配点 550 点中の概ね 73%以上の者」を 2022 年 1 月 19 日に「総配点 550 点中 390 点以上(概ね 71%以上)に変更 総配点 550 点中の概ね 71%以上の者を対象に募集人員の約 3 倍」を 2023 年 1 月 18 日に「総配点 550 点中 400 点 以上(概ね 73%以上)の者を対象に約 3 倍」に変更 募集人員：経済<前>…120 人→140 人 看護(看護)<前>…45 人→60 人
<b>COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数</b>	
大学全体では、前期はデータサイエンスの新設もあって 279 人(121)の大幅増加。ただし、募集人員増加で、志願倍率は 3.3 倍の前年度並。また、既存学部合計でも 145 人(111)の増加で 3 年連続増加だが、こちらも経済と看護の募集人員増加で、志願倍率は 3.3 倍で前年度並。後期は 73 人(95)のやや減少で 3 年ぶりに減少だが、志願者数は 3 年連続で 1,400 人台。中期は薬のみの募集だが、系統への高い人気から 96 人(108)の増加で 2 年連続増加、学科別では、4 年制の(生命薬科学)(119)は前年度増加に引き続き大幅増加、6 年制の(薬)(102)も微増だが 2 年連続増加。	
<b>&lt;前期日程&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○<b>経済(119)</b>は、大幅増加で 2 年連続増加だが、募集人員も 20 人増加(募集人員の前年度対比指数 117)のため、志願倍率は 3.9 倍→4.0 倍とわずかのアップに留まった。</li> <li>○<b>人文社会(113)</b>は、増加で 3 年連続増加。学科別では、(現代社会)(155)は前年度減少の反動で 50%以上の大幅増加、志願者数は 8 年ぶりに 170 人を上回った。一方で、(国際文化)(91)は 2 年連続増加の反動で減少、(心理教育)(95)も前年度増加の反動で減少。</li> <li>○新設の<b>データサイエンス</b>は、募集人員 50 人、志願者数 134 人で、志願倍率は 2.7 倍で、経済の 4.0 倍をかなり下回った。</li> <li>○<b>芸術工(89)</b>は、3 年ぶりに減少だが志願者数は 200 人台を維持。学科別では、(情報環境デザイン)(118)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、特に&lt;小論文&gt;(121)の大幅増加が目立った。一方で、(建築都市デザイン)(77)は 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少、(産業イノベーション)(91)は減少で 3 年ぶりに減少だが、志願者数は 40 人台を維持。</li> <li>○<b>医(医)(121)</b>は、第 1 段階選抜基準について、過去 2 年間共通テスト終了後の水曜日に基準変更を発表したので、自己採点集計には反映されないで、次年度以降も注意が必要。前年度大幅減少の反動と共通テストの平均点のアップにより、大幅増加で、2019 年度に 2 段階選抜導入後では 2 番目の志願者数。</li> <li>○<b>看護(101)</b>は、微増だが 2 年連続増加。募集人員の 15 人増加(募集人員の前年度対比指数 133)で、志願倍率は 2.8 倍→2.1 倍にダウンで競争緩和。</li> </ul>	
<b>&lt;後期日程&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○<b>経済(89)</b>は、2 年連続増加の反動で減少。方式別でも、&lt;E コース&gt;(89)は前年度大幅増加の反動、&lt;M コース&gt;(90)は 2 年連続増加の反動でいずれも減少。</li> <li>○<b>人文社会(93)</b>は、やや減少で志願者数は 3 年ぶりに 300 人を下回った。学科別では、(現代社会)(158)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、志願者数は募集人員が 8 人となった 2020 年度以降で最多。一方で、(心理教育)(68)は 2 年連続大幅増加の反動、(国際文化)(78)も 2 年連続増加の反動でいずれも大幅減少、志願者数はいずれも 3 年ぶりに 100 人を下回った。</li> <li>○後期のみの募集の<b>総合生命理(102)</b>は、微増だが 2 年連続増加。</li> <li>○<b>芸術工(109)</b>は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(情報環境デザイン)(137)は 3 年連続大幅減少の反動で大幅増加だが、志願者数は 2021 年度には及ばない。(建築都市デザイン)(106)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。ただし、&lt;実技&gt;(130)は大幅増加。(産業イノベーション)(98)は 1 人減少だけで前年度並。</li> </ul>	

三重大：前期は微減だが2年連続減少、後期は大幅増加

前期：-46人 後期：+416人



**主な入試変更点** 選抜方法：後期日程廃止…教育(学校教育教員養成/数学教育-初等教育)、(学校教育教員養成/数学教育-中等教育) 第1段階選抜基準変更：医(医)<後>…10倍(通過予定人数：100人)→約15倍(通過予定人数：約150人) 個別試験：人文<後>…論+ペーパーインタビュー→論

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度の大幅減少に引続き、46人(98)の微減で2年連続減少。後期は大幅増加で志願倍率は6年ぶりに10倍を上回った。

<前期日程>

- 人文(113)**は、前年度やや増加に引き続き増加。学科別では、系統への人気の高低もあって、(法律経済)(142)は4年連続減少の反動で大幅増加、志願者数は350人を上回った。一方で、(文化)(76)は前年度45%の大幅増加の反動で大幅減少。
- 教育(127)**は、前年度56%の大幅減少の反動で大幅増加。課程・コース・選修・専攻別(以下「募集単位別」)では、24募集単位中17募集単位が増加。また、募集人員が少ない募集単位が多いことから増減が極端になりやすく、22募集単位で20%以上の増減があった。(学校教育教員養成/学校教育-教育学)(400)は、前年度91%の激減の反動で4倍増。志願倍率は2.1倍→8.6倍に大幅アップ。(学校教育教員養成/特別支援教育)(229)、(学校教育教員養成/美術教育-初等)(225)、(学校教育教員養成/美術教育-中等)(217)、(学校教育教員養成/国語教育-初等)(172)、(学校教育教員養成/技術・ものづくり教育-初等)(171)、(学校教育教員養成/社会科教育-中等)(171)はいずれも激増。一方で、(学校教育教員養成/理科教育-初等)(30)、(学校教育教員養成/家政教育-中等)(33)は激減。
- 工(73)**は、大幅減少で2年連続減少。学科・コース別では、(総合工/電気電子工学)(128)は2年連続大幅増加。その他の募集単位はいずれも大幅減少で、特に(総合工/情報工学)(52)、(総合工/建築学)(55)はほぼ半減。
- 医(医)(90)**は、2年連続減少。志願倍率も5.2倍→4.7倍にダウン。
- 医(看護)(108)**は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 生物資源(107)**は、やや増加だが、志願者数は2年連続400人を下回った。学科別では、(共生環境)(136)は大幅増加で3年連続増加、(生物圏生命化)(122)は前年度減少の反動で大幅増加。一方で、(資源循環)(71)、(海洋生物資源)(78)はいずれも2年連続大幅減少。

<後期日程>

- 人文(86)**は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、系統への人気の高低もあって、(法律経済)(121)は3年連続大幅増加。一方で、(文化)(57)は前年度倍以上の反動で大幅減少、2021年度以降は前年度の反動による大幅増減が継続。
- 教育(90)**は、前年度は大幅減少だったが、(学校教育教員養成/数学教育-初等教育)、(学校教育教員養成/数学教育-中等教育)の募集停止もありさらに減少。しかし、募集停止の2募集単位を除くと前年度大幅減少の反動で(118)の大幅増加。募集単位別では、後期募集を行う8募集単位中6募集単位が増加。また、募集人員が少ない募集単位ばかりなので増減が極端になりやすく、7募集単位で20%以上の増減があった。(学校教育教員養成/国語教育-初等)(263)は2.6倍以上の激増、(学



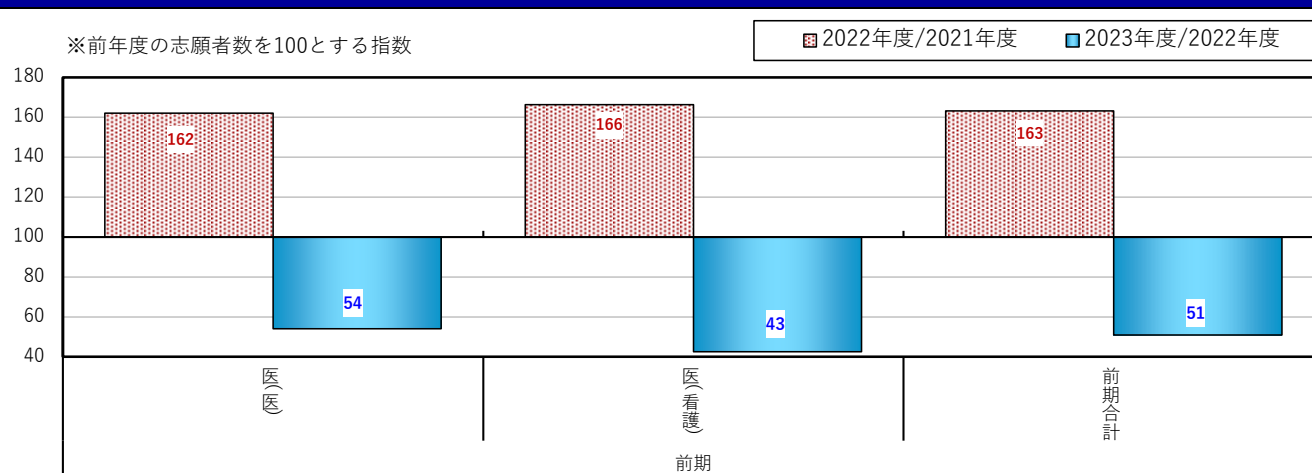
## 2023年度入試状況分析【国公立大】

校教育教員養成／保健体育教育－中等(178)、(学校教育教員養成／国語教育－中等)(170)はいずれも激増。一方で、(学校教育教員養成／保健体育教育－初等)(62)、(学校教育教員養成／社会科教育－初等)(66)はいずれも大幅減少。

- 工(135)**は、2年連続大幅増加で志願者数は2019年度の改組後では最多で、1,100人を上回った。学科・コース別では、(総合工／電気電子工学)(396)、(総合工／建築学)(213)はいずれも前年度大幅減少の反動による激増。一方で、(総合工／情報工学)(51)は前年度大幅増加の反動でほぼ半減、(総合工／機械工学)(71)は前年度2.5倍以上の激増の反動で大幅減少。
- 医(医)(100)**は、第1段階選抜の基準が緩和されたこともあって、2年連続大幅増加の反動はなく前年度並。
- 医(看護)(93)**は、やや減少で2年連続減少。
- 生物資源(180)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、4学科全てで大幅増加。特に、(共生環境)(226)は2年連続大幅減少の反動で2.2倍以上の激増。

### 滋賀医科大：医(医)、医(看護)ともに反動で大幅減少

前期：-271人



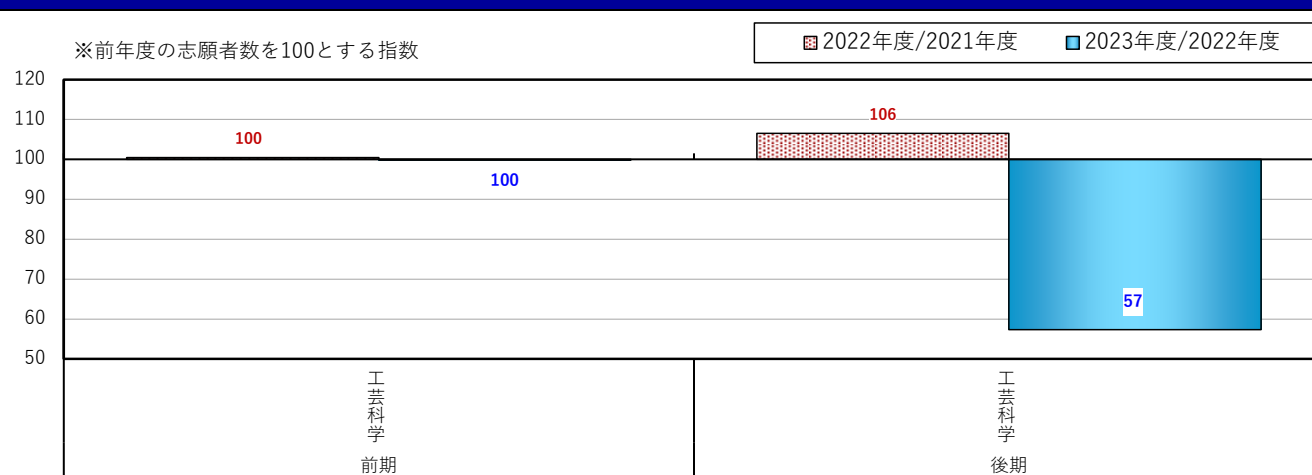
#### COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体で前期のみの募集。医(医)は、2年連続増加の反動で186人(54)の大幅減少でほぼ半減。志願倍率は6.8倍→3.7倍にダウン。医(看護)は、前年度激増の反動で85人(43)の大幅減少で半減以下。志願倍率は3.3倍→1.4倍にダウン。

#### <前期日程>

- 医(医)(54)**は、2年連続増加の反動で大幅減少。募集枠別では、<地域医療枠>(34)は前年度倍増以上の反動で志願者数はほぼ3分の1。志願倍率は22.0倍→7.4倍に大幅ダウン。2020年度の方式新設以来最少となった。<一般枠>(62)は2年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は5.4倍→3.3倍にダウン。

### 京都工芸繊維大：前期は前年度並、後期は募集人員減少により倍率はアップ 前期：-2人 後期：-685人



#### 主な入試変更点

選抜方法：工芸科学(デザイン科学／デザイン・建築学)…後期日程廃止  
 募集人員変更：工芸科学(応用生物／応用生物学)…<前>30人→22人、<後>14人→10人  
 (物質・材料科学／応用化学)…<前>105人→95人、<後>42人→24人  
 (設計工／電子システム工学)…<後>20人→10人  
 (設計工／情報工学)…<前>34人→30人、<後>18人→15人  
 (設計工／機械工学)…<前>50人→48人、<後>27人→15人  
 (デザイン科学／デザイン・建築学)…<後>91人→105人  
 共通テスト：工芸科学(応用生物／応用生物学)…<前><国<100>+歴公<100>+数2<100>+理2<100>+外<100>=総点<500>

2023 年度入試状況分析【国公立大】

	<p>→国&lt;75&gt;+歴公&lt;25&gt;+数2&lt;100&gt;+理2&lt;100&gt;+外&lt;100&gt;=総点&lt;400&gt;                  (設計工/電子システム工学)…&lt;後&gt;国&lt;100&gt;+歴公&lt;50&gt;+数2&lt;100&gt;+理2&lt;100&gt;+外&lt;200&gt;=総点&lt;550&gt;                  →国&lt;100&gt;+歴公&lt;50&gt;+数2&lt;100&gt;+理2&lt;250&gt;+外&lt;200&gt;=総点&lt;700&gt;                  個別試験：工芸科学(応用生物/応用生物学)&lt;前&gt;…数&lt;200&gt;+理2&lt;300&gt;+外&lt;300&gt;=総点&lt;800&gt;                  →数&lt;200&gt;+理2&lt;400&gt;+外&lt;200&gt;=総点&lt;800&gt;                  (応用生物/応用生物学)&lt;後&gt;…廃止                  (物質・材料科学/応用化学)、(設計工/電子システム工学)、(設計工/電子システム工学)、                  (設計工/情報工学)、(設計工/機械工学)&lt;後&gt;…数+理→数 ※理除外</p>
--	--

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は2人(100)の微減で、3年連続で志願者数は1,150人前後が継続。後期は工芸科学(デザイン科学/デザイン・建築学)の募集停止と、募集人員の53%減少により、685人(57)の大幅減少。ただし、志願倍率は募集人員の減少のため10.1倍→12.4倍にアップ。

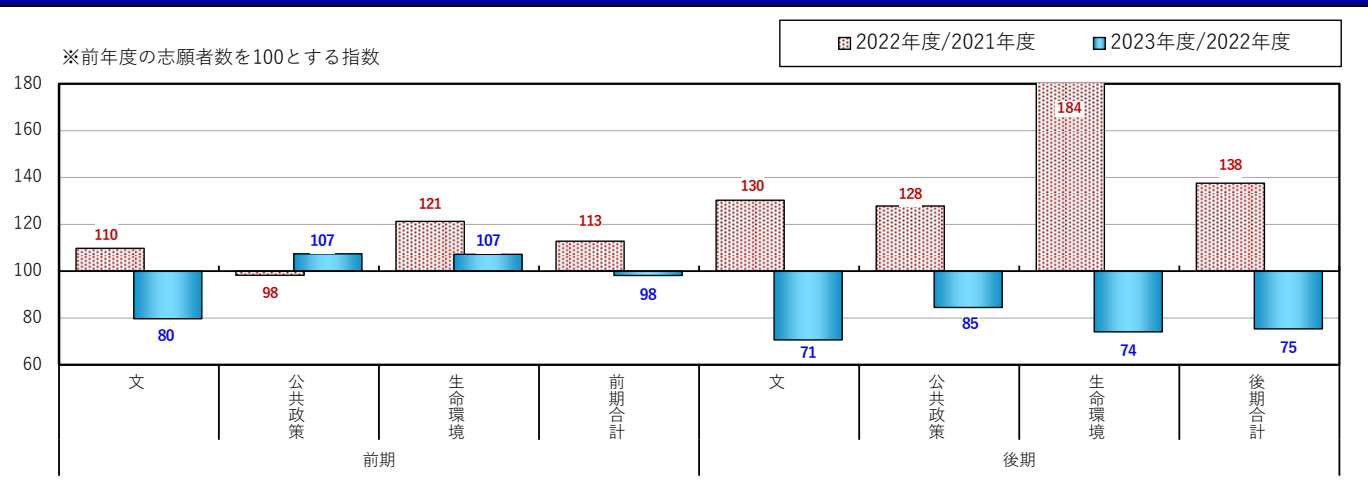
**<前期日程>**

○**工芸科学(100)**は、微減。課程別では、6課程中で増加が3課程、減少が3課程と均等に分かれた。増加の3課程のうち、(設計工/電子システム工学)(127)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(デザイン科学/デザイン・建築学)(117)は大幅増加で、募集人員増加率15%を上回る増加率だったので、志願倍率も3.2倍→3.3倍にアップ。一方で、減少の3課程は、(設計工/情報工学)(75)は大幅減少で、募集人員減少率12%を上回る減少率だったので、志願倍率も4.7倍→4.0倍にダウン、(物質・材料科学/応用化学)(86)は減少で、募集人員減少率10%を上回る減少率だったので、志願倍率も2.9倍→2.8倍にダウン。(応用生物/応用生物学)(99)は微減に留まり、募集人員減少率27%を下回る減少率だったので、逆に志願倍率は3.5倍→4.7倍にアップ、6課程中最も高倍率だった。

**<後期日程>**

○**工芸科学(57)**は、(デザイン科学/デザイン・建築学)の募集停止と他の課程の募集人員削減により大幅減少。しかし、学部全体では募集人員減少率53%を下回る減少率だったので、逆に志願倍率は10.1倍→12.4倍にアップ。募集を行う5課程は全て募集人員が減少し、(設計工/情報工学)(103)を除いて志願者数も減少。課程別では、募集を行う5課程すべてで募集人員が減少となるので、志願者指数ではなく志願倍率で変化を見ると、志願倍率がアップしたのは3課程、ダウンしたのは2課程だった。最も高倍率は、(設計工/機械工)の18.4倍で前年度比6.8ポイントアップだった。一方で、最も低倍率は、(応用生物/応用生物学)の4.1倍で前年度比3.8ポイントダウンだった。

**京都府立大：前期は微減、後期は大幅減少** 前期：-18人 後期：-204人



<b>主な入試変更点</b>	<p>共通テスト：文(欧米言語文化)&lt;後&gt;…国+歴公+外 ※歴公：世 Bor 日 Bor 地理 Bor 倫政                  →国+歴公+外 ※歴公：世 Bor 日 Bor 地理 Bor 現 or 倫 or 政 or 倫政</p> <p>※歴公の選択に公民2単位科目追加</p> <p>個別試験：全学部・全学科(生命環境(生命分子化学)&lt;前&gt;&lt;後&gt;を除く)…調査書の点数化廃止                  生命環境(生命分子化学)&lt;前&gt;…数&lt;200&gt;+理2&lt;400&gt;+外&lt;200&gt;+調&lt;100&gt;=総点&lt;900&gt;                  →数&lt;200&gt;+理2&lt;400&gt;+外&lt;200&gt;+調&lt;20&gt;=総点&lt;820&gt;                  ※調査書の配点変更                  &lt;後&gt;…調&lt;100&gt;→調&lt;20&gt; ※調査書の点数化における配点の縮小</p>
----------------	--

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度増加の反動は小さく18人(98)の微減、後期は前年度大幅増加の反動で204人(75)の大幅減少。調査書の点数化の廃止または配点の縮小を行ったが、志願者数増加には繋がらなかった。

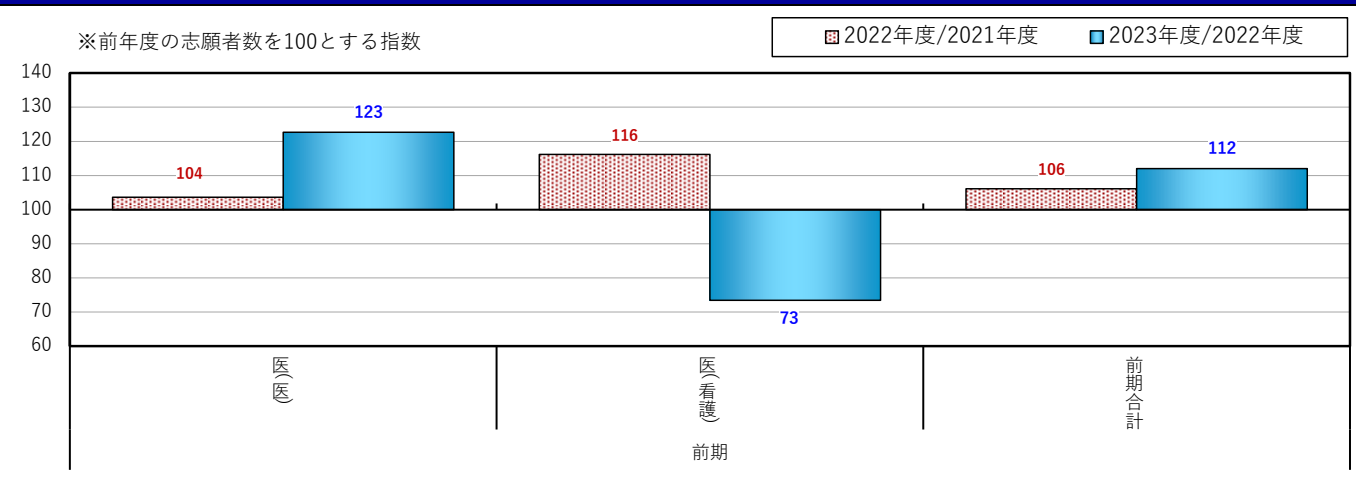
<前期日程>

- 文(80)**は、前年度増加の反動で大幅減少、志願者数は 250 人で、4 学科設置となった 2019 年度以降では最少。学科別では、4 学科全てが減少。(和食文化)(77)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(日本・中国文)(78)は前年度増加の反動により大幅減少で志願倍率 3.2 倍は、4 学科設置となった 2019 年度以降では最低。(歴史)(79)も大幅減少で志願倍率 3.7 倍は 4 学科設置となった 2019 年度以降では最低。(欧米言語文化)(86)は減少で志願倍率 3.5 倍は 4 学科設置となった 2019 年度以降では最低。
- 公共政策(107)**は、やや増加で 3 年ぶりに増加。学科別では、(福祉社会)(126)は 2 年連続大幅増加。一方で、(公共政策)(92)は前年度大幅減少に引き続き減少、志願倍率は 3 倍を下回った。
- 生命環境(107)**は、系統への高い人気もあって、やや増加で 3 年連続増加。学科別では、6 学科中 4 学科が増加。(環境・情報科学)(156)は、前年度大幅減少の反動で 50%以上の大幅増加、志願倍率も 3.6 倍→5.6 倍にアップ。(環境デザイン)(124)は 3 年連続大幅増加、志願倍率も 4.2 倍→5.2 倍にアップ。(農学生命科学)(115)は、前年度減少の反動で大幅増加。一方で、(生命分子化)(69)は、前年度約 2.5 倍増の反動で大幅減少、(食保健)(77)も前年度大幅増加の反動で大幅減少。

<後期日程>

- 文(71)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願者数は 298 人で、4 学科設置となった 2019 年度以降では最少。学科別では、4 学科全てが大幅減少。(日本・中国文)(65)は 3 年連続大幅減少、志願倍率も 16.5 倍→10.8 倍にダウン。(欧米言語文化)(71)は 2 年連続増加の反動で大幅減少、志願者数は 100 人を下回った。(和食文化)(72)は前年度 8 倍増の反動で大幅減少だが 2019 年度の新設以降では 2 番目に多い志願者数、(歴史)(72)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 公共政策(85)**は、2021 年度から募集人員が 14 人になったが、2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(公共政策)(73)は 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(福祉社会)(111)は 2 年連続大幅増加に引き続き増加。
- 生命環境(74)**は、3 学科での募集となって 3 年目だが、前年度激増の反動で大幅減少。学科別では、(農学生命科学)(43)は前年度 2.6 倍増以上の反動で半減以下。一方で、(生命分子化学)(134)は募集人員が 3 人になった 2021 年度以降は連続大幅増加、志願倍率も 12.7 倍→17.0 倍にアップ。(森林科学)(118)は前年度増加に引き続き大幅増加。

京都府立医科大：医(医)は大幅増加、医(看護)は大幅減少で前期のみ募集になって以降では最少 前期：+44 人



**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体で前期のみの募集。医(医)は、65 人(123)の大幅増加。一方で医(看護)は、21 人(73)の大幅減少。

<前期日程>

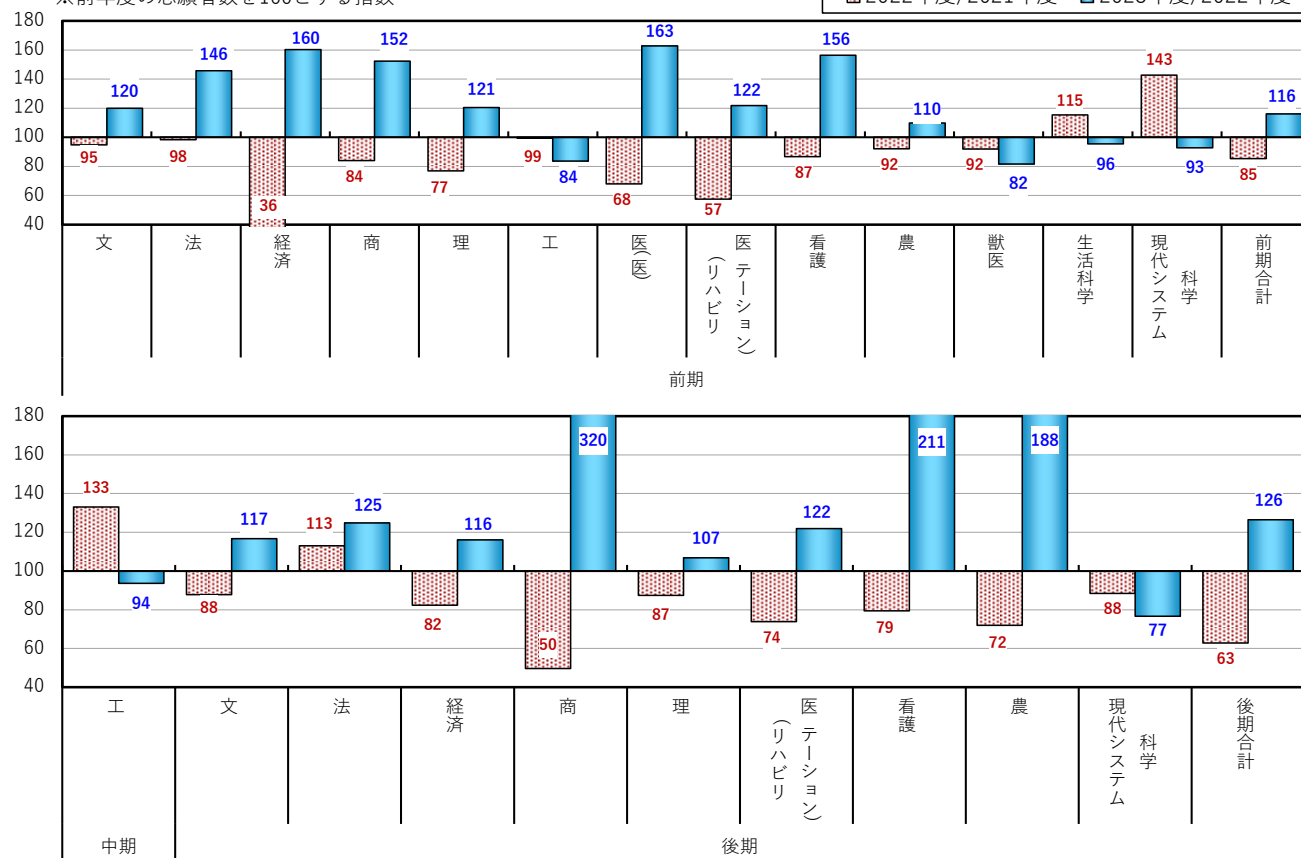
- 医(医)(123)**は、大幅増加で 3 年連続増加。志願者数は 7 年ぶりに 350 人を上回った。なお、2 段階選抜が実施され、第 1 段階選抜の合格率は 85.2%だった。
- 医(看護)(73)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率は 1.8 倍→1.3 倍にダウンし、2013 年度に前期のみの募集になって以降では、最も低くなった。

大阪公立大：全体の志願者数は国公立大で2年連続全国最多

前期：+759人 中期：-393人 後期：+598人

※前年度の志願者数を100とする指数

■ 2022年度/2021年度 ■ 2023年度/2022年度



**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、964人(107)のやや増加で、全国の国公立大で2年連続最多の志願者数となった。2021年度以前の旧大阪市立大と旧大阪府立大の志願者数合計との比較では、4年ぶりに14,000人を上回った。前期は759人(116)の大幅増加で、志願者数は2年ぶりに5,000人台に戻った。共通テストの平均点アップと大学統合が周知された影響。中期は工のみの募集だが、前年度大幅増加の反動は小さく、393人(94)のやや減少。後期は598人(126)の大幅増加だが、前年度大幅減少を取り戻すまでの増加はなかった。共通テストの平均点アップの影響から目標ラインのより高い大学への強気な出願動向の影響があった。

<前期日程>

- 文(120)は、2021年度以前は旧大阪市立大・文との比較で、3年連続減少の反動で大幅増加。
- 法(146)は、2021年度以前は旧大阪市立大・法との比較で、2年連続減少反動と共通テストの平均点アップの影響で50%近い大幅増加。
- 経済(160)は、2021年度以前は旧大阪市立大・経済と旧大阪府立大・現代システム科学域(マネジメント学類)の合計との比較で、前年度60%以上の激減だった反動で激増。
- 商(152)は、2021年度以前は旧大阪市立大・商との比較で、2年連続大幅減少だった反動で、50%以上の大幅増加。
- 理(121)は、2021年度以前は旧大阪市立大・理と旧大阪府立大・生命環境科学域(理学類)の合計との比較で、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、6学科すべてが増加で、(生物)(178)、(地球)(162)が激増、(生物化)(134)が大幅増加。
- 工(84)は、2021年度以前は旧大阪市立大・工との比較では、大幅減少。学科別では、大幅な増減が目立った。12学科中3学科が増加で、いずれも大幅増加。その他の9学科は減少で、(建築)(87)、(都市)(87)を除く7学科は大幅減少。
- 医(医)(163)は前期のみ募集。2021年度以前は旧大阪市立大・医(医)との比較では、前年度30%以上の大幅減少の反動で60%を超える激増。志願倍率は1.9倍→3.1倍にアップ。共通テストの平均点アップの影響による強気な出願動向も影響。
- 医(リハビリテーション)(122)は、2021年度以前は旧大阪府立大・地域保健学域(総合リハビリテーション学類)との比較では、前年度40%以上の大幅減少の反動で大幅増加。専攻別では、(リハビリテーション/理学療法)(151)は大幅増加、(リハビリテーション/作業療法)(91)は減少と対照的。
- 看護(156)は、2021年以前は旧大阪市立大・医(看護)と旧大阪府立大・地域保健学域(看護学類)の合計との比較では、3年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率は2.3倍→3.6倍にアップ。
- 農(110)は、2021年度以前は旧大阪府立大・生命環境科学域(応用生命科学類、緑地環境科学類)の合計との比較では、前年度減少の反動で増加。学科別では、(応用生物科学)(133)が大幅増加、一方で(生命機能化)(95)がやや減少。
- 獣医(82)は前期のみ募集。2021年度以前は旧大阪府立大・生命環境科学域(獣医学類)との比較では、大幅減少で2年連続減少。
- 生活科学(96)は前期のみ募集。2021年度以前は旧大阪市立大・生活科学との比較では、2年連続増加の反動は小さくやや減少。募集単位別では、(人間福祉)(85)は大幅減少、(食栄養)<均等型>(91)は減少。一方で(食栄養)<理数重点型>(103)はやや増加。

○現代システム科学域(93)は、2021 年度以前は旧大阪府立大・現代科学システム科学域(知能情報システム学類、環境システム学類)と旧大阪府立大・地域保健学域(教育福祉学類)の合計との比較では、前年度 40%以上の大幅増加の反動は小さくやや減少。募集単位別では 10 募集単位で増減が 5 募集単位ずつ。増加では、(環境社会システム学類)<理・数型>(127)、(心理学類)<英・国型>(125)、(知能情報システム学類)(115)が大幅増加、一方減少では、(学域単位募集)<英・小論文>(48)、(環境社会システム学類)<英・国型>(50)はいずれもほぼ半減、(教育福祉学類)(76)、(学域単位募集)<英・数型>(85)はいずれも大幅減少。

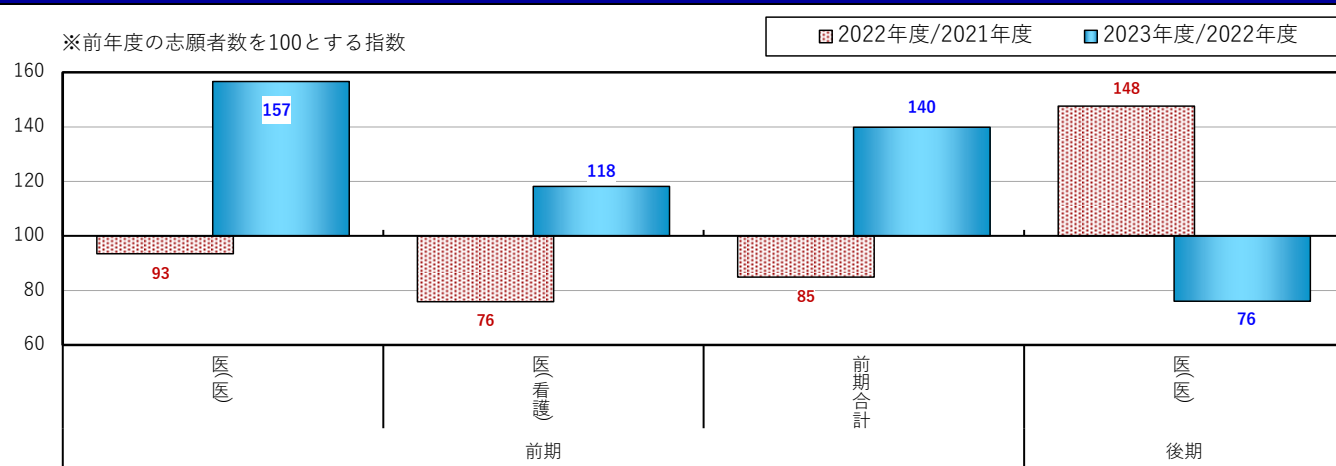
<中期日程>

○工(94)は、2021 年度以前は旧大阪府立大・工学域との比較では、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学科別では、12 学科中 9 学科が減少。特に(電気電子システム工)(81)、(化学バイオ工)(84)は大幅減少。一方で、(海洋システム工)(117)は大幅増加。

<後期日程>

○文(117)は、2021 年度以前は旧大阪市立大・文との比較で、2 年連続減少の反動で大幅増加。  
 ○法(125)は、2021 年度以前は旧大阪市立大・法との比較で、大幅増加で 2 年連続増加。  
 ○経済(116)は、2021 年度以前は旧大阪市立大・経済との比較で、前年度大幅減少の反動で大幅増加。  
 ○商(320)は、2021 年度以前は旧大阪市立大・商との比較で、前年度半減で 3 年連続減少だった反動で 3.2 倍増。志願倍率は→3.9 倍→12.4 倍に大幅アップ。  
 ○理(107)は、2021 年度以前は旧大阪市立大・理と旧大阪府立大・生命環境科学域(理学類)の合計との比較で、前年度減少の反動でやや増加。学科別では、6 学科中 4 学科が増加ですべて大幅増加。特に(生物化)(200)、(地球)(191)はほぼ倍増。一方で、(数)(85)は大幅減少。  
 ○医(リハビリテーション)(122)は、2021 年度以前は旧大阪府立大・地域保健学域(総合リハビリテーション学類)との比較では、前年度大幅減少の反動で大幅増加。専攻別では、(リハビリテーション/理学療法学)(133)は大幅増加、(リハビリテーション/作業療法)(112)は増加。  
 ○看護(211)は、2021 年度以前は旧大阪府立大・地域保健学域(看護学類)との比較では、2 年連続大幅減少の反動で倍以上。志願倍率は 4.7 倍→9.8 倍にアップ。  
 ○農(188)は、2021 年度以前は旧大阪府立大・生命環境科学域(応用生命科学類、緑地環境科学類)の合計の比較では、前年度大幅減少の反動で激増。学科別では、3 学科のいずれも大幅増加、特に(応用生物科学)(304)は 3 倍以上。  
 ○現代システム科学域(77)は(学域募集)のみで、2021 年度以前は旧大阪府立大・現代科学システム科学域と旧大阪府立大・地域保健学域(教育福祉学類)の合計との比較では、大幅減少で 2 年連続減少。志願倍率 7.9 倍→6.0 倍にダウン。

奈良県立医科大：医(医)<前><後>、(看護)<前>はいずれも反動で増減 前期：+101 人 後期：-314 人



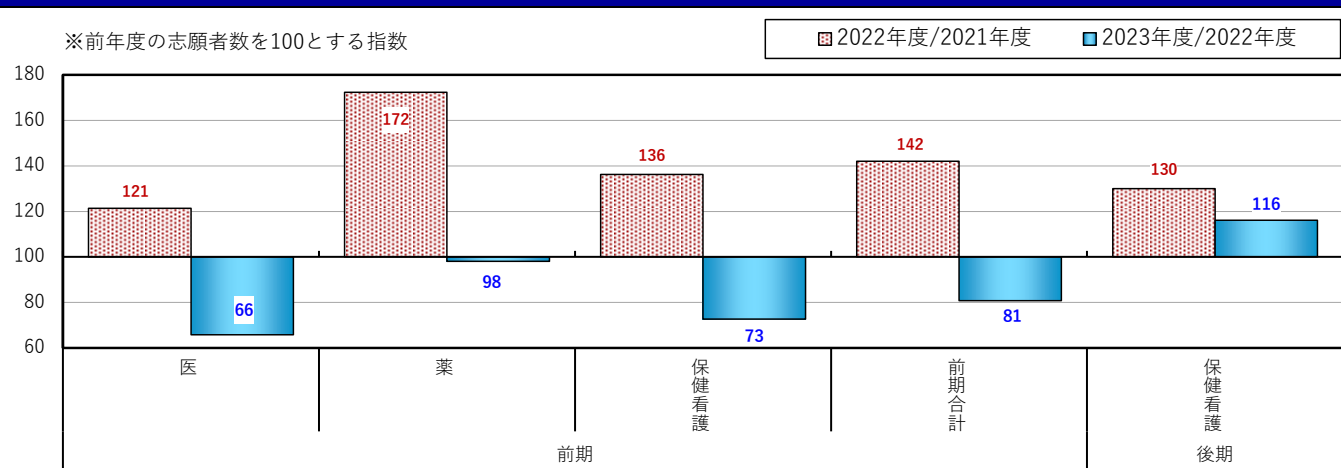
COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

前期は、医(医)は 81 人(157)の大幅増加で 4 年ぶりに増加、(医)(看護)は 20 人(118)の大幅増加。後期は、医(医)のみの募集だが、前年度大幅増加の反動で 314 人(76)の大幅減少。志願倍率も 24.7 倍→18.8 倍にダウン。なお、2 段階選抜が実施され第 1 段階選抜の合格率は 74.5%。

<前期日程>

○医(医)(157)は、3 年連続減少の反動で大幅増加、志願者数は 4 年ぶりに 200 人を上回った。志願倍率も 6.5 倍→10.2 倍にアップし 6 年ぶりに 10 倍を上回った。  
 ○医(看護)(118)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。方式別では、<一般枠>(130)は前年度大幅減少の反動に加えて、共通テスト：個別試験が 700 点：200 点と共通テスト重視の配点で、個別試験は面接、小論文 I で教科試験がないので、共通テストの平均点アップにより大幅増加。志願倍率も 1.8 倍→2.4 倍にアップ。一方で、<地域枠>(95)は個別試験でさらに小論文 II が課される負担増からやや減少で 3 年連続減少、志願者数は 2 年連続で 40 人を下回った。

和歌山県立医科大：前期は医、保健看護が反動で大幅減少 前期：-145人 後期：+21人



**主な入試変更点**  
 募集人員：医<前>…(一般枠)64人程度→(一般枠)64人程度、(県民医療枠)15人程度→(県民医療枠A)10人程度、(県民医療枠C)2人程度  
 ※県民医療枠A：従来の県民医療枠  
 ※県民医療枠C：新設…(不足診療科枠)和歌山県内で不足する産科、小児科、精神科の医師を育成する募集枠  
 第1段階選抜基準変更：医<前>…約3.3倍→共通テストの合計が900点満点中630点以上の者のうちから、募集人員の約3.4倍(共通テストの中間発表時点の平均点により630点未満でも合格とする場合がある)

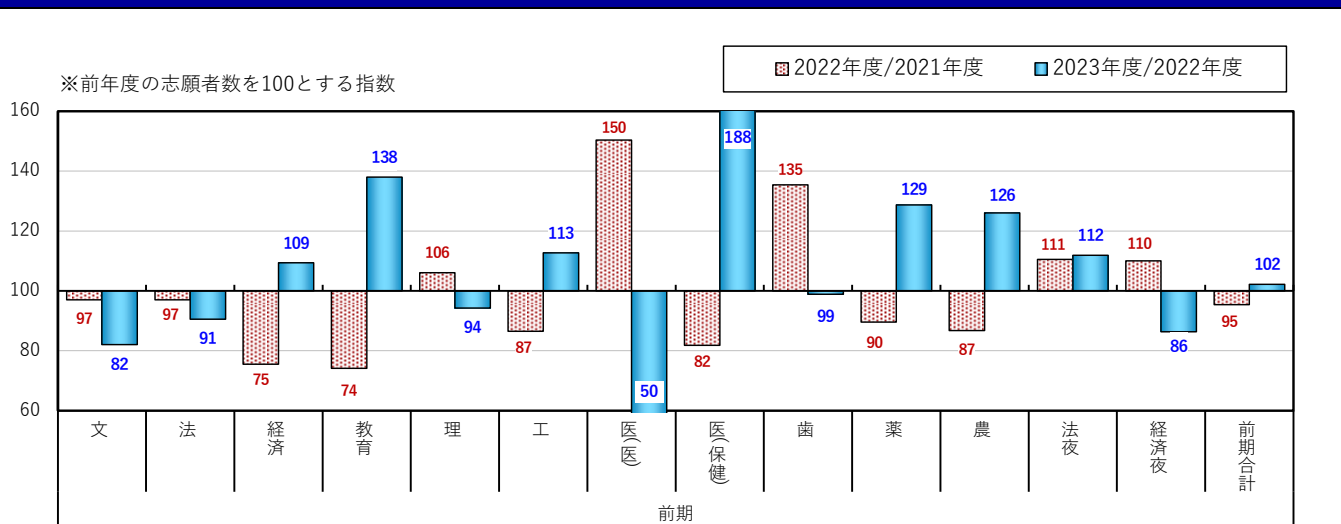
**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

前期は、医は2年連続大幅増加の反動で101人(66)の大幅減少、保健看護も2年連続大幅増加の反動で38人(73)の大幅減少、薬は6人(98)の微減。後期は、保健看護のみの募集だが、21人(116)の大幅増加で2年連続大幅増加。

<前期日程>

- 医(66)**は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少、志願倍率も3.7倍→2.6倍にダウン。新方式の<県民医療枠C>は、志願者数10人、志願倍率5.0倍で、募集枠別では最も高倍率。
- 保健看護(73)**は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少、志願倍率も3.5倍→2.5倍にダウン。
- 薬(98)**は、新設3年目だが系統への高い人気から前年度70%以上の激増の反動は小さく、微減に留まった。志願倍率も2年連続で4.5倍前後。

岡山大：大学全体では後期廃止で大幅減少、前期のみでは微増 前期：+74人



**主な入試変更点**  
 第1段階選抜基準変更：医(医)<前>…4倍(通過予定人数：392人)→3倍(通過予定人数：285人)  
 選抜方法：後期日程廃止  
 募集人員：後期日程廃止に伴う前期募集人員変更  
 文…118人→120人      法…140人→152人      経済…>131人→143人  
 医(医)…98人→95人      医(保健/看護学)…49人→53人  
 医(保健/放射線技術科学)…24人→27人      医(保健/検査技術科学)…<前>24人→28人  
 歯…30人→34人      薬(薬)…27人→28人  
 工(工/環境・社会基盤系)…57人→56人      工(工/情報・電気・数理データサイエンス系)…132人→143人

2023 年度入試状況分析【国公立大】

	工(工/化学・生命系)118人→123人      農…86人→82人 配点変更：医(保健/検査技術科学)…<共通>国<200>+歴公<100>+数2<200>+理2<200>+外<200>=総点<900> →国<100>+歴公<50>+数2<200>+理2<200>+外<200>=総点<750> 個別試験：医(保健/検査技術科学)…数+理医2+外→理2+(数 or 外) ※数、外は必須から選択へ
--	---

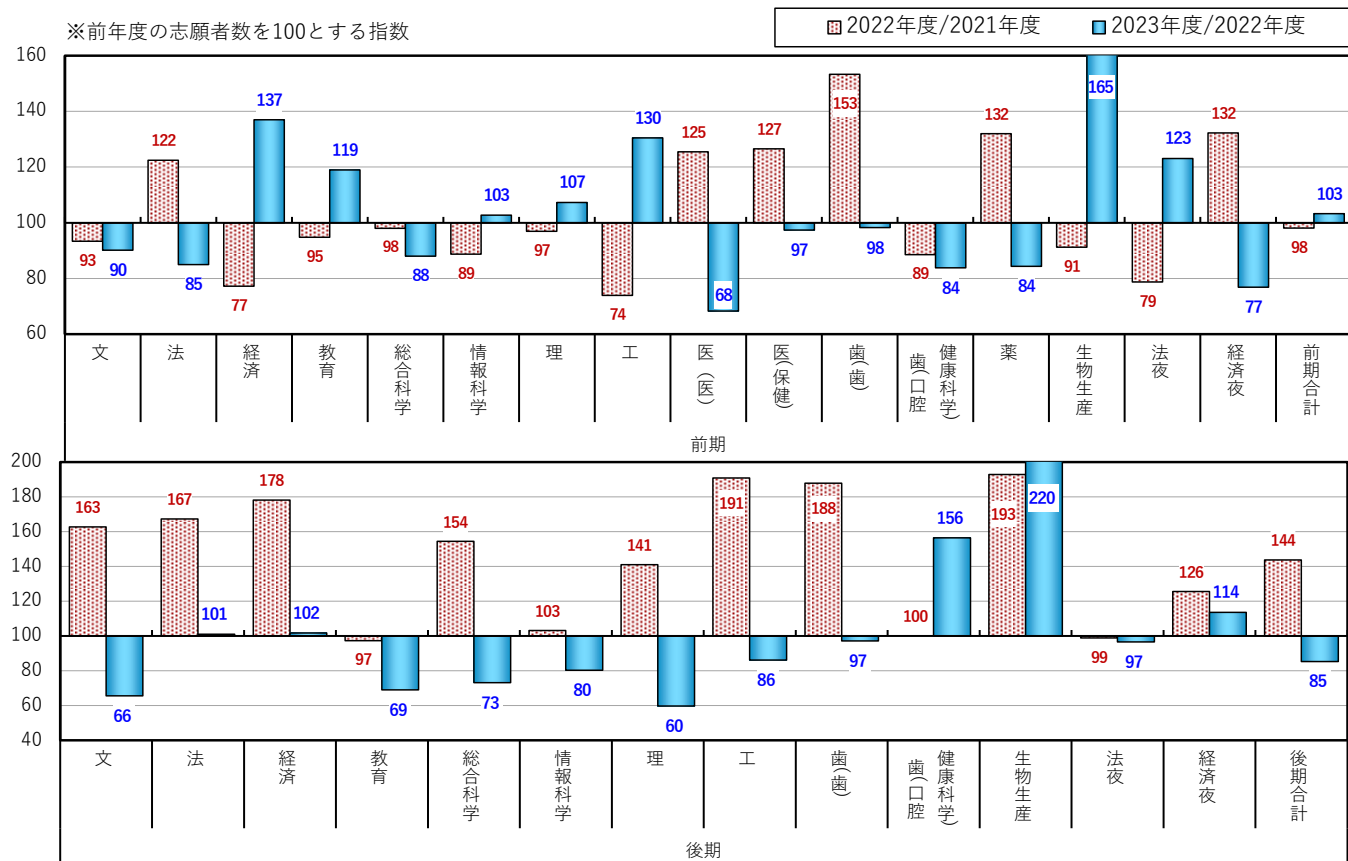
**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、後期廃止もあり 1,273 人(73)の大幅減少。前期のみでは 74 人(102)の微増だが、後期廃止に伴う前期募集人員増加により、前期志願倍率は 2.31 倍→2.28 倍にわずかにダウン。学部・学科別では、医(保健)(188)、教育(138)、薬(129)、農(126)は大幅増加。一方で、医(医)(50)、文(82)は大幅減少。なお、法夜(117)、経済夜(86)を除いても、78 人(102)の微増。

**<前期日程>**

- 文(82)**は、系統への低い人気もあって、大幅減少で 3 年連続減少。志願倍率は募集人員が 2%増加もあり 2.2 倍→1.8 倍にダウン。
- 法(91)**は、減少で 5 年連続減少。志願倍率は募集人員が 9%増加もあり 2.1 倍→1.8 倍にダウン。
- 経済(109)**は、前年度大幅減少の反動で増加だが、志願倍率は募集人員が 9%増加もあり 2.1 倍で前年度並。
- 教育(138)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。課程・専攻・教科別では、(養護教諭養成)(93)のみやや減少。他の課程・専攻・教科はいずれも増加で、特に、(学校教育教員養成/小学校教育)(162)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願者数は 4 年ぶりに 200 人を上回った。(学校教育教員養成/特別支援教育)(135)、(学校教育教員養成/中学校教育-実技系)(130)、(学校教育教員養成/幼児教育)(129)はいずれも大幅増加。
- 理(94)**は、やや減少。学科別では、(数)(149)は大幅増加、(生物)(107)はやや増加で 2 年連続増加。一方で、(地球科学)(57)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(化)(80)も大幅減少で志願者数は 6 年ぶりに 50 人を下回った。
- 改組 2 年目の**工(113)**は、増加。系別では、4 系列がいずれも増加。特に、(工/化学・生命)(119)は大幅増加だが、志願倍率は募集人員が 4%増加もあり 1.7 倍→1.9 倍のアップに留まった。(工/機械システム)(112)、(工/環境・社会基盤)(110)、(工/情報・電気・数理データサイエンス)(110)もいずれも増加。
- 医(医)(50)**は、前年度 1.5 倍の反動と第 1 段階選抜基準を 4 倍→3 倍が厳しくなったことで半減。志願倍率は募集人員が 3%減少にもかかわらず 5.5 倍→2.8 倍にダウンし、第 1 段階選抜基準倍率に達しなかった。
- 医(保健)(188)**は、前年度大幅減少の反動で激増。専攻別では、(保健/放射線技術科学)(203)、(保健/検査技術科学)(200)はいずれも前年度大幅減少の反動で倍増以上。(保健/看護学)(173)は 2 年連続大幅増加。
- 歯(99)**は、前年度大幅増加の反動はなく前年度並。志願倍率は募集人員が 13%増加もあり 2.9 倍→2.6 倍にダウン。
- 薬(129)**は、前年度減少の反動で大幅増加。学科別では、(薬)(156)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(創薬科学)(95)の志願者数は 3 人減少だが、3 年連続 50 人台。
- 農(126)**は、前年度減少の反動に加えて系統への高い人気もあって大幅増加。志願倍率は募集人員が 5%減少もあり 2.3 倍→3.0 倍にアップ。

広島大：前期はやや増加に留まる、後期は反動と併願動向変化で大幅減少 前期：+132人 後期：-413人



主な入試変更点

キャンパス移転：法…東広島キャンパス<東広島市>→東千田キャンパス<広島市中区>  
 第1段階選抜基準変更：医(医)<前>…7倍(通過予定人数：630人)→約5倍(通過予定人数：約450人)  
 合否判定基準変更：医(医)<前>…A配点(理科重視型)、B配点(一般型)  
 →A(s)配点(理科重視型)、A(em)配点(英数重視型)、B配点(一般型)  
 ：薬<前>…個別のいずれかの科目の得点が学科受験者の平均点の60%に満たない場合は、不合格とする  
 →個別の化の得点が学科受験者の平均点の60%に満たない場合は、不合格とする  
 選抜方法：後期日程廃止…教育(学校教育/初等教育教員養成、学校教育/特別支援教育教員養成  
 生涯活動教育/音楽文化系)  
 募集人員：教育(学校教育/初等教育教員養成)…<前>102人→100人  
 (学校教育/特別支援教育教員養成)…<前>19人→22人  
 (生涯活動教育/音楽文化系)…<前>13人→16人  
 情報科学…<前>72人→90人、<後>6人→10人 理(生物科学)…<前>27人→29人  
 工(第三類)…<前>90人→80人、<後>7人→10人  
 個別試験：理(化)<後>…理→面

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は共通テストの平均点アップによる難易度の高い国立大への強気な志願動向の影響から、3年連続減少の反動は小さく132人(103)のやや増加に留まった。学部・学科別では、生物生産(165)、経済(137)、工(130)は大幅増加。一方で、医(医)(68)、歯(口腔健康科学)(84)、薬(84)は大幅減少。後期は前年度が共通テストの平均点大幅ダウンの影響で難易度の高い前期国立大志願者の併願先として狙われたことで大幅増加したが、その反動と共通テストの平均点アップによる併願動向の変化で413人(85)の大幅減少。後期日程廃止の教育の3コースを除いても236人(91)の減少。学部・学科別では、生物生産(220)は倍増以上、歯(口腔健康科学)(156)は大幅増加。一方で、理(60)、文(66)、教育(69)、総合科学(73)は大幅減少。なお、法夜、経済夜を除いても、前期は139人(104)のやや増加、後期は418人(84)の大幅減少で大学全体動向と同じ。

<前期日程>

- 文(90)は、系統への低い人気もあって、2年連続減少。志願者数は2018年に募集人員が90人になって以降で最少、志願倍率も2.0倍→1.8倍にダウン。
- 法(85)は、前年度にすでに告知されていたキャンパス移転効果で大幅増加した反動で3年ぶりの大幅減少。
- 経済(137)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も1.8倍→2.5倍にアップ。
- 教育(119)は、3年連続減少の反動で大幅増加。コース別では、15コース中13コースで増加。(特別支援教育教員養成)(204)は2年連続減少の反動で倍増以上。(自然系)(182)は大幅増加で2年連続増加。(国語文化系)(168)は大幅増加で志願倍率は1.6倍→2.8倍で7年ぶりに2倍台になった。(造形芸術系)(167)は大幅増加で6年ぶりに志願者数が10人に達した。(人間生活系)(138)は前年度ほぼ半減の反動で大幅増加。(教育学系)(137)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(技術・情報系)(132)



は大幅増加で志願倍率も 2 年連続 2.2 倍→2.9 倍にアップ。一方で、(英語文化系)(88)は前年度大幅増加の反動で減少。(健康スポーツ系)(88)は前年度増加したが 2020 年度・2021 年度と同数の志願者数 30 人に減少。

- 総合科学(88)**は、減少で 4 年連続減少。学科別では、(国際共創)(66)は系統への低い人気に加えて、前年度増加の反動で大幅減少、(総合科学)(96)はやや減少で 4 年連続減少。
- 情報科学(103)**は、前年度減少の反動は小さくやや増加だが、志願倍率は募集人員の 25%増加で、2.5 倍→2.1 倍にダウン。
- 理(107)**は、やや増加で 3 年ぶりに増加。学科別では、(生物科学)(184)は 2 年連続大幅増加で志願倍率も 3 年ぶりに 3 倍を上回った。(地球惑星システム)(141)は前年度半減以下の反動で大幅増加。一方で、(化)(68)は 2 年連続増加の反動で大幅減少。
- 工(130)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。募集単位別では、入学時に 4 つの類に所属せずに、1 年次前期終了時点で成績と希望によって各類に配属される(工学特別)(347)は前年度激減して志願倍率が 1.4 倍の低倍率となった反動で 3.4 倍増以上、2020 年度以降は激減・激増の繰り返しが続く。類別募集では、(第四類)(91)は前年度大幅増加の反動で減少だが、これを除く 3 つの類はいずれも増加。特に、(第二類)(133)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(第三類)(125)は募集人員が 11%減少したが、前年度大幅減少の反動で大幅増加、志願倍率も 1.3 倍→1.8 倍にアップ。
- 医(医)(68)**は、2 年連続増加の反動に加えて、第 1 段階選抜基準を 7 倍→5 倍と厳しくしたことで大幅減少。
- 医(保健)(97)**は、やや減少。専攻別では、(保健/理学療法学)(110)、(保健/看護学)(103)はやや増加でいずれも 2 年連続増加。一方で、(保健/作業療法)(77)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 歯(歯)(98)**は、前年度大幅増加の反動はなく微減。
- 歯(口腔健康科学)(84)**は、大幅減少で 2 年連続減少。専攻別では、(口腔健康科学/口腔保健学)(81)は 2 年連続大幅減少で志願倍率は 3.0 倍→2.5 倍→2.0 倍と連続ダウン。(口腔健康科学/口腔工学)(88)は減少して、志願倍率は 1.8 倍と 2 倍を下回った。
- 薬(84)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、いずれも減少で、(薬)(83)は 2 年連続増加の反動で大幅減少、(薬科学)(90)は減少。
- 生物生産(165)**は、系統への高い人気に加えて 2 年連続減少の反動で激増。志願倍率も 1.4 倍→2.4 倍にアップ。

#### <後期日程>

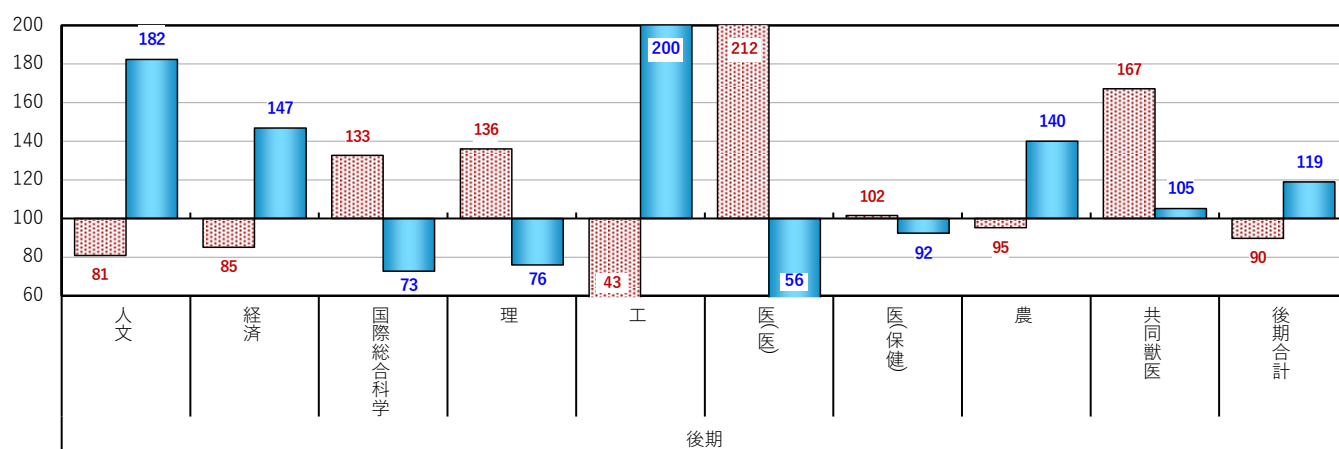
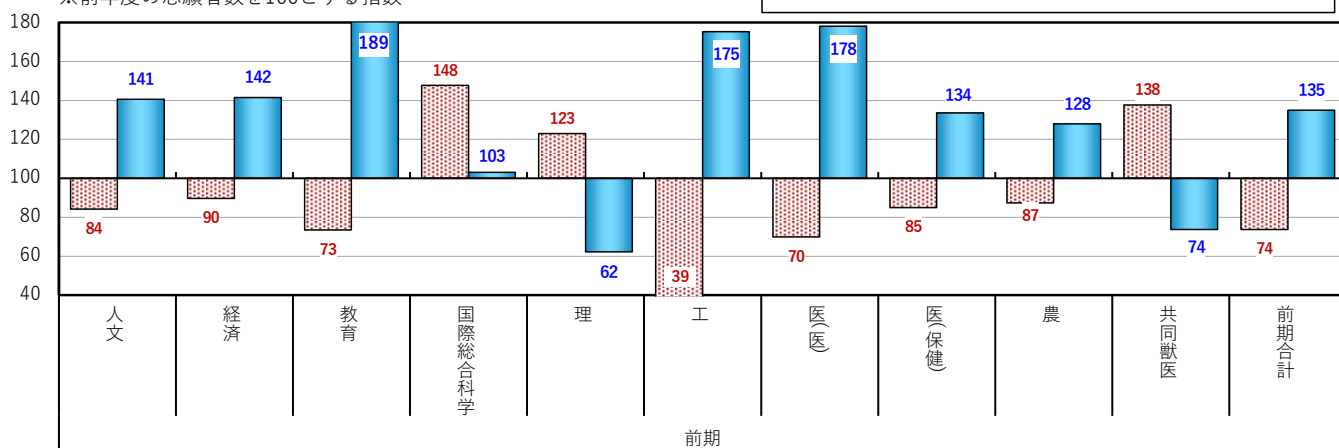
- 文(66)**は、2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も 10.9 倍→7.2 倍にダウン。
- 法(101)**は、2016 年度から続いていた大幅な増減が途切れ、変動は小さく前年度並。
- 経済(102)**は、前年度激増に引き続き微増。募集単位別では、いずれの募集単位も個別試験は小論文で、事実上合否は共通テストの成績で決まる。(理科系)(825)は前年度の共通テストで難化した数学が配点全体の 36%と大きな割合であることから敬遠され、志願者数がわずかに 8 人だったが、この反動と数学の易化で 8 倍増以上。一方で、(文科系)(75)は逆に数学が配点全体の 4.5%と小さな割合であることから前年度激増したが、この反動と配点全体の 36%を占める国語の難化から敬遠されて大幅減少。
- 教育(69)**は、大幅減少で 2 年連続減少だが、後期日程廃止の 3 コースを除くと (124)の大幅増加。コース別では、募集人員が 2 人から 5 人と少ないことから大幅な増減率になりやすく、募集を行った 9 コース中増加した 6 コースは全て大幅増加。特に、(数理系)(300)は 2 年連続大幅減少の反動で 3 倍、(自然系)(286)は前年度激減の反動で 2.8 倍増以上。(人間生活系)(225)も前年度大幅減少の反動で 2.2 倍増以上。一方で、(心理学系)(83)は 2 年連続大幅減少、(健康スポーツ系)(85)は前年度増加の反動で大幅減少。
- 総合科学(73)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も 12.6 倍→9.2 倍にダウン。
- 情報科学(80)**は、2021 年度の激増に引き続き、前年度も増加した反動で大幅減少。志願者倍率も 11.0 倍→5.3 倍にダウン。
- 理(60)**は、2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、4 学科全てが大幅減少で。特に、(化)(38)は 2 年連続大幅増加の反動に加えて、個別試験が面接のみとなったことで逆転が事実上難しくなったこともあって激減、志願倍率も 13.0 倍→5.0 倍にダウン。
- 工(86)**は、前年度ほぼ倍増の反動で減少。類別では、増減が 2 類ずつに分かれた。(第四類)(127)は大幅増加、(第三類)(108)は増加。一方で、(第二類)(62)は 2 年連続増加の反動で大幅減少、(第一類)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 歯(歯)(97)**は、前年度激増の反動は小さくやや減少。
- 歯(口腔健康科学)(156)**は、後期は(口腔健康科学/口腔工学)のみの募集。志願者数が 2 年連続の 39 人から大幅増加でほぼ 2020 年度の志願者数に戻り、志願倍率も 7.8 倍→12.2 倍にアップ。
- 生物生産(220)**は、個別試験は面接のみで、事実上合否は共通テストの成績で決まる。共通テストの平均点アップにより前年度ほぼ倍増の反動はなく、さらに 2.2 倍増。志願倍率も 4.2 倍→8.1 倍→17.8 倍と連続アップ。

山口大：前期、後期とも前年度減少の反動で大幅増加

前期：+908人 後期：+528人

※前年度の志願者数を100とする指数

■ 2022年度/2021年度 ■ 2023年度/2022年度

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度大幅減少の反動で908人(135)の大幅増加で、志願者数は3,500人を上回った。学部(医は学科)別では、教育(189)、医(医)(178)、工(175)は激増。後期は前年度減少の反動で528人(119)の大幅増加。2018年度以降前年度の反動による増減が継続。学部(医は学科)別では、工(200)は倍増、人文(182)は激増。一方で、医(医)(56)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。

## &lt;前期日程&gt;

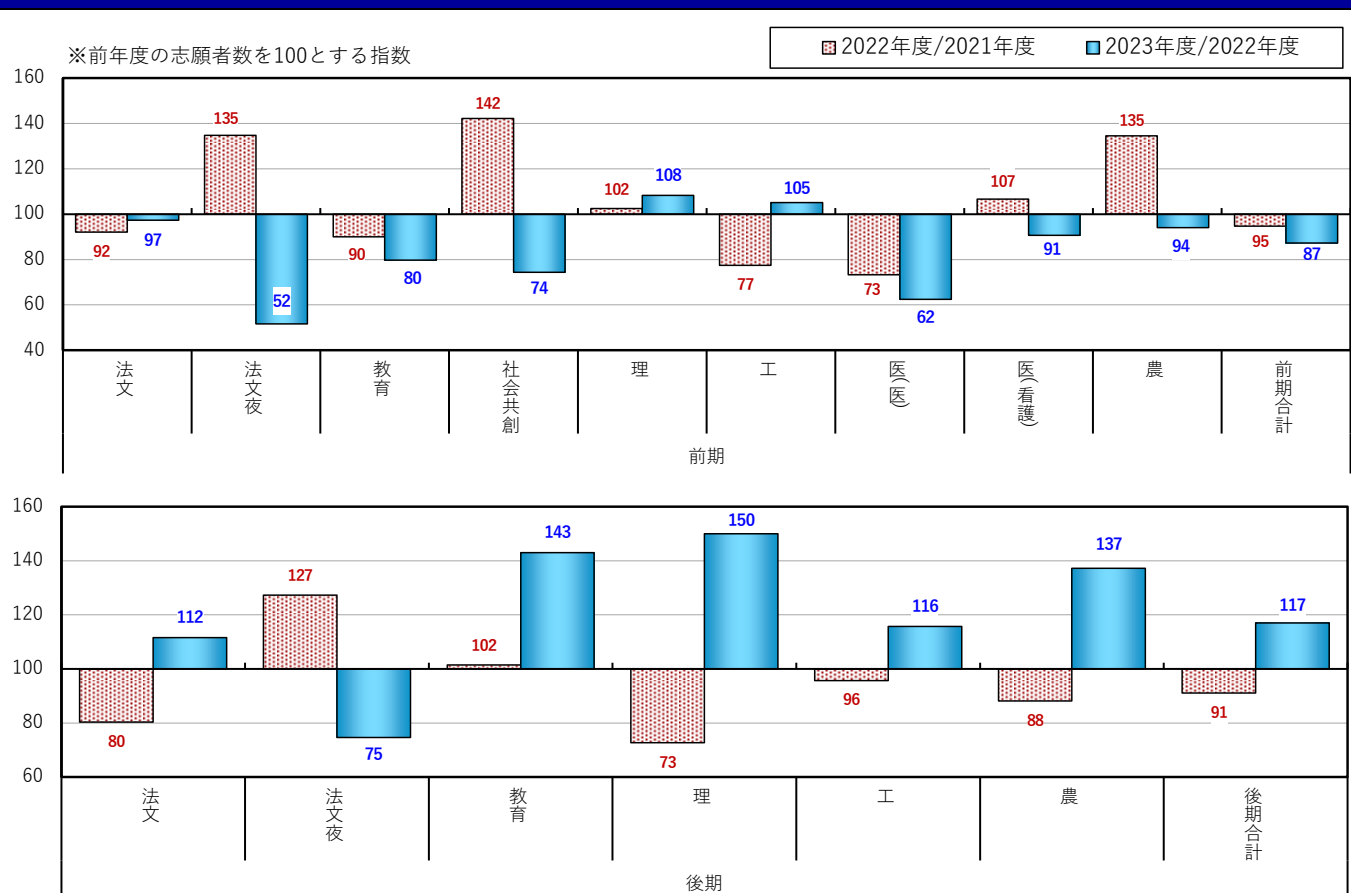
- 人文(141)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も2.3倍→3.3倍にアップ。
- 経済(142)は、3年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も1.7倍→2.4倍にアップ。
- 教育(189)は、前年度大幅減少の反動で激増。コース・選修別(以下「募集単位別」)では、17募集単位中15募集単位が増加。特に、(学校教育教員養成/教科教育-家政教育)(575)、(学校教育教員養成/小学校教育-教育学)(494)、(学校教育教員養成/小学校教育-小学校総合)(436)、(学校教育教員養成/教科教育-英語教育)(300)、(学校教育教員養成/小学校教育-国際理解教育)(210)はいずれも倍増以上の激増。一方で、(学校教育教員養成/教科教育-理科教育)(70)、(学校教育教員養成/教科教育-美術教育)(80)は2募集単位とも大幅減少。
- 国際総合科学(103)は、やや増加だが2年連続増加。
- 理(62)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、5学科全てが大幅減少で、特に、(物理・情報科学)(41)は前年度大幅増加の反動で6割近い大幅減少。
- 工(175)は、前年度激減の反動で激増。学科別では、7学科全てが大幅増加で、特に、(社会建設工)(307)は3倍以上、(電気電子工)(214)は倍以上。
- 医(医)(178)は、2年連続減少の反動で激増。志願倍率も3.9倍→6.9倍にアップ。
- 医(保健)(134)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。専攻別では、(保健/検査技術科学)(230)は前年度大幅減少の反動で倍以上。2019年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。一方で、(保健/看護学)(87)は2年連続減少。
- 農(128)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、2学科とも増加で、(生物資源環境科学)(163)は激増、(生物機能科学)(102)は微増。
- 共同獣医(74)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も4.5倍→3.3倍にダウン。

## &lt;後期日程&gt;

- 人文(182)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 経済(147)は、3年連続減少の反動で大幅増加。志願者数は4年ぶりに500人を上回った。
- 国際総合科学(73)は、2年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は、15.8倍→11.5倍にダウン。

- 理(76)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、5 学科中 4 学科で減少。唯一増加の(数理科学)(117)は 2 年連続大幅増加。一方で、(物理・情報科学)(49)、(化)(56)はいずれも前年度激増の反動でほぼ半減、(地球圏システム科学)(82)は大幅減少で 2 年連続減少。
- 工(200)は、前年度半減以下の反動で倍増。学科別では、全ての学科で大幅増加し、特に(社会建設工)(464)、(電気電子工)(323)、(循環環境工)(234)はいずれも前年度激減の反動で倍増以上。
- 医(医)(56)は、前年度倍増以上の反動で大幅減少。志願倍率も 45.0 倍→25.4 倍に大幅ダウン。
- 医(保健)(92)は、2 年連続増加の反動は小さく減少だが、志願倍率は 9 倍台を維持。専攻別では、(保健/検査技術科学)(158)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(保健/看護学)(68)は 2 年連続増加の反動で大幅減少。
- 農(140)は、4 年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、2 学科とも増加で、(生物機能科学)(181)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(生物資源環境科学)(109)は前年度大幅増加に引き続き増加。
- 共同獣医(105)は、前年度激増に引き続きやや増加。志願倍率も 9.7 倍→16.2 倍→17.0 倍とアップ。志願者数が 100 人を上回ったのは 2012 年度以来。

愛媛大：前期は 2 年連続減少、後期は 4 年連続減少の反動で大幅増加 前期：-343 人 後期：+320 人



**主な入試変更点**

募集人員：工<前>…324 人→321 人  
 共通テスト：教育(学校教育教員養成/初等教育、中等教育)<前>…国+数 2+外+[歴公+[理基 2 or 理 2 or(理+理基 2)]]→3  
 →国+数 2+外+{歴公+(理基 2 or 理 or 理・理基 2 or 理 2)}→3  
 個別試験：医(看護)<前>…論+面+グループディスカッション→論+面  
 (2021 年度、2022 年度は新型コロナウイルス感染症の影響でグループディスカッションは実施なし)

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 343 人(87)の 2 年連続減少。法文(人文社会/夜間主コース)(52)を除いても(89)の 2 年連続減少。後期は 4 年連続減少の反動で、320 人(117)の大幅増加。法文(人文社会/夜間主コース)(75)を除いても、4 年連続減少の反動で、(124)の大幅増加。

<前期日程>

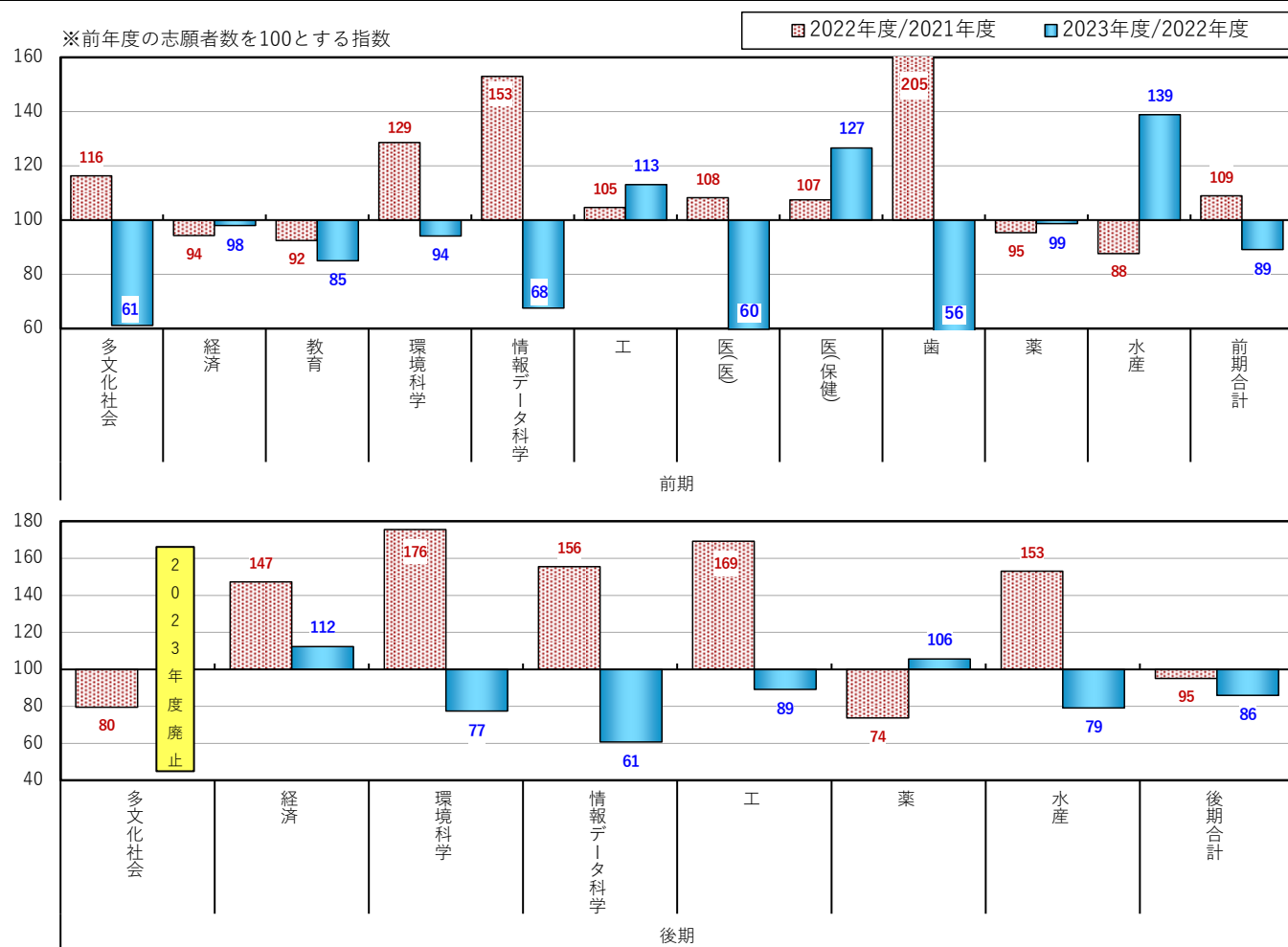
- 法文(人文社会/夜間主コース)(97)は、やや減少だが 2 年連続減少。志願者数は 3 年ぶりに 400 人を下回った。
- 教育(80)は、大幅減少で 2 年連続減少。コース・専攻別では、11 募集単位中 7 募集単位で減少。特に、(学校教育教員養成/中等教育-国語教育)(12)は前年度 5 倍以上の激増の反動で、ほぼ 9 割減の激減。(学校教育教員養成/中等教育-保健体育)(47)、(学校教育教員養成/中等教育-技術教育)(50)、(学校教育教員養成/中等教育-家政教育)(53)はいずれもほぼ半減。一方で、3 募集単位は大幅増加で、特に、(学校教育教員養成/中等教育-英語教育)(160)は前年度半減の反動で激増。
- 社会共創(74)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科・コース別では、6 募集単位中 4 募集単位が大幅減少。特に、(地域資源マネジメント/農山漁村マネジメント)(40)は前年度 2 倍以上の激増の反動で激減、(産業マネジメント)(56)も前年度 2.5 倍以上の激増の反動でほぼ半減。一方で、(産業イノベーション)(137)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。

- 理(108)は、2年連続増加。募集単位別では、5募集単位中4募集単位が増加。特に、(理/地学受験)(120)は前年度激増に続き大幅増加、(理/物理受験)(115)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 工(105)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。募集単位別では、(工/文理型入試(社会デザインコース))(131)は大幅増加、(工/理型入試(社会デザインコースを除く))(104)はやや増加。
- 医(医)(62)は、共通テスト英語の配点がリーディング:リスニング=9:1とリーディング重視のため、リーディング難化の影響もあって、2年連続大幅減少。志願者数は250人を下回り、志願倍率も9.7倍→7.1倍→4.4倍にダウン。
- 医(看護)(91)は、減少。志願倍率は3年連続2倍を下回った。
- 農(94)は、系統への高い人気もあって、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少。志願倍率は2年連続2倍台。学科別では、(生命機能)(139)は大幅増加で2年連続増加。一方で、(生物環境)(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(食料生産)(88)は前年度激増の反動で減少。

<後期日程>

- 法文(人文社会/屋間主コース)(112)は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 教育(143)は、(学校教育教員養成/初等教育-小学校)のみの募集だが、大幅増加で3年連続増加。志願倍率は13.5倍→19.3倍にアップ。
- 理(150)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。募集単位別では、<B(面接)>(168)、<A(数学)>(141)といずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。いずれも共通テスト重視の配点や教科試験がないことで、共通テストの平均点アップが大きく影響。
- 工(116)は、大幅増加。志願者数は5年ぶりに800人を上回った。募集単位別では、(工/文理型入試(社会デザインコース))(178)は激増、(工/理型入試(社会デザインコースを除く))(112)は増加。
- 農(137)は、2年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も3年ぶりに11倍台。学科別では、(食料生産)(188)は2年連続大幅減少の反動で激増、(生命機能)(167)は2年連続減少の反動で激増。一方で、(生物環境)(70)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

長崎大：前期は減少、後期は募集停止学部もあり2年連続減少 前期：-312人 後期：-221人



**主な入試変更点** 選抜方法：多文化社会…後期募集停止  
 経済(総合経済)<前>…配点B方式廃止  
 環境科学<後>…総得点が著しく低い者は不合格とすることがある  
 →総得点の得点率が原則として40%未満の者は不合格とする  
 水産(水産)<前>…2段階選抜廃止

	<p>…共通テストの得点は第1段階選抜でのみ利用し、個別試験の得点で合否を決定する →共通テストと個別試験の総得点で合否を決定する</p> <p>募集人員：教育(学校教育教員養成/中学校教育-理系)…&lt;前&gt;16人→14人                  情報データ科学(情報データ科学)…&lt;前&gt;70人→75人                  医(医)…&lt;前&gt;76人→71人                  (保健/理学療法)…&lt;前&gt;15人→24人                  水産(水産)…&lt;前&gt;45人→60人、&lt;後&gt;45人→30人</p> <p>共通テスト：薬(薬)&lt;後&gt;…数2&lt;200&gt;+理2&lt;200&gt;+外&lt;200&gt;=総点&lt;600&gt;                  →数2&lt;100&gt;+理2&lt;100&gt;+外&lt;100&gt;=総点&lt;300&gt;</p> <p>個別試験：水産(水産)&lt;前&gt;…数&lt;125&gt;+理&lt;125&gt;+ペーパーインタビュー&lt;20&gt;+調&lt;10&gt;=総点&lt;280&gt;                  →数&lt;400&gt;+理&lt;400&gt;+ペーパーインタビュー&lt;80&gt;+調&lt;20&gt;=総点&lt;900&gt;</p>
--	---

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

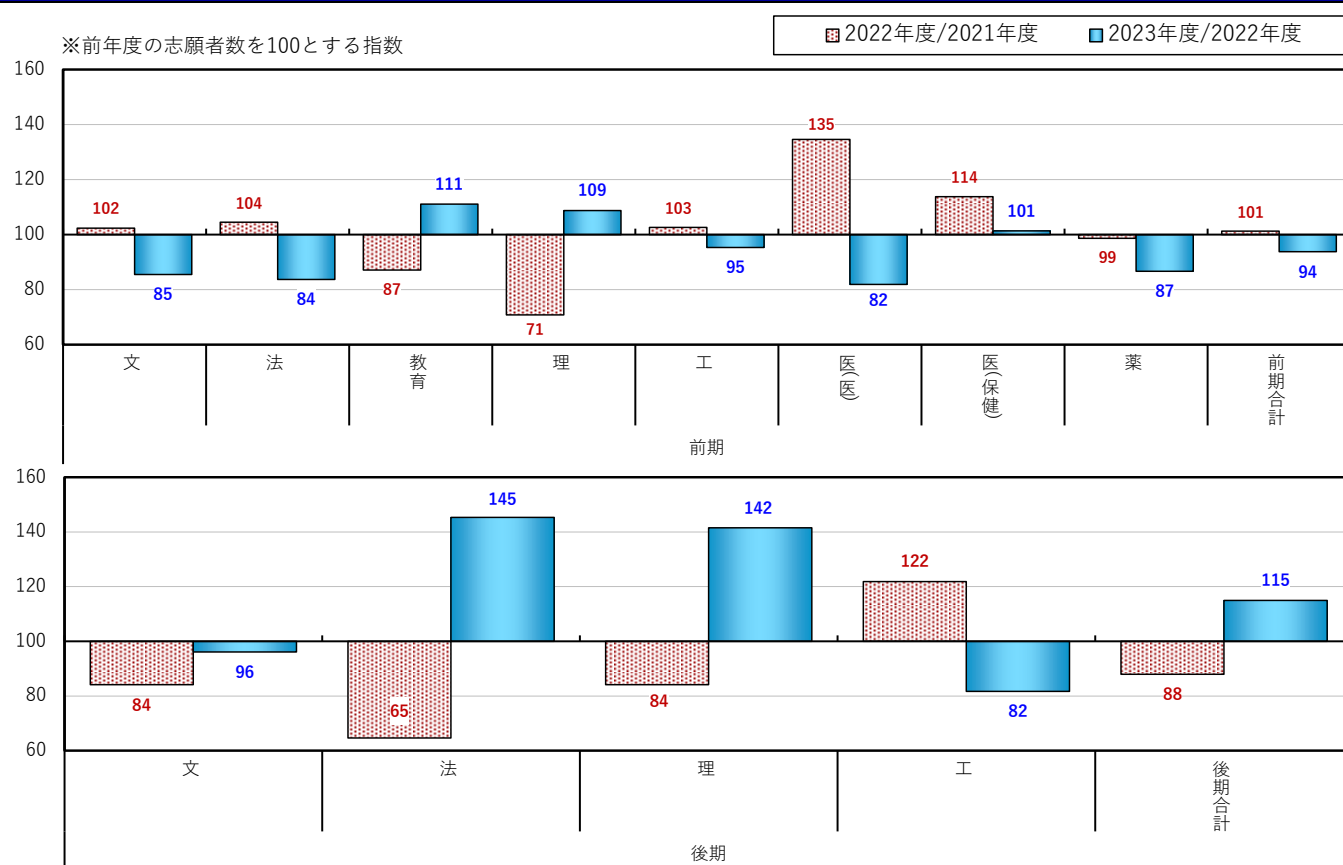
大学全体では、前期は前年度増加の反動で、312人(89)の減少。後期は221人(86)の減少で2年連続減少。後期募集停止の多文化社会を除くと124人(92)の減少で5年連続減少。なお、多文化社会<前>、薬(薬)<後>で2段階選抜が実施された。

- <前期日程>
- 多文化社会(61)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。募集単位別では、(多文化社会/オランダ特別以外)(61)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(多文化社会/オランダ特別)(67)は2年連続大幅減少。5年ぶりに志願者数が募集人員を下回った。
  - 経済(98)は、微減だが3年連続減少。
  - 教育(85)は、大幅減少で2年連続減少。コース・系別では、6募集単位中4募集単位が減少。特に、(学校教育教員養成/中学校教育-文系)(67)は大幅減少、(学校教育教員養成/小学校教育)(78)は大幅減少で2年連続減少。一方で、(学校教育教員養成/幼児教育)(131)は2年連続大幅増加、(学校教育教員養成/中学校教育-実技系)(107)は2年連続大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。
  - 環境科学(94)は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。選抜方法別では、<選抜方法A(文系)>(125)は大幅増加で3年連続増加。一方で、<選抜方法B(理系)>(71)は大幅減少で、2018年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。
  - 情報データ科学(68)は、前年度大幅増加の反動から大幅減少で、募集人員が7%増加したこともあり、志願倍率は2.6倍→1.6倍にダウン。2020年度の新設以降、前年度の反動による大幅な増減が継続。
  - 工(113)は、3年連続増加。2022年度から共通テスト重視配点の<a方式>と個別試験重視配点の<b方式>に分けての募集だが、<a方式>(107)はやや増加で志願倍率は1.4倍→1.5倍にアップ、<b方式>(118)は大幅増加で志願倍率も5.4倍→6.3倍にアップ。
  - 医(医)(60)は、募集人員の7%減少と2年連続増加の反動で大幅減少。志願者数は3年ぶりに300人を下回った。
  - 医(保健)(127)は、大幅増加で2年連続増加。専攻別では、3専攻全てが増加。(保健/理学療法)(152)は大幅増加だが、募集人員が60%増加したため、志願倍率は2.9倍→2.8倍にダウン。(保健/作業療法)(145)は2年連続大幅増加、(保健/看護学)(110)は増加。
  - 歯(56)は、前年度倍増以上の反動で大幅減少。志願倍率も6.8倍→3.8倍にダウン。
  - 薬(99)は、微減だが2年連続減少。学科別では、4年制の(薬科学)(122)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、6年制の(薬)(90)は2年連続増加の反動で減少。
  - 水産(139)は、4年連続減少の反動で大幅増加。募集人員が33%増加したので、志願倍率は2.7倍→2.8倍とほぼ変化はなかった。

- <後期日程>
- 経済(112)は、前年度大幅増加に引き続き増加。志願倍率は7.6倍→8.5倍にアップ。
  - 環境科学(77)は、前年度激増の反動で大幅減少。志願倍率も7.6倍→5.9倍にダウン。選抜方法別でも、<選抜方法B(理系)>(73)、<選抜方法A(文系)>(82)といずれも大幅減少。
  - 情報データ科学(61)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も9.3倍→5.7倍にダウン。2020年度の新設以降、前年度の反動による大幅な増減が継続。
  - 工(89)は、前年度激増の反動で減少。志願倍率は8.0倍→7.1倍にダウン。
  - 薬(106)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、6年制の(薬)(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、4年制の(薬科学)(90)は2年連続減少。
  - 水産(79)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。しかし、募集人員が33%減少なので、志願倍率は4.4倍→5.2倍にアップ。

熊本大：前期はやや減少、後期は反動で大幅増加

前期：-181人 後期：+144人



COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、37人(99)の微減で4年連続減少。前期は181人(94)のやや減少。学部・学科別では、教育(111)、理(109)はいずれも増加、一方で、医(医)(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、法(84)、文(85)はいずれも大幅減少。後期は144人(115)の大幅増加。学部別では、法(145)、理(142)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加、一方で、工(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

<前期日程>

- 文(85)は、大幅減少。学科別では、4学科中3学科で減少、(歴史)(129)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(コミュニケーション情報)(70)は前年度激増の反動で大幅減少、(文)(79)は2年連続大幅減少、(総合人間)(81)は大幅減少。
- 法(84)は、2年連続増加の反動で大幅減少。志願者数は10年ぶりに300人を下回った。
- 教育(111)は、増加。2019年度以降前年度の反動による増減が継続。課程・コース・専攻別では、(学校教育教員養成/初等・中等教育-理科)(150)、(学校教育教員養成/初等・中等教育-社会)(147)、(学校教育教員養成/初等・中等教育-小学校)(119)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。(学校教育教員養成/特別支援教育)(138)は大幅増加で改組前の2021年度以前を含めて4年連続増加。一方で、(学校教育教員養成/養護教育)(78)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(109)は、増加。2013年度以降前年度の反動による増減が継続。
- 工(95)は、やや減少だが、改組前の2018年度以前を含めると、2015年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、(情報電気工)(119)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(材料・応用化)(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(機械数理工)(91)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 医(医)(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率は5.1倍→4.2倍へダウン。
- 医(保健)(101)は、前年度並。専攻別では、(保健/放射線技術科学)(131)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(保健/検査技術科学)(67)は前年度増加の反動で大幅減少。志願倍率も2.8倍→1.9倍へダウン。
- 薬(87)は、減少。学科別では、2学科とも減少で、(創薬・生命薬科学)(59)は2年連続増加の反動で大幅減少、(薬)(97)はやや減少で募集人員が45人→40人となった2022年度に引き続き減少、志願者数は200人を下回った。

<後期日程>

- 文(96)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(総合人間)(101)は微増。一方で、(文)(87)は2年連続減少、(歴史)(98)は微減だが2年連続減少。
- 法(145)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 理(142)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も7.7倍→10.9倍へアップ。
- 工(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(土木建築)(106)は3年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。(材料・応用化)(57)、(機械数理工)(72)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。